

## 第3章 アンケート調査結果

### 1. 実施概要

○中学・高校・大学生、社会人、中学・高校、県内企業に対してアンケート調査を実施した。

各アンケート調査の調査時期、調査方法、対象先、回答数は下表のとおり。

カテゴリー	対象	回答数	実施時期
中学生	県内の公立中学校に在籍する全学年の生徒（県内39校から約10,200人を抽出）	8,683	令和5年8月28日 ～10月13日
高校生	県内の全県立高校に在籍する全生徒（136課程約79,400人）	62,266	令和5年8月28日 ～10月13日
大学生	県内にキャンパスがある大学の学生（学部3年生、5年生）（約27,000人）	1,135	令和5年9月15日 ～10月31日
社会人	県内高校卒業後の社会人（10年目まで）	276	令和5年10月6日 ～10月22日
	県内高校卒業し、大学卒業後の社会人（10年目まで）	213	令和5年10月6日 ～10月22日
中学校	県内の公立中学校56校（各市町村から1校ずつ抽出した54校及び県立2校）	56	令和5年8月28日 ～10月13日
高校	県内の全県立高校（136課程）	136	令和5年8月28日 ～10月13日
県内企業	県内に事業所がある企業12,000社	1,698	令和5年8月4日 ～8月28日

## 2. 調査結果の概要（調査結果の全容については、別添の各アンケート調査報告書を参照のこと）

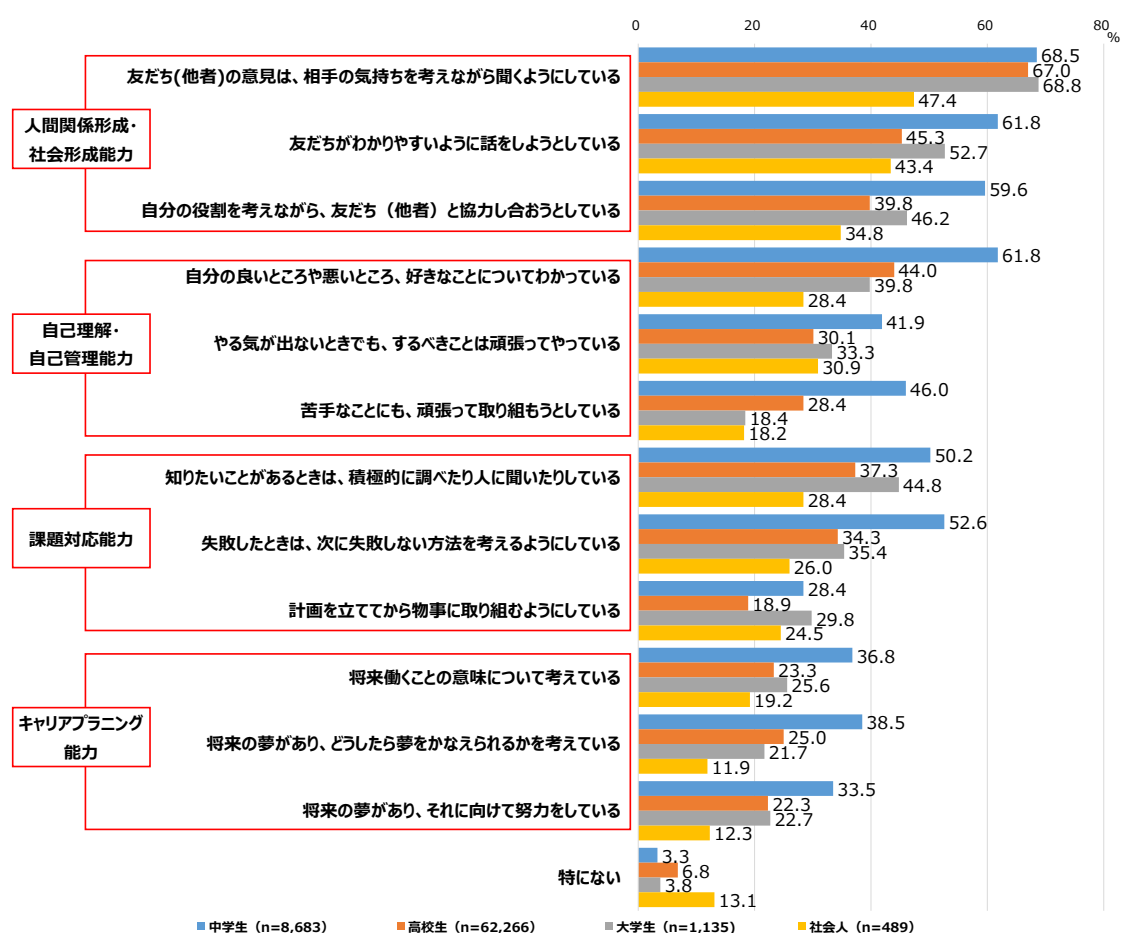
### （1）生徒・学生・社会人の自己認識・仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力

#### ア. 生徒・学生・社会人の自己認識（中・高・大・社）

##### （ア）基礎的・汎用的能力の自己認識

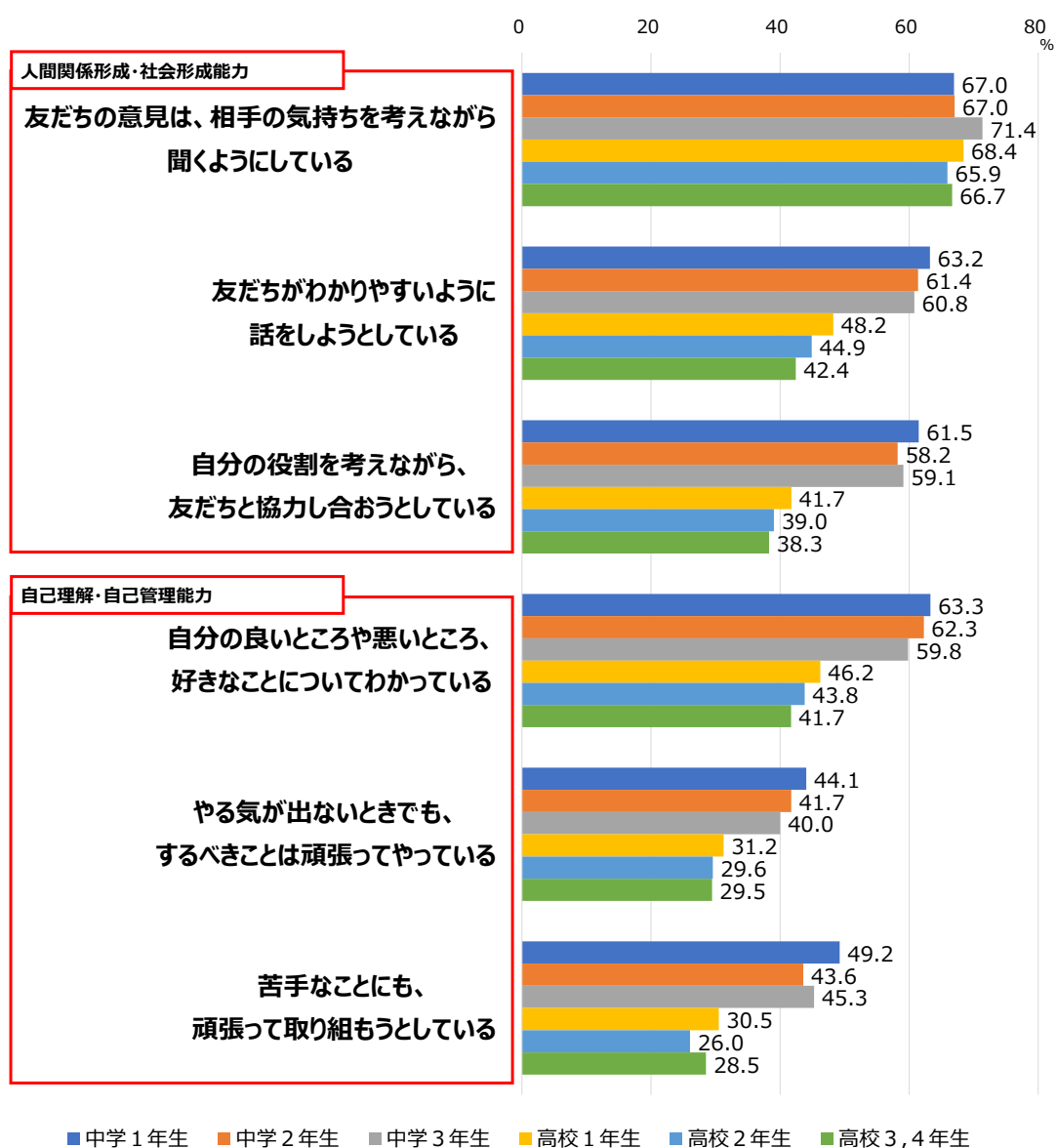
○基礎的・汎用的能力の自己認識について見ると、「友だち（他者）の意見は、相手の気持ちを考えながら聞くようにしている」がすべての対象で最も多い。4つの分類（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）で見ると、「人間関係形成・社会形成能力」が相対的に多い一方、「キャリアプランニング能力」は相対的に少ない。社会で生きていく上で他者と上手く関わる能力に比べて、自身の将来を考えどのように実現していくかを計画していく能力は相対的に低い水準に止まっている。

図表 5 基礎的・汎用的能力の自己認識

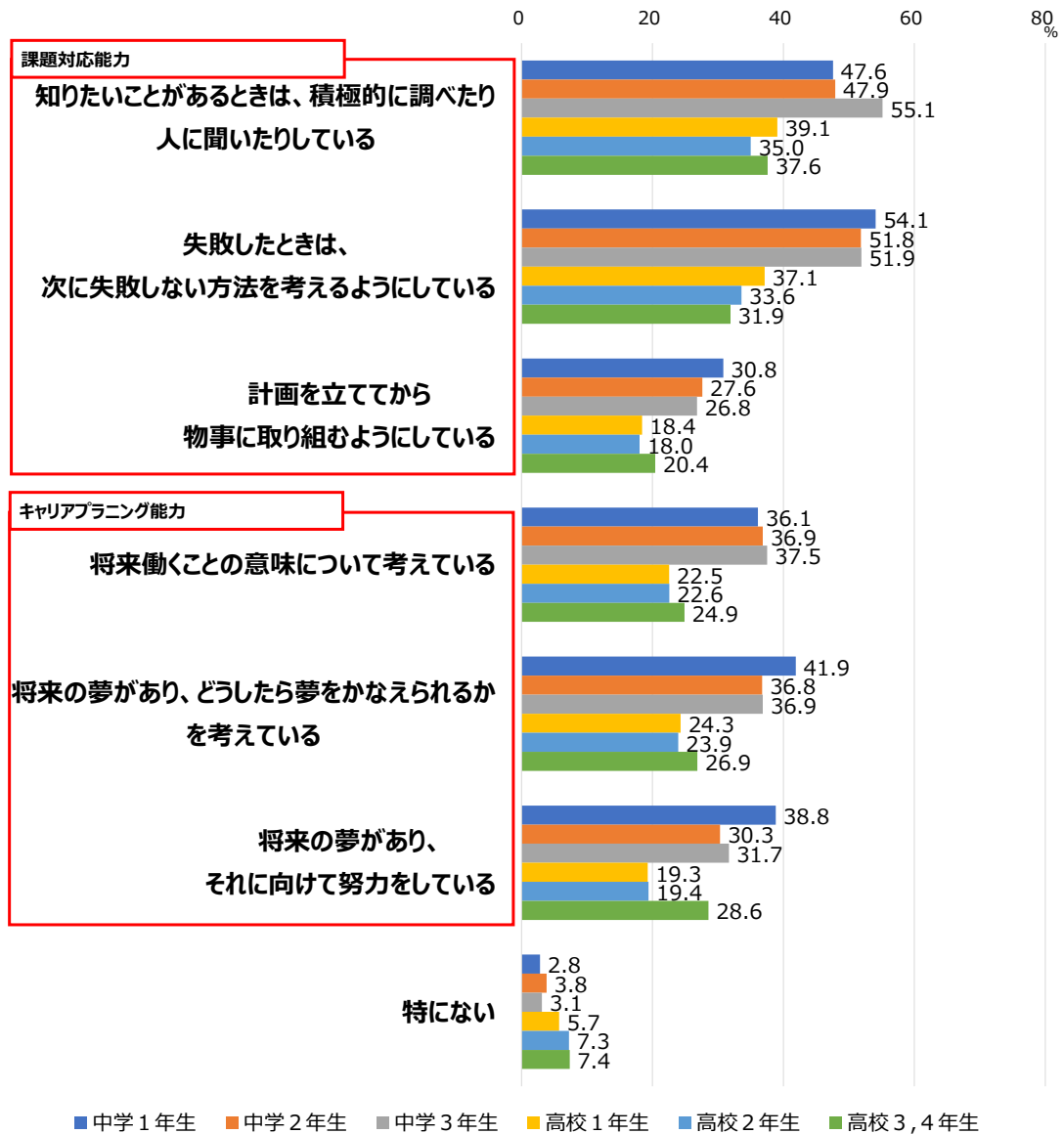


○これを中・高の学年別に見ると、いずれの項目も、中学生段階より高校生段階が大きく低下している。その背景としては、「人間関係形成・社会形成能力」では、自己の確立による他者との距離感の顕在化や仲間との活動機会の減少、「課題対応能力」や「キャリアプランニング能力」は、高校生になってネガティブ志向が強くなること、積極性が低下することなどが考えられる。

図表 6 基礎的・汎用的能力の自己認識  
(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、学年別集計)

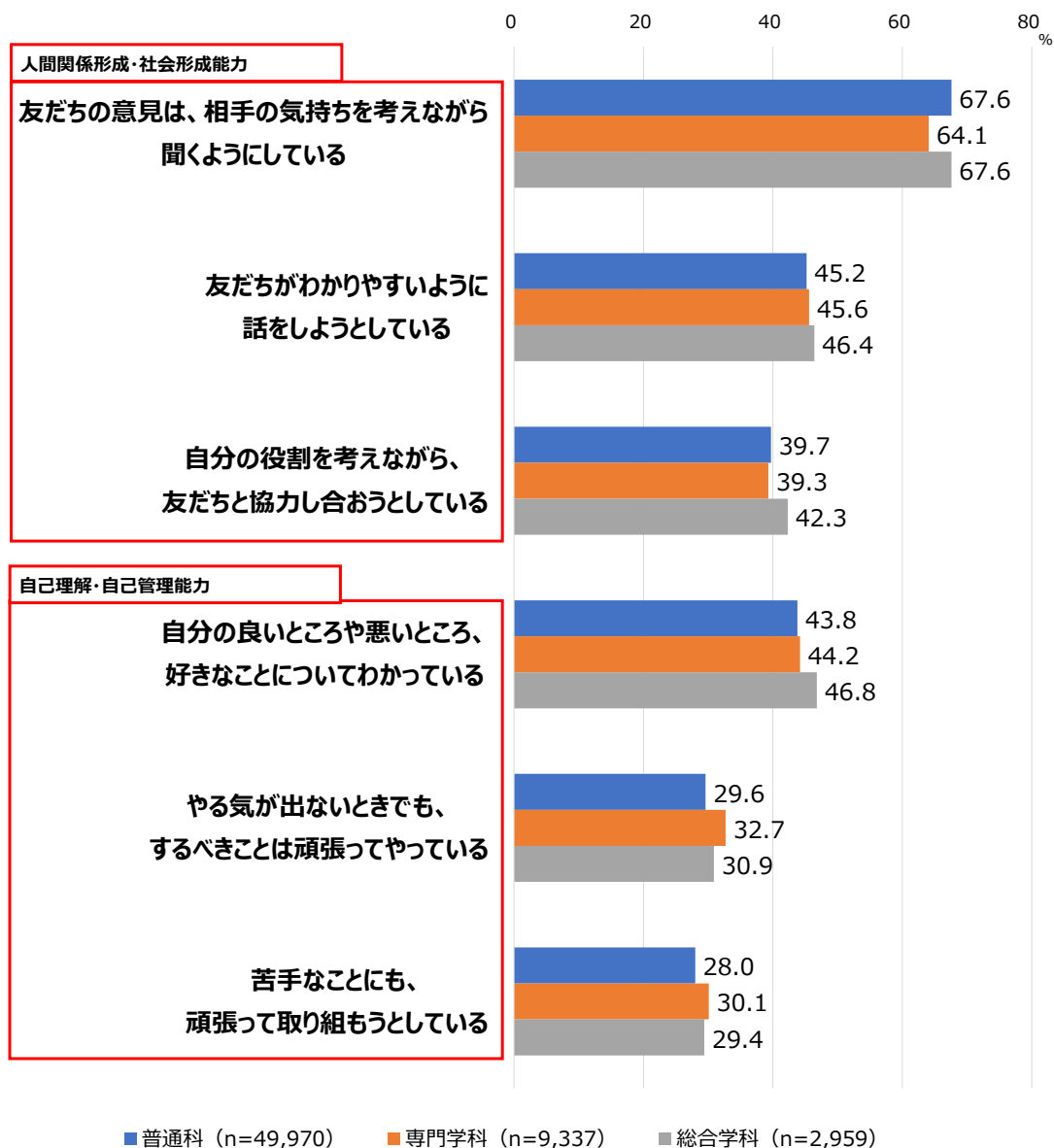


図表 7 基礎的・汎用的能力の自己認識  
 (課題対応能力、キャリアプランニング能力、学年別集計)



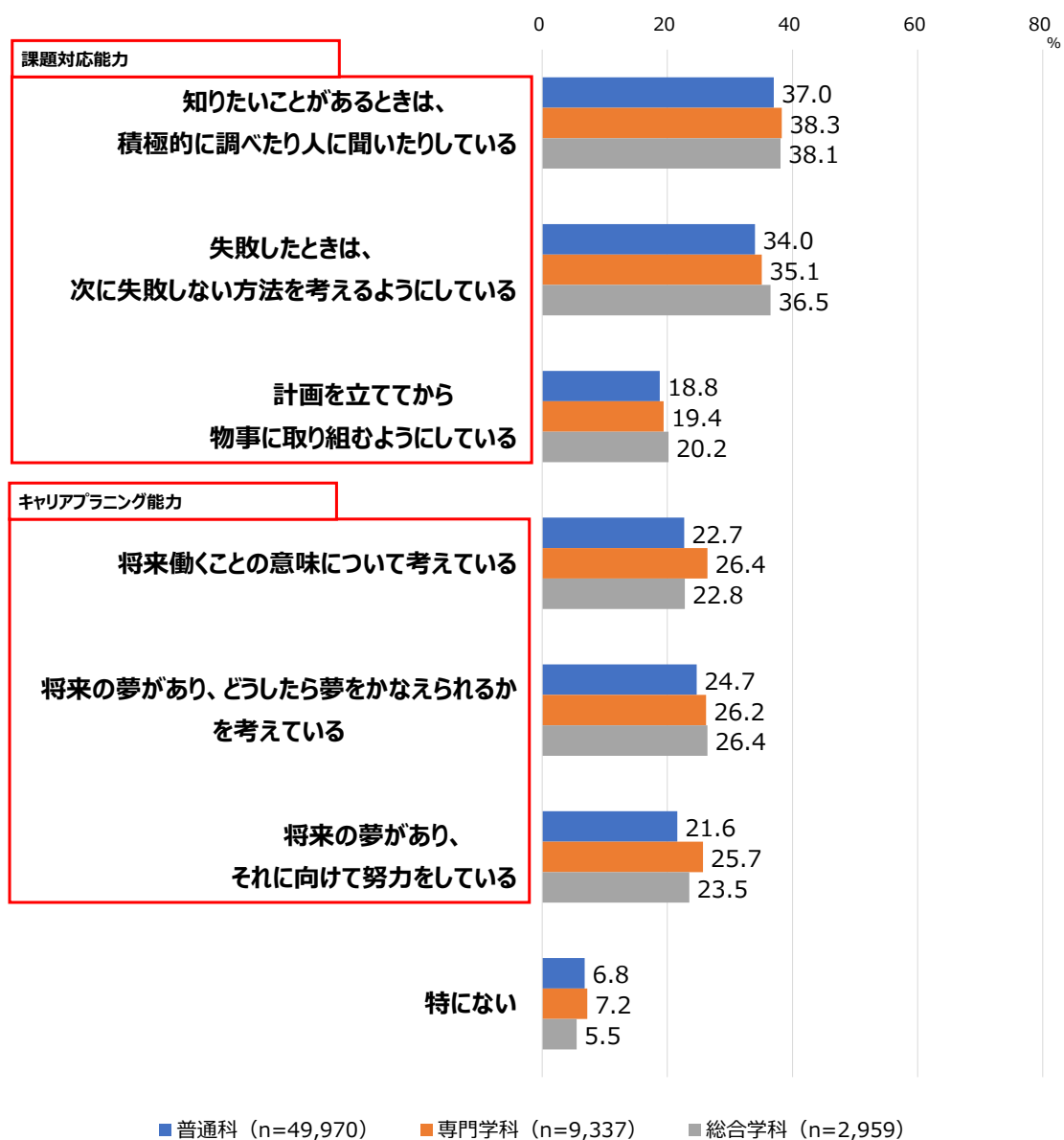
○また、高校の普通科、専門学科、総合学科の別に見ると<sup>4</sup>、全体で大差はないが、「キャリアプランニング能力」について専門学科の生徒の数値が若干高いように見受けられる。

図表 8 基礎的・汎用的能力の自己認識  
(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、在籍学科別集計)



<sup>4</sup> 総合学科は、普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒が自らの興味・関心や進路希望に応じて、主体的に科目を選択しながら学習できる単位制の学科であり、普通科、専門学科のどちらに近いかということなどを一概に分類できないため、単独で集計。

図表 9 基礎的・汎用的能力の自己認識  
 (課題対応能力、キャリアプランニング能力、在籍学科別集計)

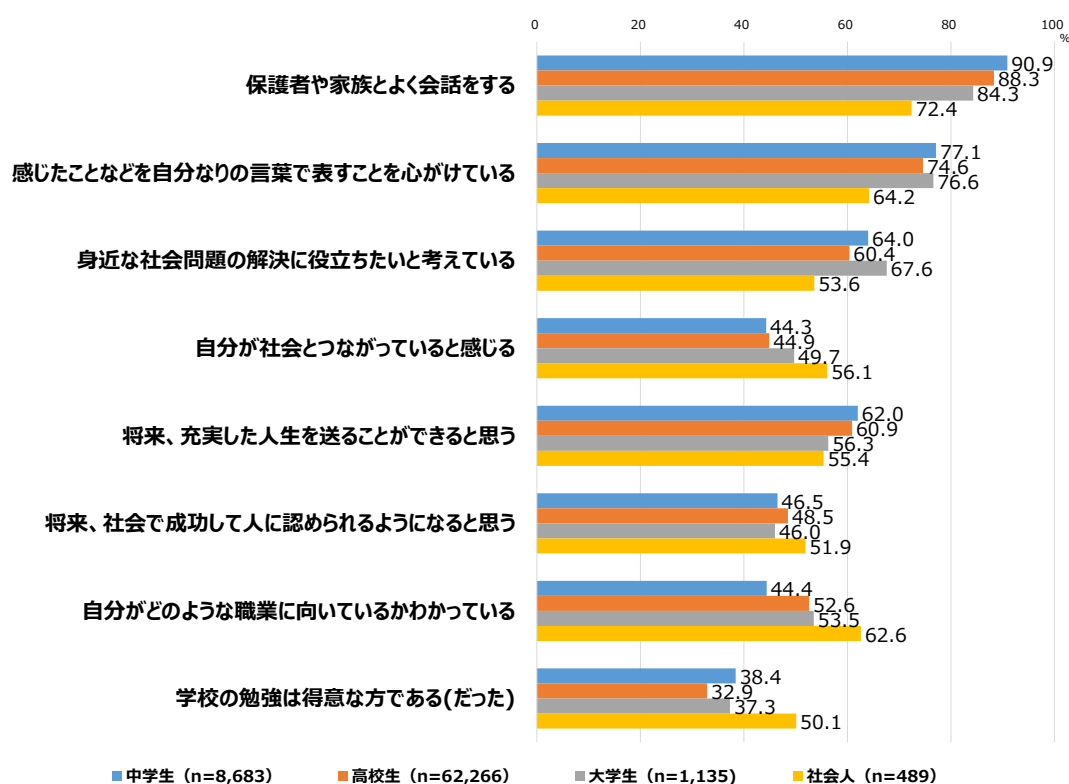


### (イ) 職業適性・社会認識・将来の展望等

○職業適性・社会認識・将来の展望等について、「そう思う（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）」を見ると、すべての対象で「保護者や家族とよく会話をする」が最も多い。中学生から大学生まで総じて保護者の影響力が大きく、中学生からの意識の変化は少ないことがわかる。

○また、「自分がどのような職業に向いているかわかっている」という職業適性については、中学生で約 4 割が認識しており、高校生・大学生・社会人にかけて増加傾向にあるが、社会人でも 6 割の水準に止まっている。

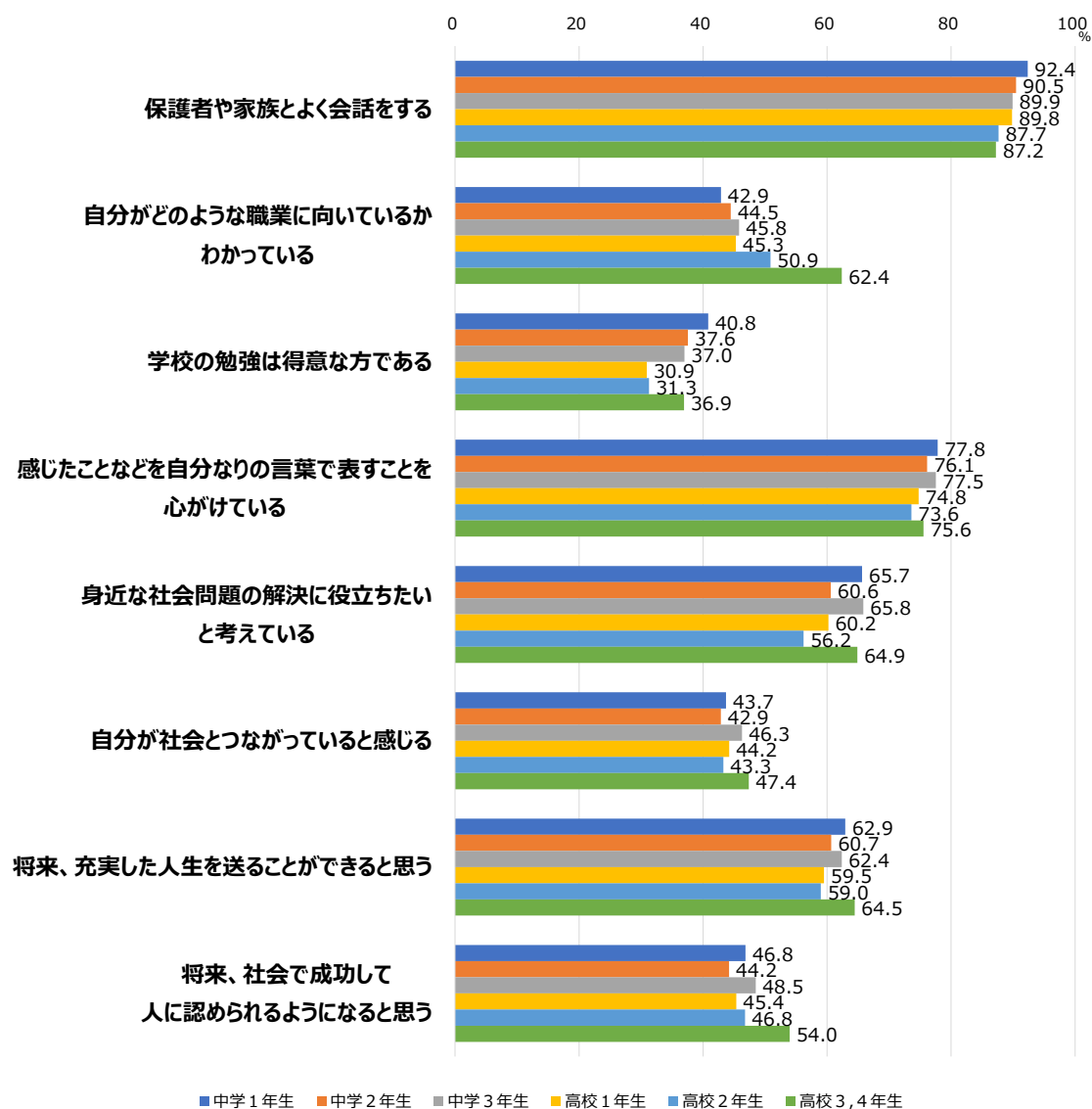
図表 10 職業適性・社会認識・将来の展望等



※「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」のうち、「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合（次表も同じ）

○これを、中・高の学年別に見ると、中学3年生と高校3年生の層が若干高くなる傾向が見られる。進学や就職など、次のステップを意識した結果と見られる。

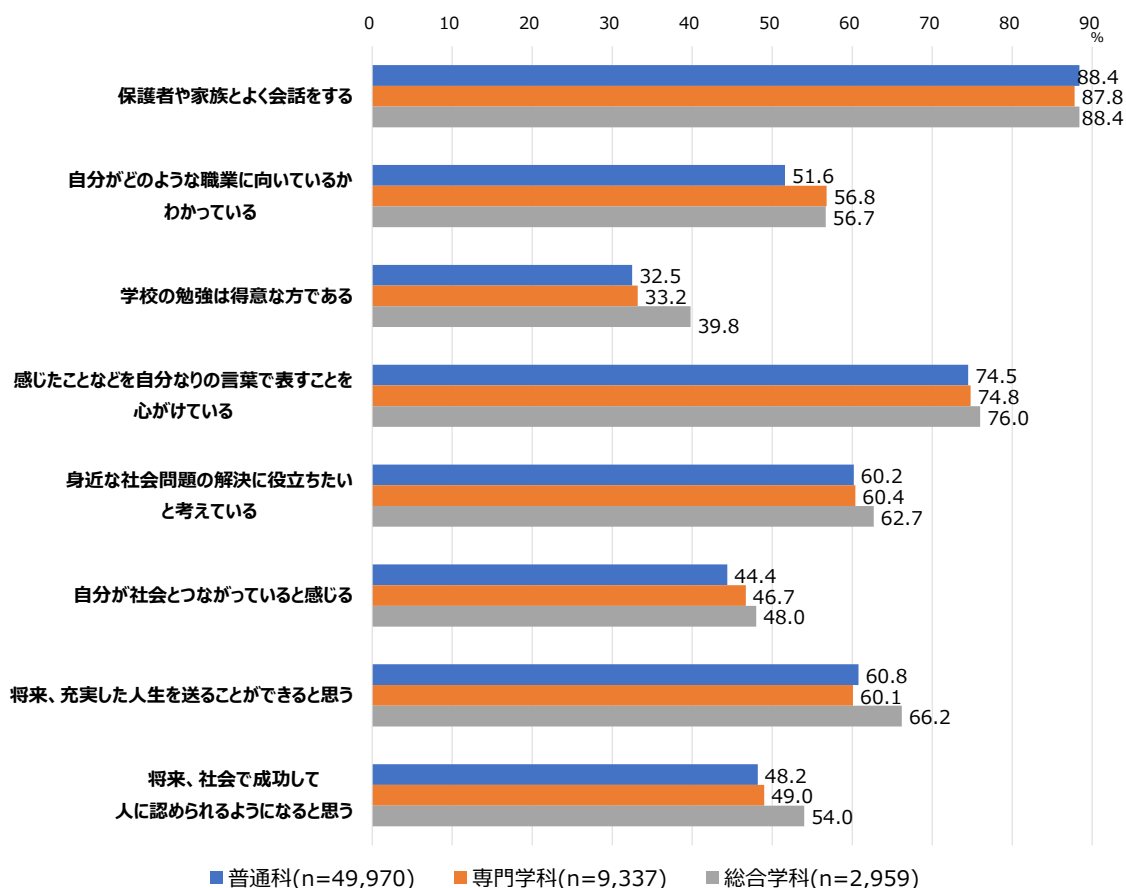
図表 11 職業適性・社会認識・将来の展望等（中・高の学年別集計）





○また、高校生の在籍学科別に見ると、「自分がどのような職業に向いているかわかっている」については、普通科と比較して専門学科が5ポイントほど高くなっている。

図表 12 職業適性・社会認識・将来の展望等（高校の在籍学科別集計）

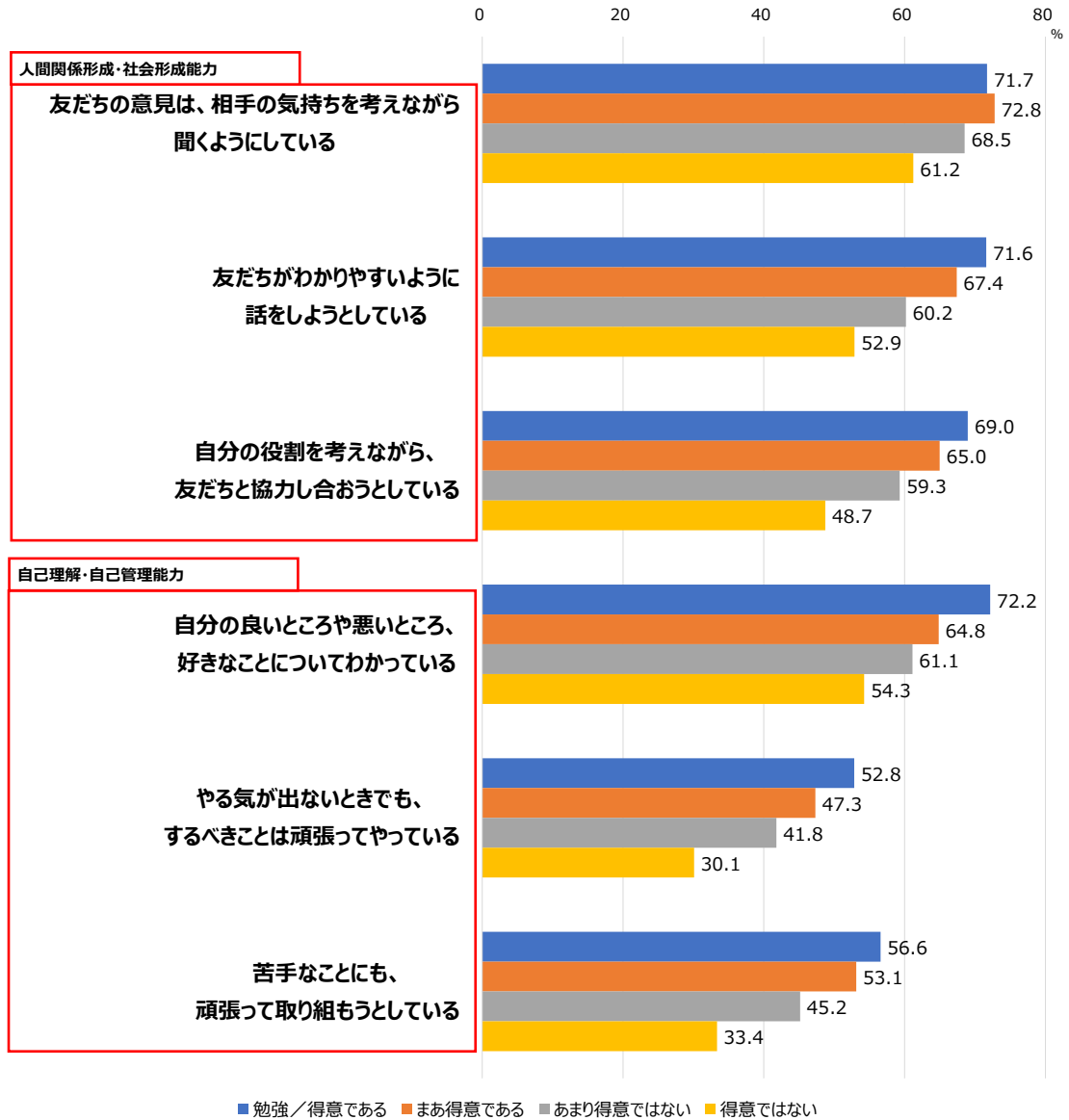


（ウ）基礎的・汎用的能力の自己認識（「勉強は得意な方である」の回答別）

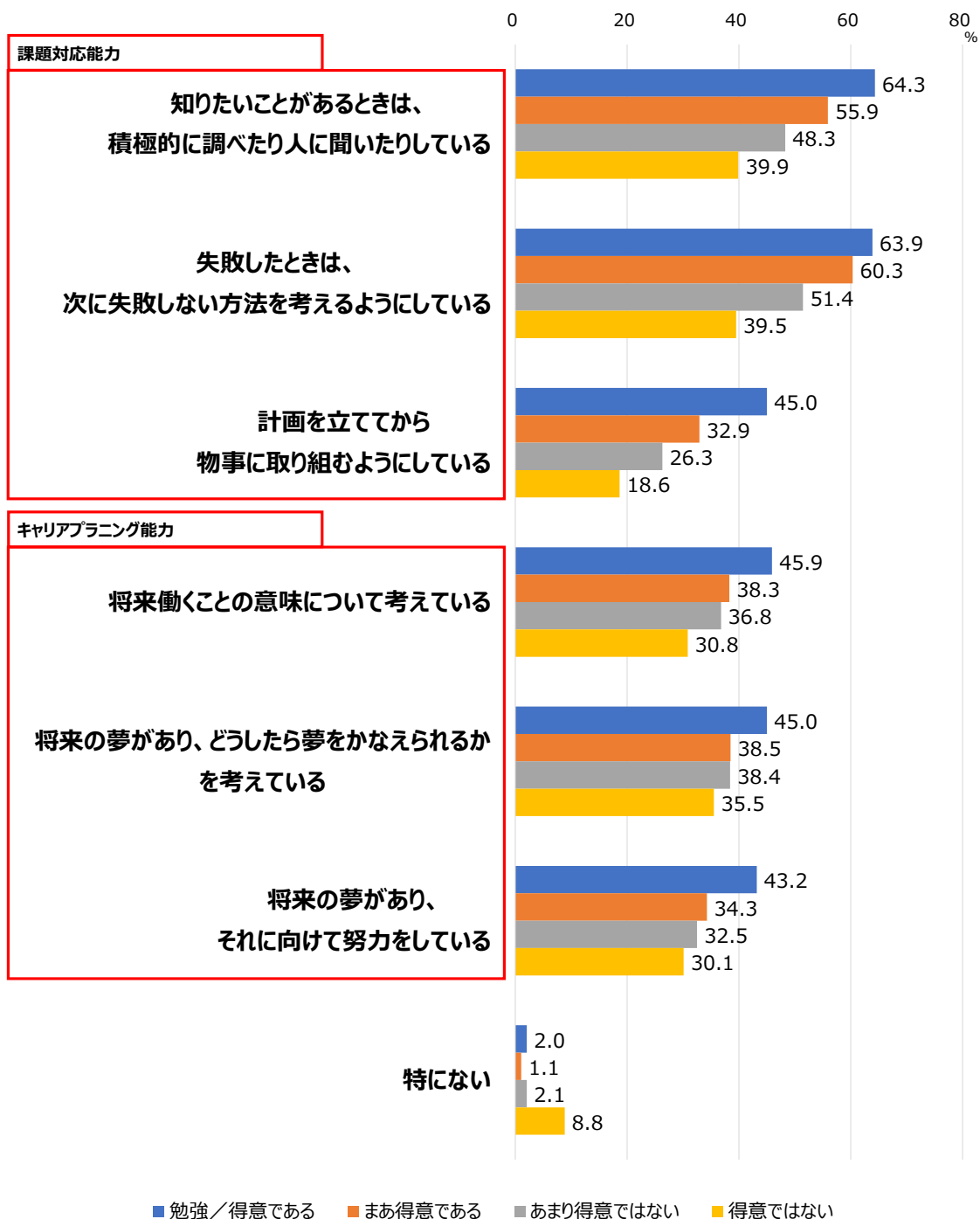
○「基礎的・汎用的能力の自己認識」について、「勉強は得意な方である」の回答別<sup>5</sup>に集計すると、「得意である」「まあ得意である」の回答の方が、「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」のいずれについても、相対的に高い傾向が見られる。とくに、「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の2つについては、勉強が得意である生徒と得意でない生徒との差が大きい。これらは、中学生・高校生に共通して見られるアンケート結果となっている。

<sup>5</sup> 「勉強は得意である」という回答は「自己認識」によるものであり、学力（成績）別に区分したものではない。

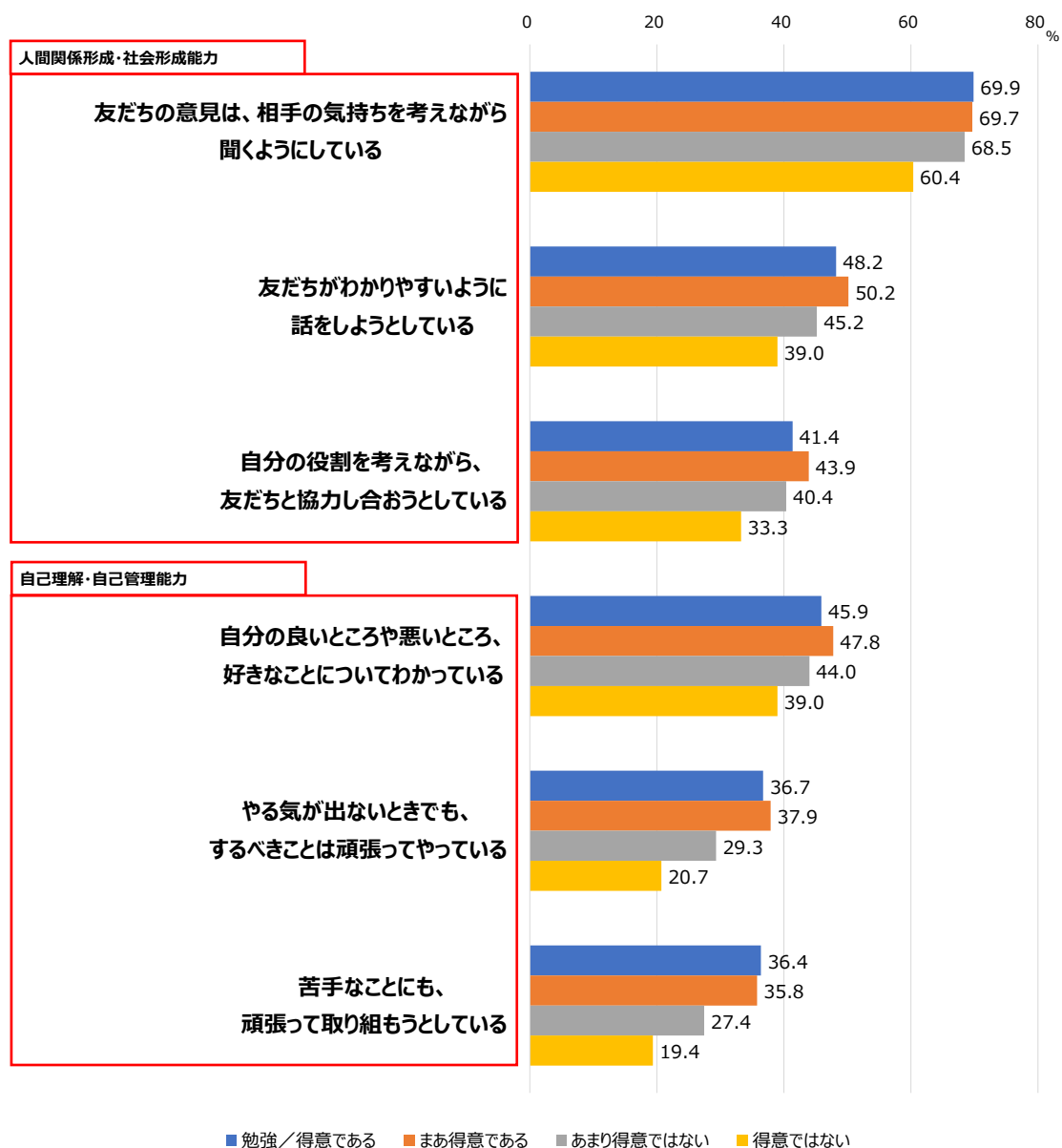
図表 13 基礎的・汎用的能力の自己認識  
 (人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、  
 「勉強は得意な方である」の回答別集計<中学生>)



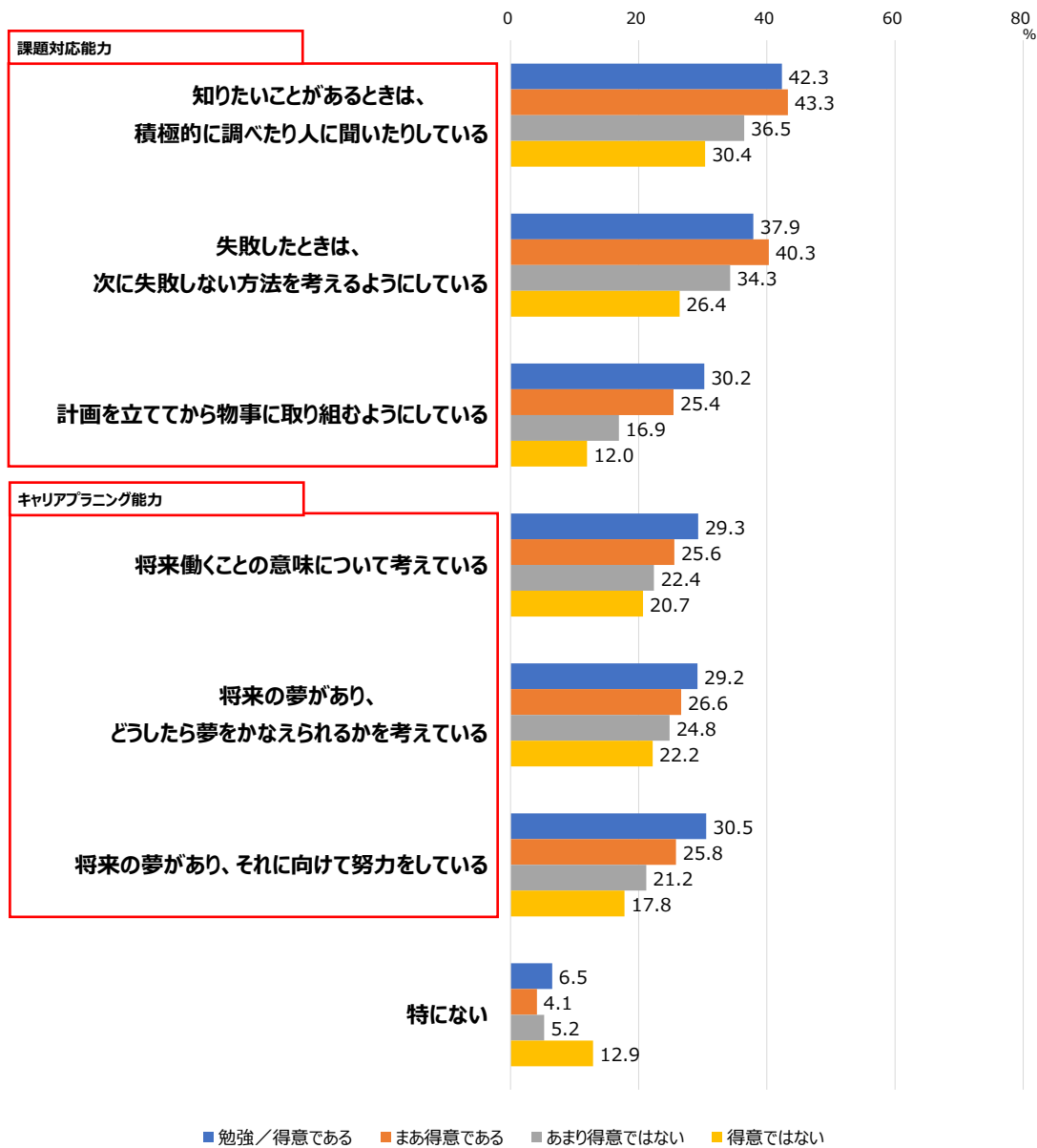
図表 14 基礎的・汎用的能力の自己認識  
 (課題対応能力、キャリアプランニング能力、  
 「勉強は得意な方である」の回答別集計<中学生>)



図表 15 基礎的・汎用的能力の自己認識  
 (人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、  
 「勉強は得意な方である」の回答別集計<高校生>)



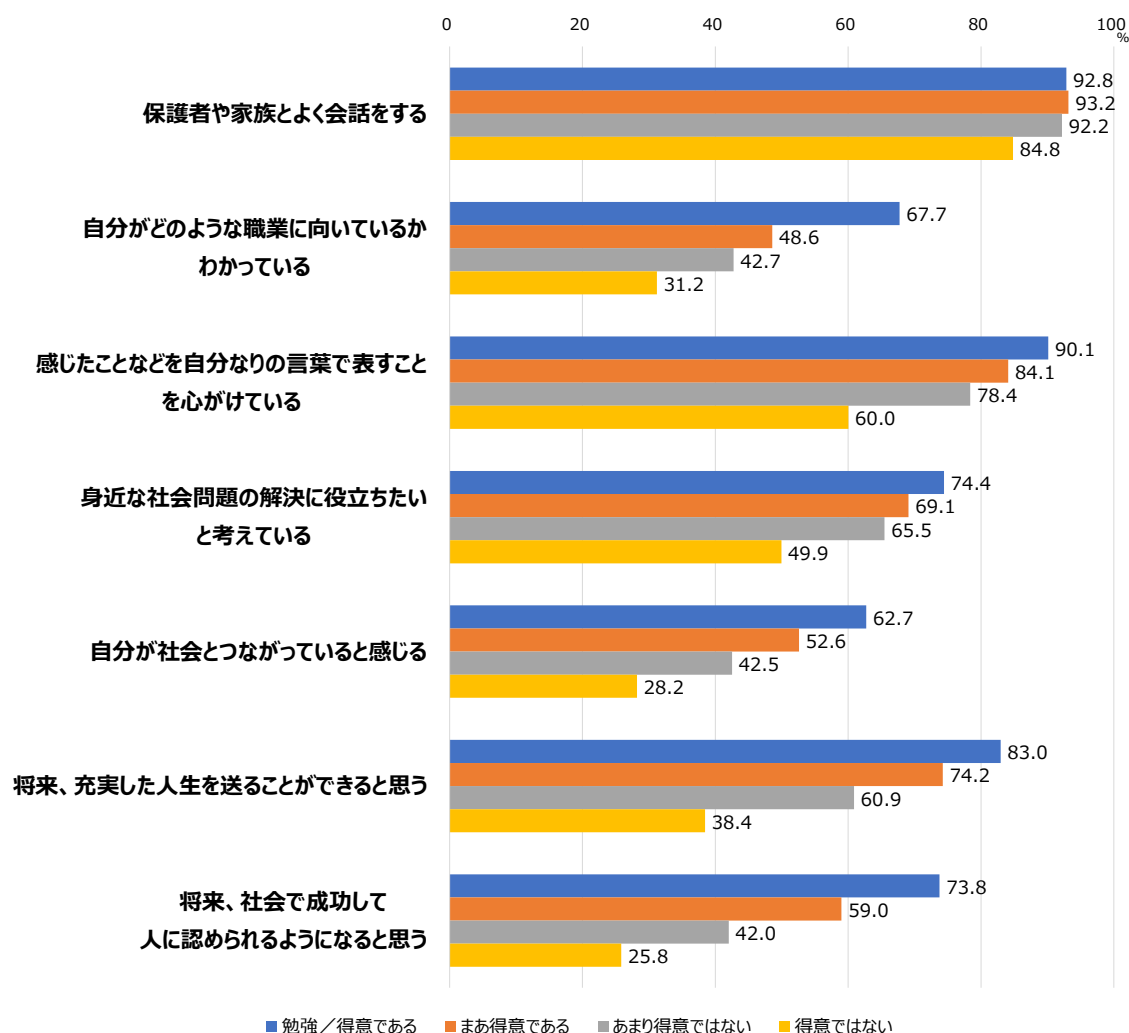
図表 16 基礎的・汎用的能力の自己認識  
 (課題対応能力、キャリアプランニング能力、  
 「勉強は得意な方である」の回答別集計<高校生>)



(エ) 職業適性・社会認識・将来の展望等（「勉強は得意な方である」の回答別）

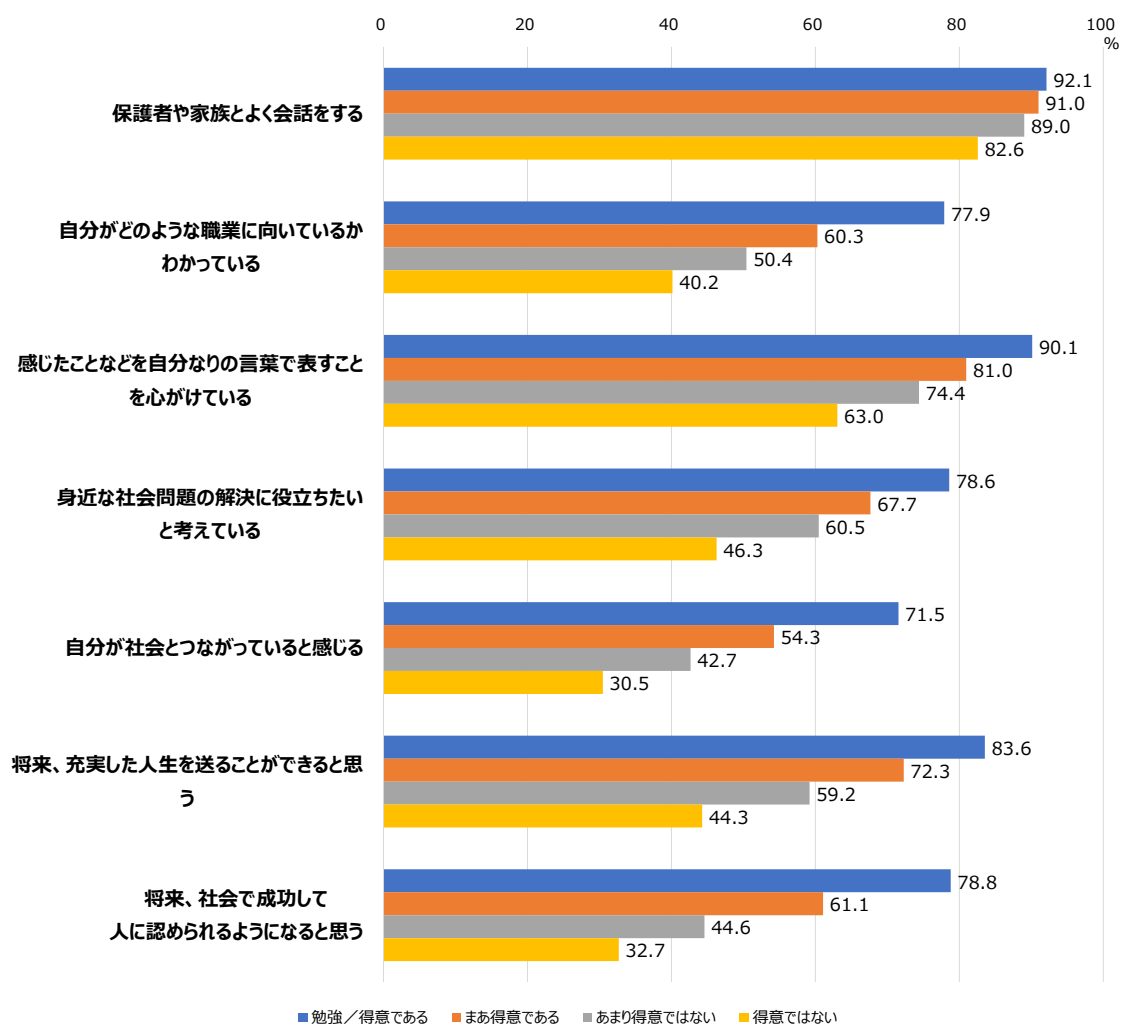
○「職業適性・社会認識・将来の展望等」についても、「勉強は得意な方である」の回答別<sup>6</sup>に集計したところ、「得意である」「まあ得意である」の回答者の方が、「自分がどのような職業に向いているかわかっている」「自分が社会とつながっていると感じる」「将来、充実した人生を送ることができると思う」などの設問で、ポジティブな回答が相対的に多い傾向が見られる。その一方で、「保護者や家族とよく会話をする」の設問に対しては、差が見られなかった。これらは、中学生・高校生に共通して見られるアンケート結果となっている。

図表 17 職業適性・社会認識・将来の展望等  
（「勉強は得意な方である」の回答別集計＜中学生＞）



<sup>6</sup> 「勉強は得意である」という回答は「自己認識」によるものであり、学力（成績）別に区分したのではない。

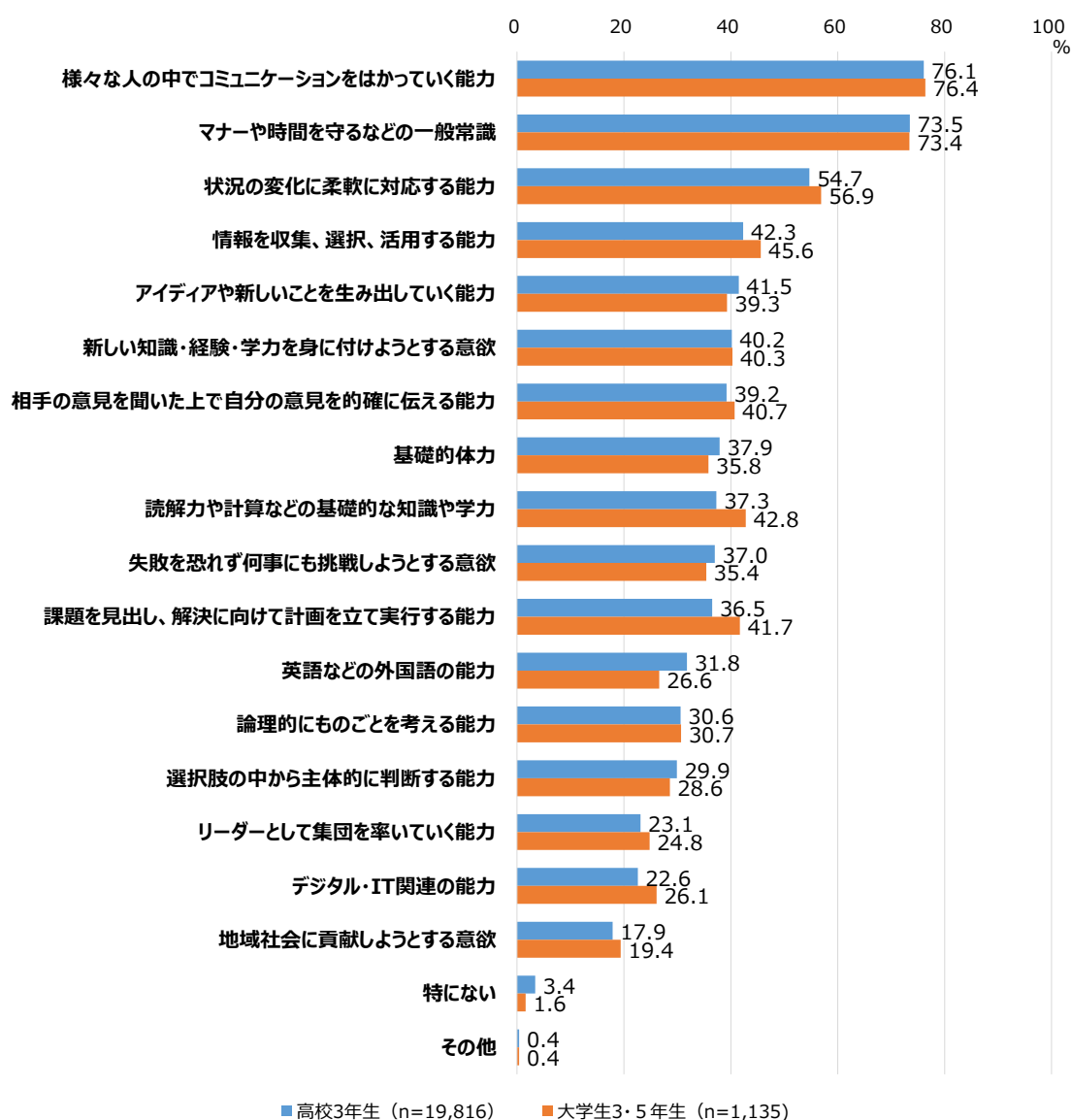
図表 18 職業適性・社会認識・将来の展望等  
 (「勉強は得意な方である」の回答別集計<高校生>)



## イ. 仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力（高・大・社・中学校・高校・県内企業）

○仕事をするまでに身に付けておきたい力について見ると、高校生、大学生において「コミュニケーション能力」が最も多く、次いで「一般常識」となっており、高校生、大学生に大きな差は見られない。一方で、「アイデアや新しいことを生み出していく能力」や「失敗を恐れず何事にも挑戦しようとする意欲」は中位に止まっており、チャレンジ精神が相対的に弱いことが窺われる。

図表 19 仕事をするまでに身に付けておきたい力

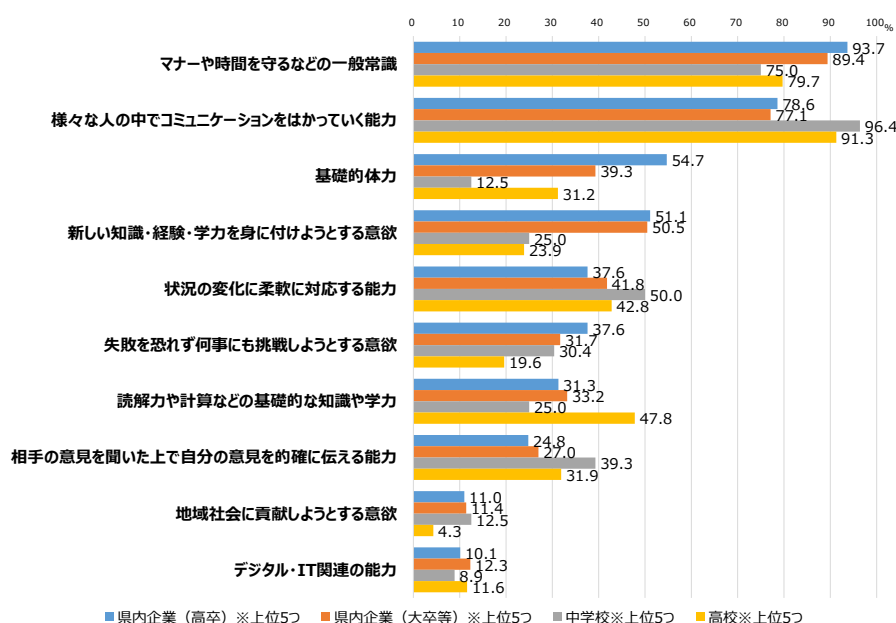




○同じ設問を県内企業側から見ると、仕事をするまでに身に付けてほしい力として、「一般常識」が9割と最も多い一方、「コミュニケーション能力」が8割弱、「基礎的体力」が5割となっている<sup>7</sup>。

一方、学生・学校では「情報を収集・選択・活用する能力」を重視する半面、「新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲」「失敗を恐れず何事にも挑戦しようとする意欲」等が低く、やや保守的である。

図表 20 仕事をするまでに身に付けてほしい力（上位10項目を記載）



図表 21 仕事をするまでに身に付けておきたい力（各対象）

	高校3年生	大学3・5年生
1位	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力
2位	一般常識	一般常識
3位	状況の変化に柔軟に対応する能力	状況の変化に柔軟に対応する能力
4位	情報を収集、選択、活用する能力	情報を収集、選択、活用する能力
5位	アイデアや新しいことを生み出していく能力	基礎的な知識や学力
	県内企業（高卒採用）	県内企業（大卒等採用）
1位	一般常識	一般常識
2位	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力
3位	基礎的体力	新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲
4位	新しい知識・経験・学力を身に付けようとする意欲	状況の変化に柔軟に対応する能力
5位	状況の変化に柔軟に対応する能力	基礎的体力
	中学校	高校
1位	コミュニケーション能力	コミュニケーション能力
2位	一般常識	一般常識
3位	状況の変化に柔軟に対応する能力	基礎的な知識や学力
4位	情報を収集、選択、活用する能力	状況の変化に柔軟に対応する能力
5位	相手の意見を聞いた上で自分の意見を的確に伝える能力	情報を収集、選択、活用する能力

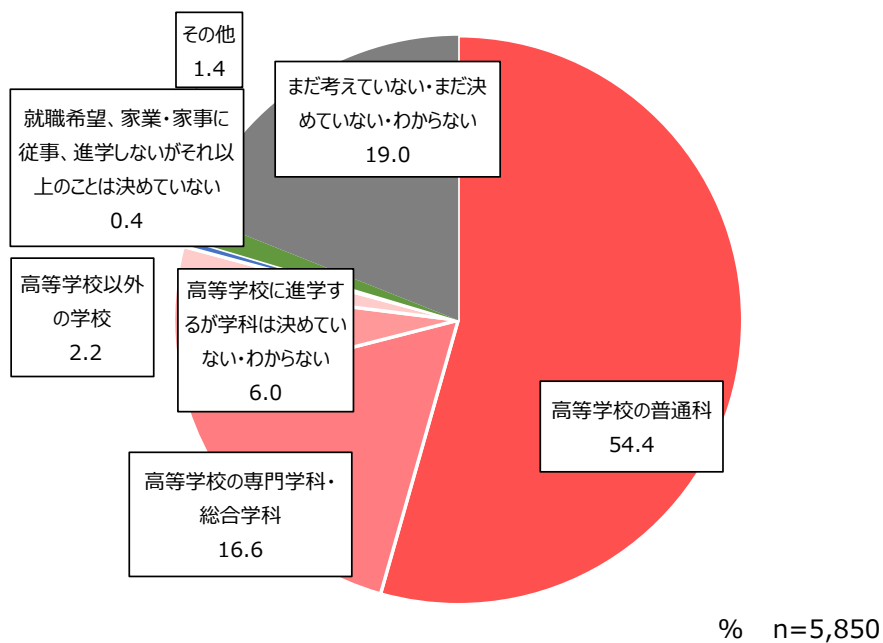
<sup>7</sup> 高校生は3年生のみ回答。高校生・大学生は身に付けておきたいと思うものを全て選択して回答。一方、県内企業、中学校、高校は5つまでを選択して回答。

## (2) 進路意向

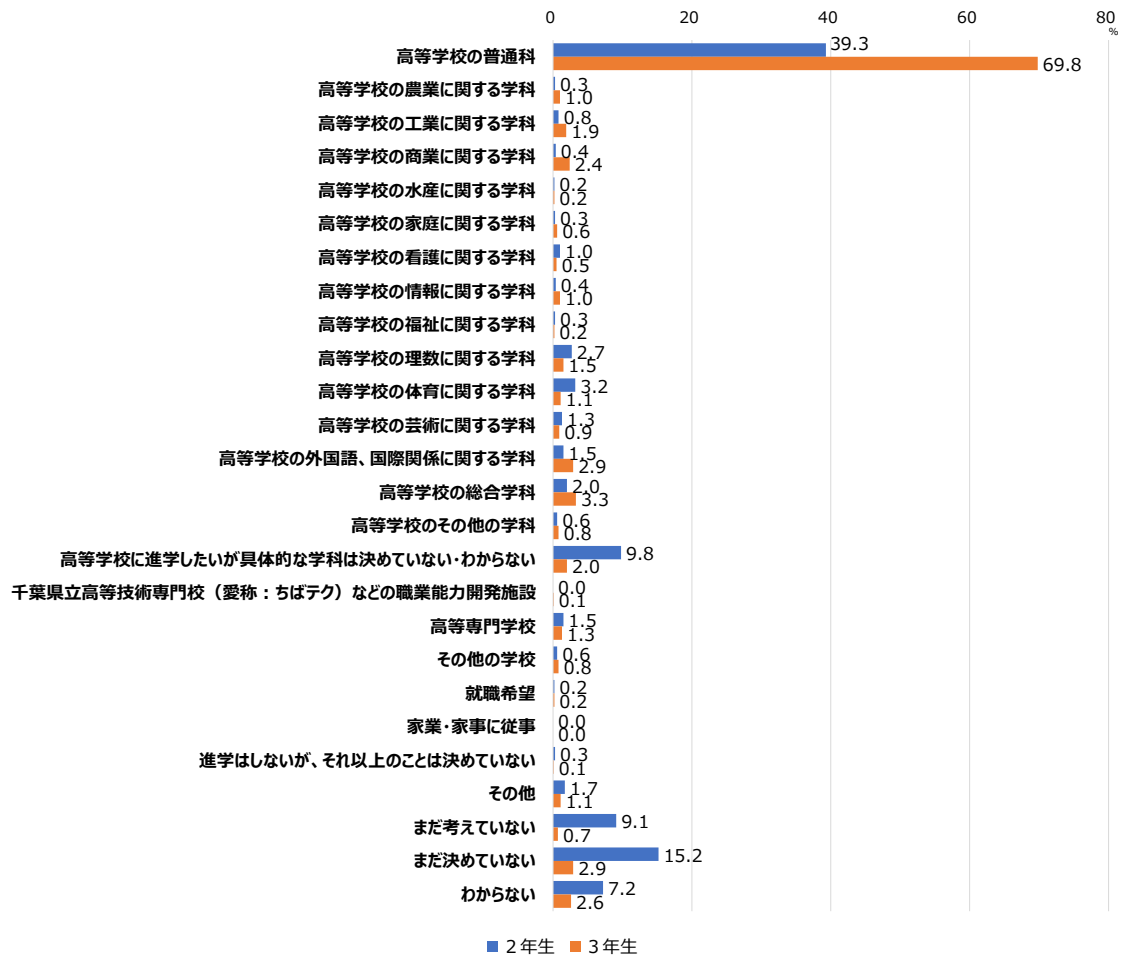
### ア. 進路意向 (中・高)

○進路意向について見ると、中学生は「高等学校の普通科」が半数を超え最も多く、次いで「高等学校の専門学科・総合学科」となっている。「わからない」も20%弱と多い。学年別に見ると、普通科希望者は2年生は39.3%だが、3年生になると69.8%まで上昇。農業系、工業系、商業系なども2倍以上となっているが、普通科の希望者が圧倒的に多くなっている。

図表 22 進路意向 (中学2、3年生)



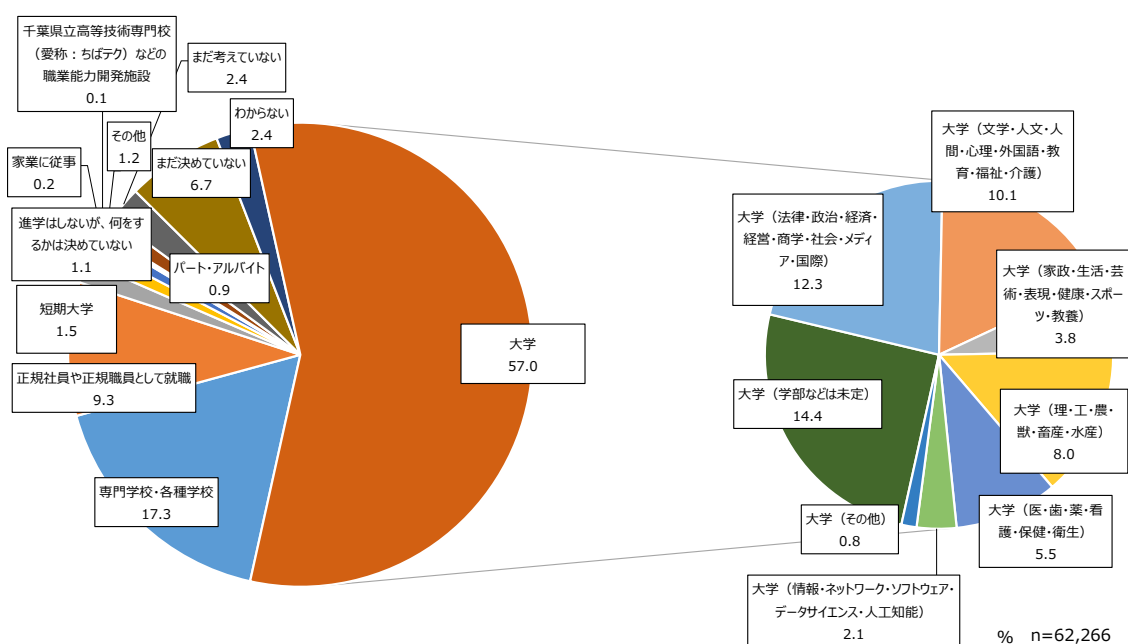
図表 23 進路意向（中学生学年別）



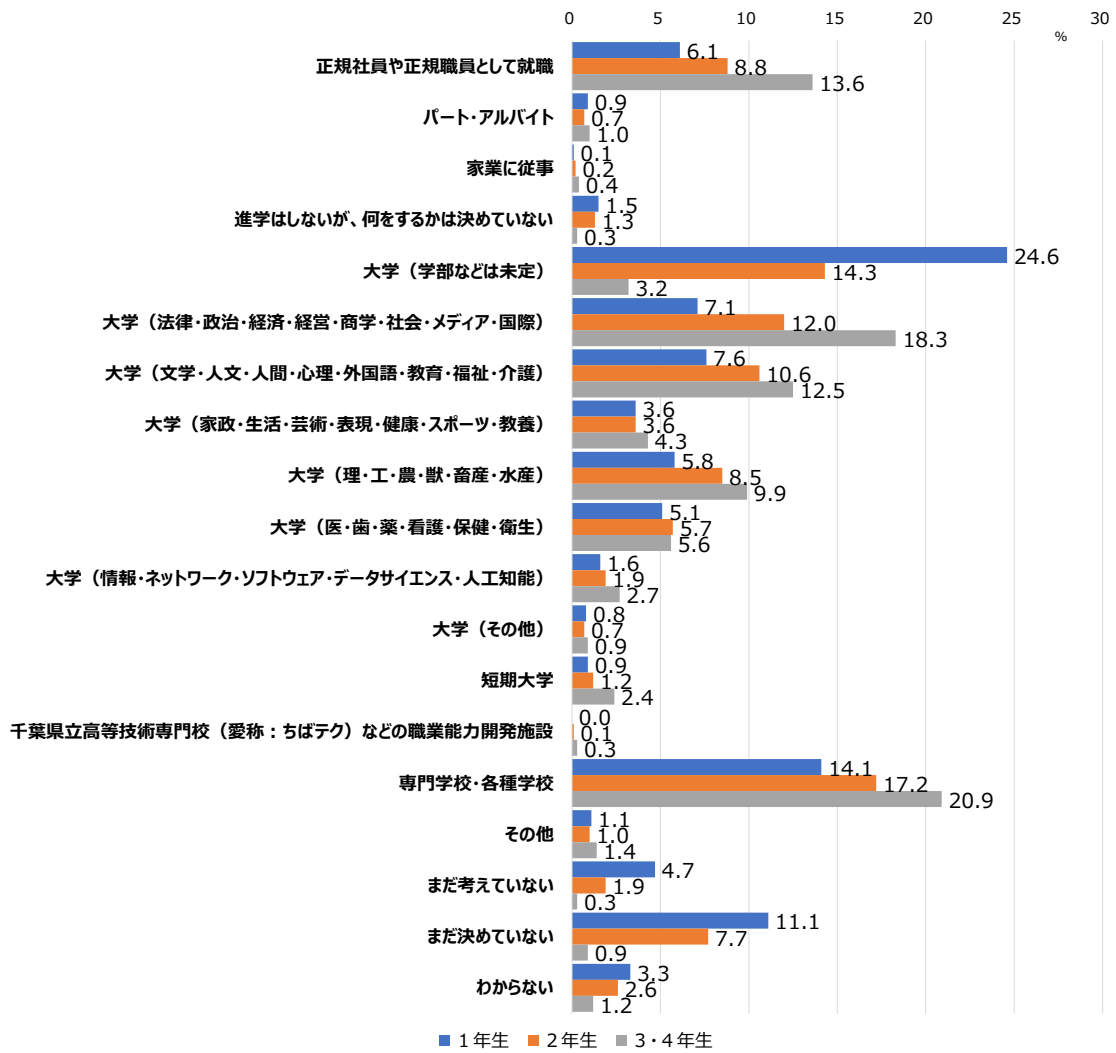
○高校生は「大学」が57.0%と最も多く、次いで「専門学校・各種学校（17.3%）」、「正規社員や正規職員として就職（9.3%）」となっている。「進学はしないが、何をするかは決めていない」「まだ考えていない」「まだ決めていない」「わからない」の合計も12.6%に上る。もっとも、学年別に見ると、就職や大学、専門学校など、具体的な進路希望の選択者が学年を追うごとに増える。

○大学への進学希望のうち、「大学（法律・政治・経済・経営・商学・社会・メディア・国際）」が最も多く、次いで「大学（文学・人文・人間・心理・外国語・教育・福祉・介護）」と文系の学部への進学希望が多い。

図表 24 進路意向（高校生）



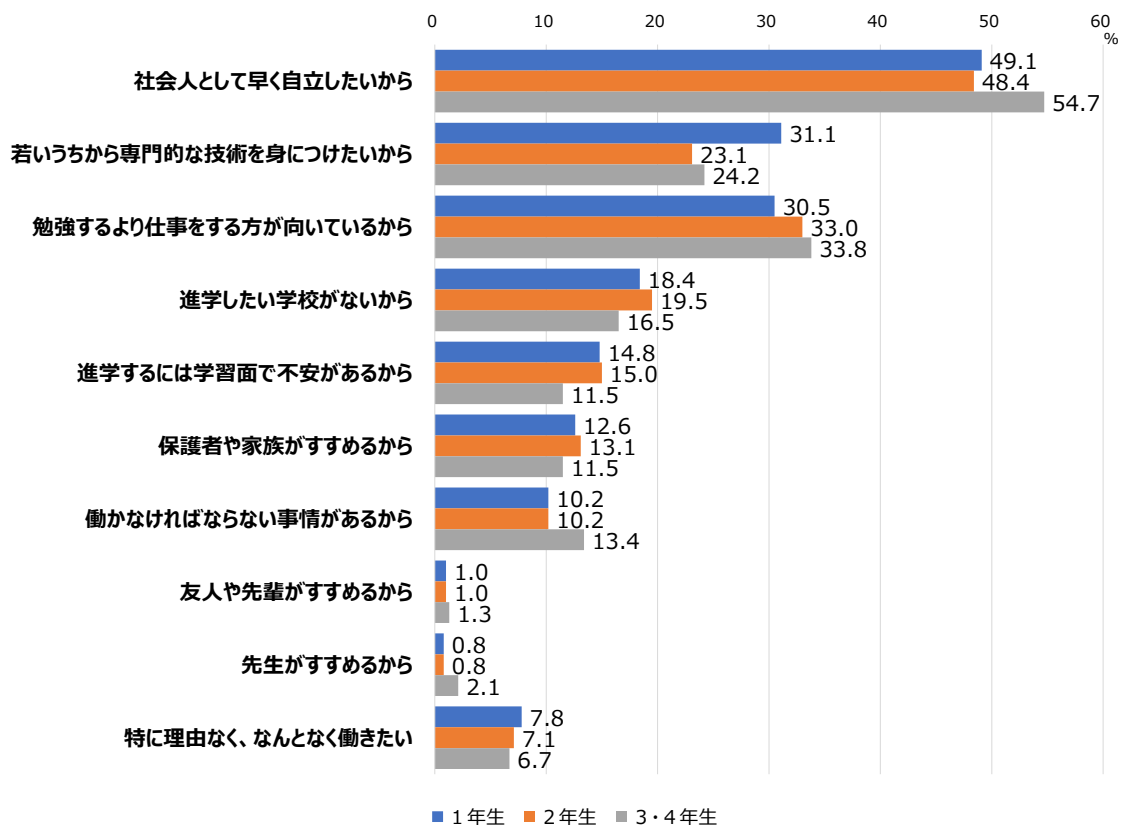
図表 25 進路意向 (高校生学年別)



## イ. 就職を希望する理由（高）

○高校生の就職希望者が「就職を希望する理由」を学年別に見ると、3、4年生になると社会人として早く自立したいという項目の選択者が増える。

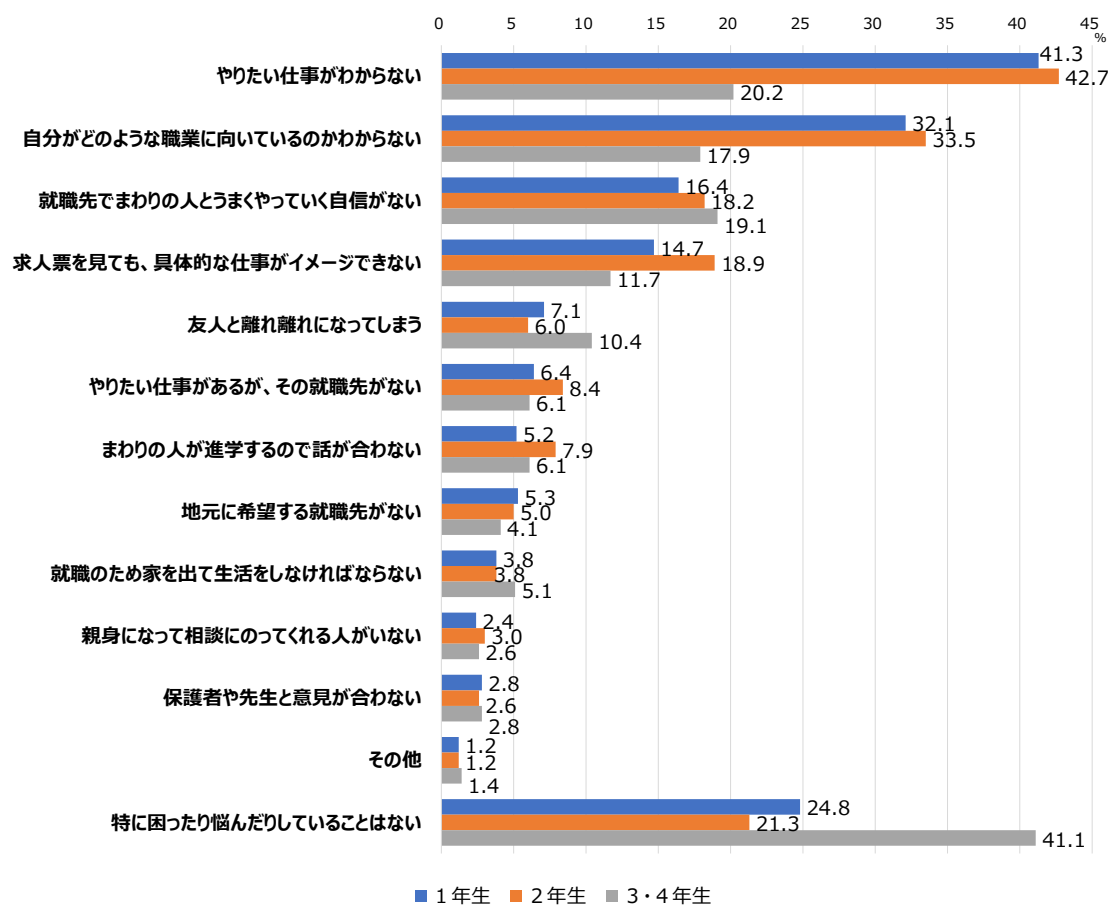
図表 26 就職を希望する理由（高校生学年別）



## ウ. 就職を希望する上で困っていること（高）

○高校生の就職希望者が「就職を希望する上で困っていること」を学年別に見ると、3、4年生になると「やりたい仕事が見つからない」は半減し、「特に困ったり悩んだりしていることはない」がほぼ倍増するが、3、4年生の9月でもやりたい仕事が見つからないという生徒が2割いる。

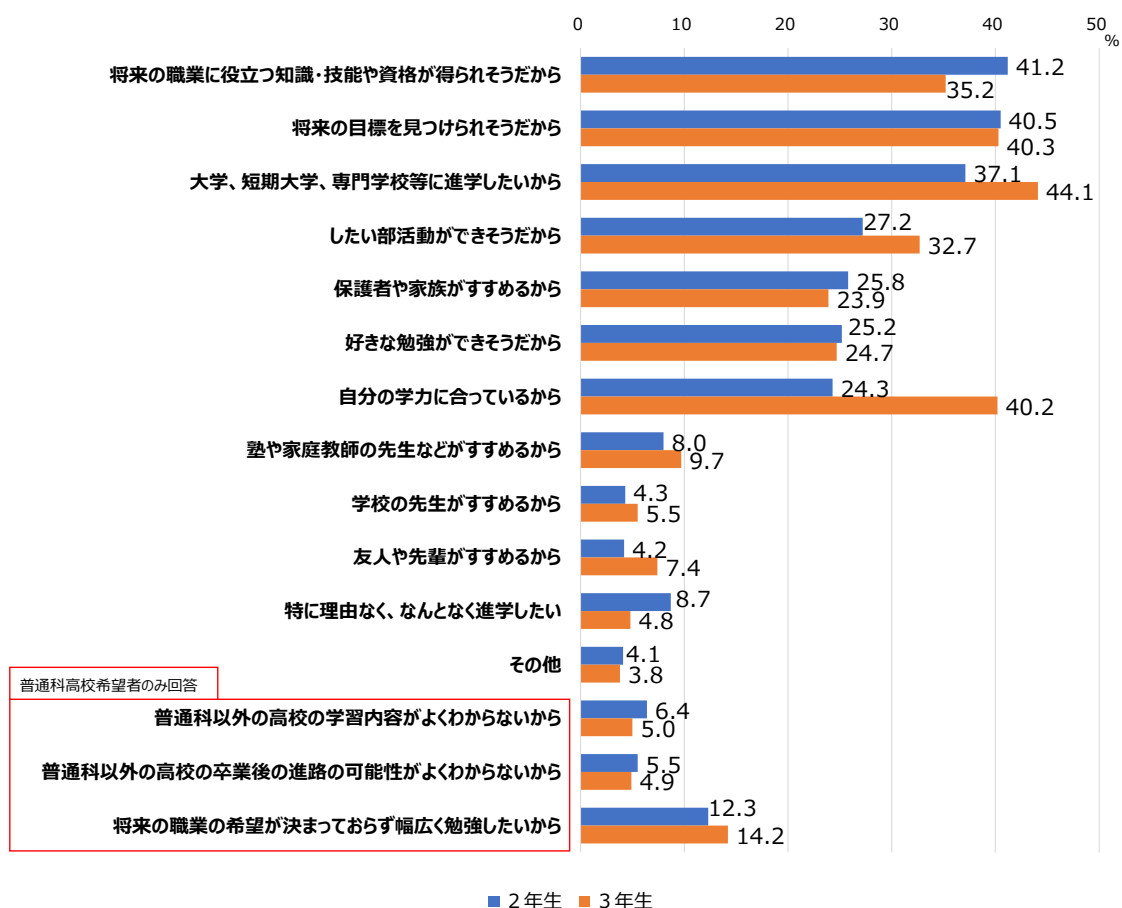
図表 27 就職を希望する上で困っていること（高校生学年別）



## エ. 上級学校、その学科への進学希望理由（中・高）

○中学生の「上級学校、その学科への進学希望理由」を学年別に見ると、3年生になると自分の学力に合っているからという理由の選択者が大きく増える。

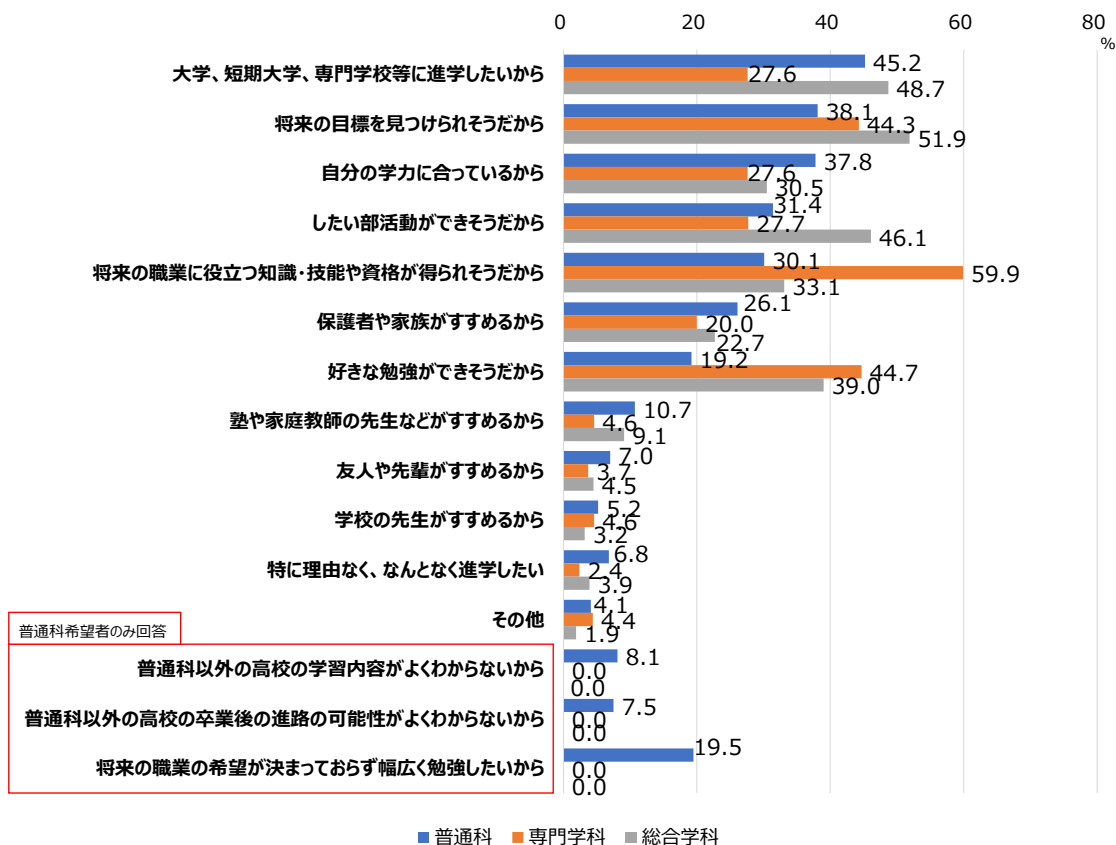
図表 28 上級学校、その学科への進学希望理由（中学生学年別）





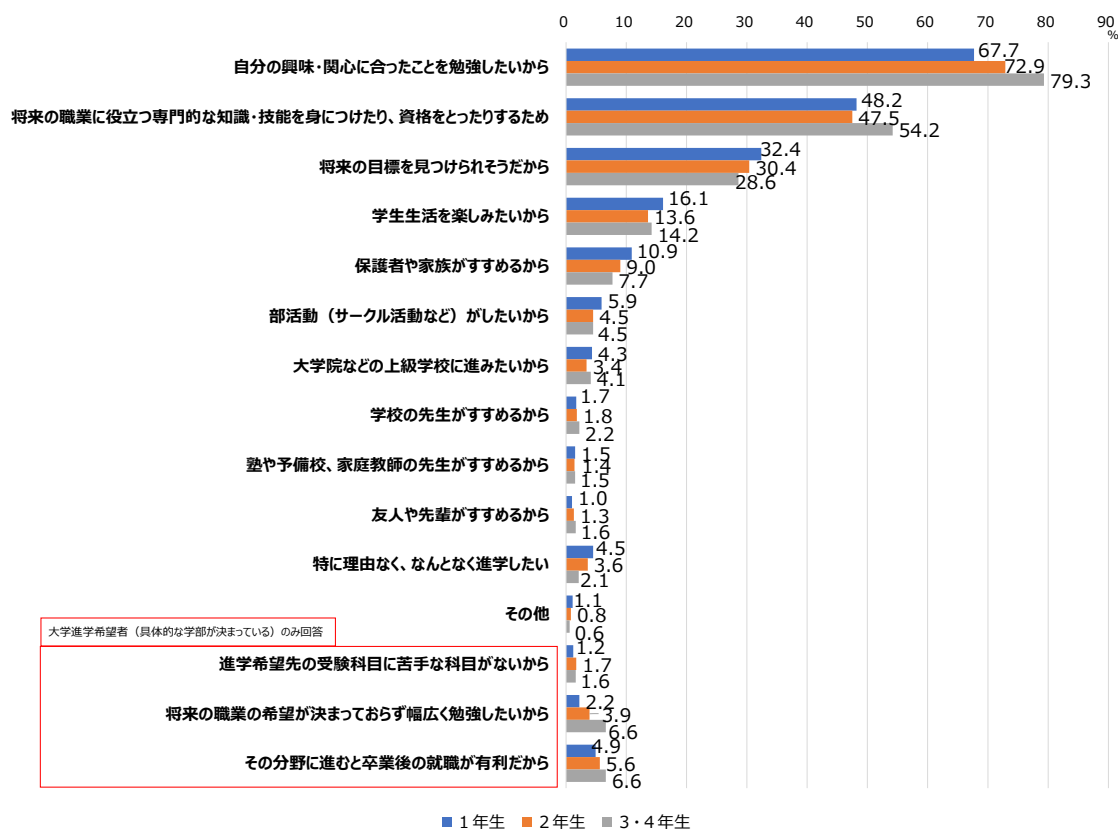
○これを高校進学希望学科別に見ると、専門学科の希望者は「将来の職業に役立つ知識・技能や資格が得られそうだから」や「好きな勉強ができそうだから」が多い。

図表 29 上級学校、その学科への進学希望理由（中学生の高校進学希望学科別）



○次に、高校生が「上級学校、その学科へ進学を希望する理由」を学年別に見ると、3、4年生になると、「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」、「将来の職業に役立つ専門的な知識・技能を身に付けたり、資格をとったりするため」の選択者が増える。

図表 30 上級学校、その学科への進学希望理由（高校生学年別）

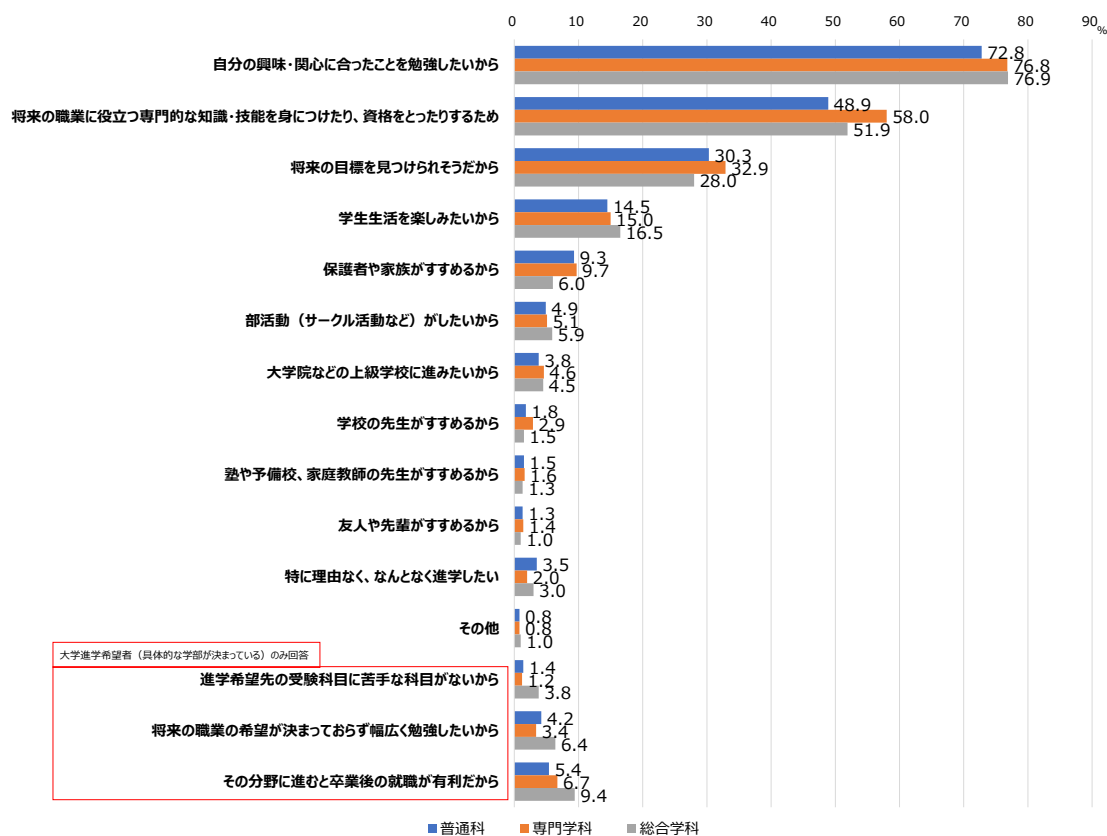


大学進学希望者（具体的な学部が決まっている）のみ回答

設問で示した「具体的な学部」とは、以下のとおり。  
 法律・政治・経済・経営・商学・社会・メディア・国際・文学・人文・人間・心理・外国語・教育・福祉・介護・家政・生活・芸術・表現・健康・スポーツ・教養・理・工・農・獣・畜産・水産・医・歯・薬・看護・保健・衛生・情報・ネットワーク・ソフトウェア・データサイエンス・人工知能

○これを、在籍学科別に見ると、普通科と比較して、専門学科の生徒は、「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」、「将来の職業に役立つ専門的な知識・技能を身に付けたり、資格をとったりするため」を多く選択している。

図表 31 上級学校、その学科への進学希望理由（高校生在籍学科別）



大学進学希望者（具体的な学部が決まっている）のみ回答

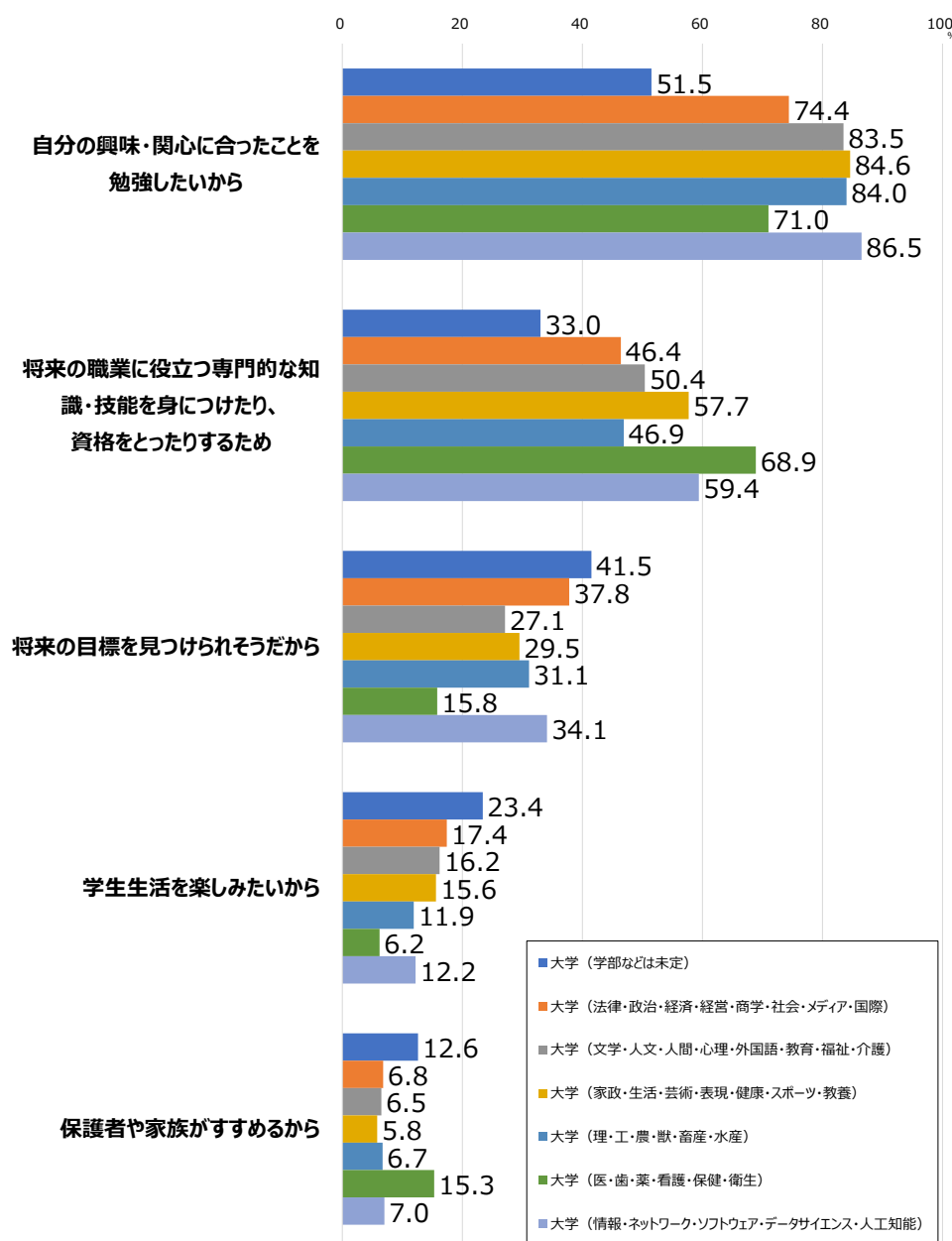
設問で示した「具体的な学部」とは、以下のとおり。  
 法律・政治・経済・経営・商学・社会・メディア・国際・文学・人文・人間・心理・外国語・教育・福祉・介護・家政・生活・芸術・表現・健康・スポーツ・教養・理・工・農・獣・畜産・水産・医・歯・薬・看護・保健・衛生・情報・ネットワーク・ソフトウェア・データサイエンス・人工知能

○さらに、大学の進学希望分野（7分野）別に見ると、「将来の職業に役立つ専門的な知識・技能を身に付けたり、資格をとったりするため」の選択者が医歯薬等の分野を希望する生徒に多くなっている。

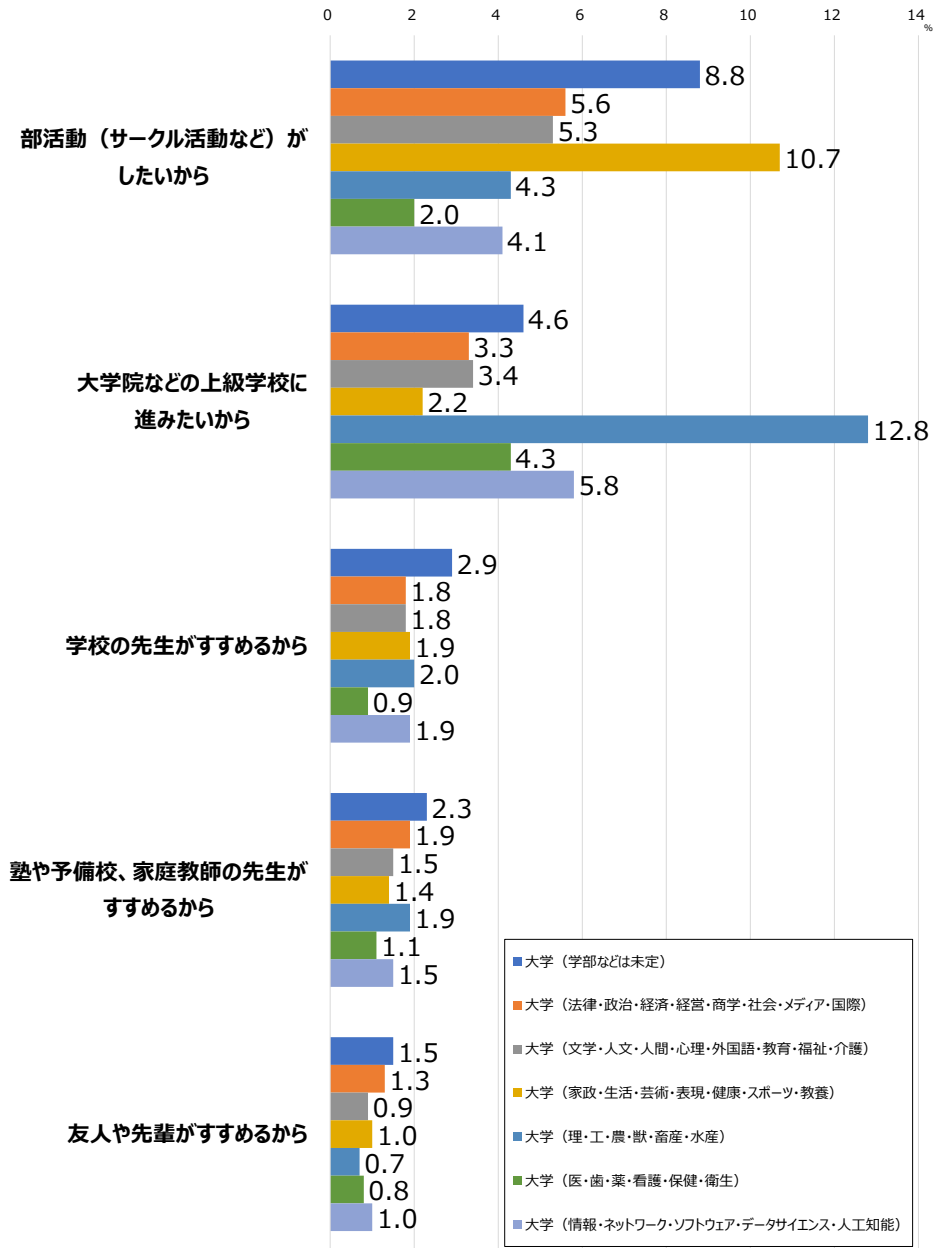
○「大学院などの上級学校に進みたいから」の選択者は、理工分野などの希望生徒が多い。

○大学を希望するが、学部が未定という生徒は、「特に理由なく、なんとなく進学したい」を多く選択。また、「将来の職業の希望が決まっておらず幅広く勉強したい」の選択者は法律、政治分野への進学を希望している高校生が多い。

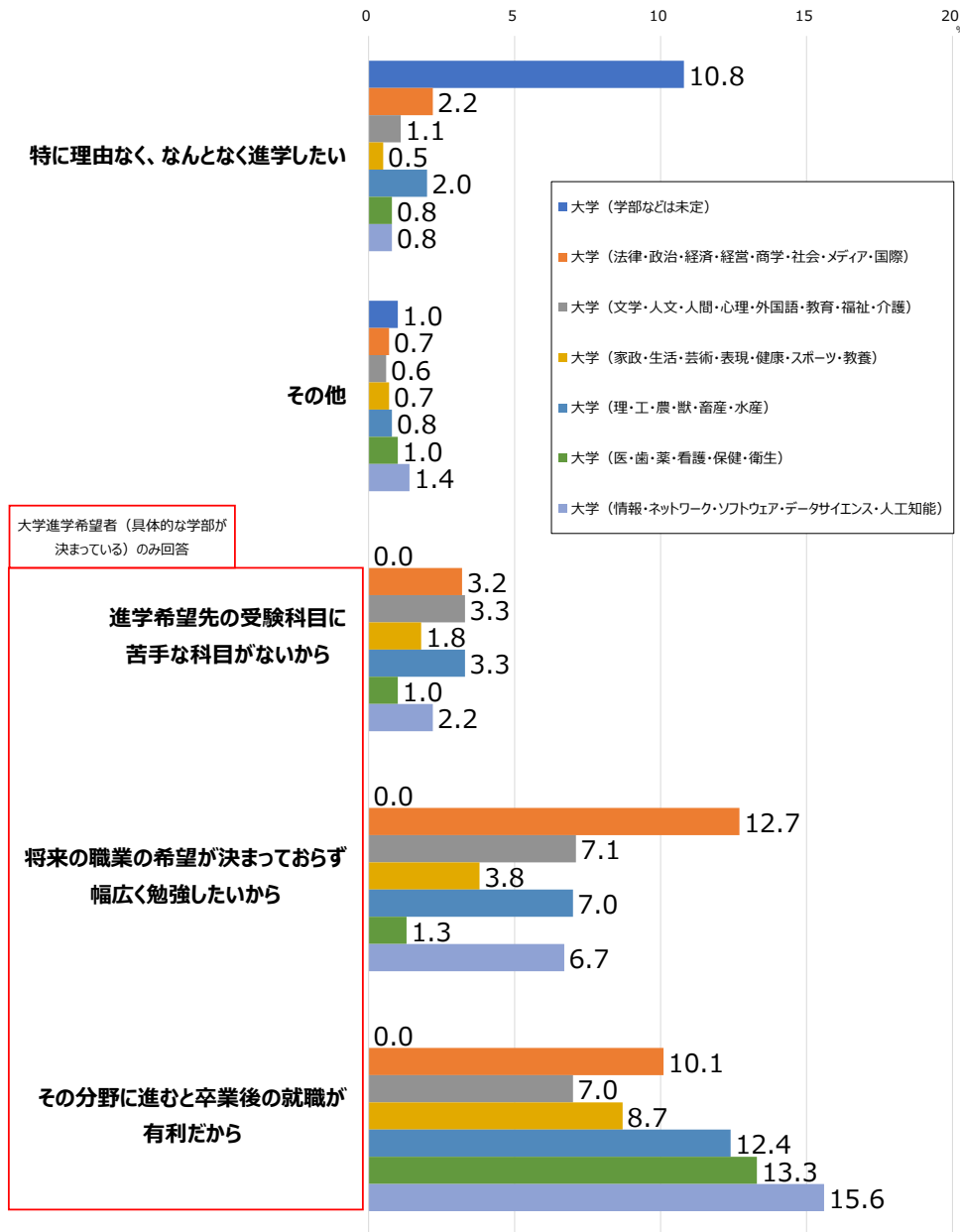
図表 32 上級学校、その学科への進学希望理由（大学の進学希望分野別①）



図表 33 上級学校、その学科への進学希望理由（大学の進学希望分野別②）

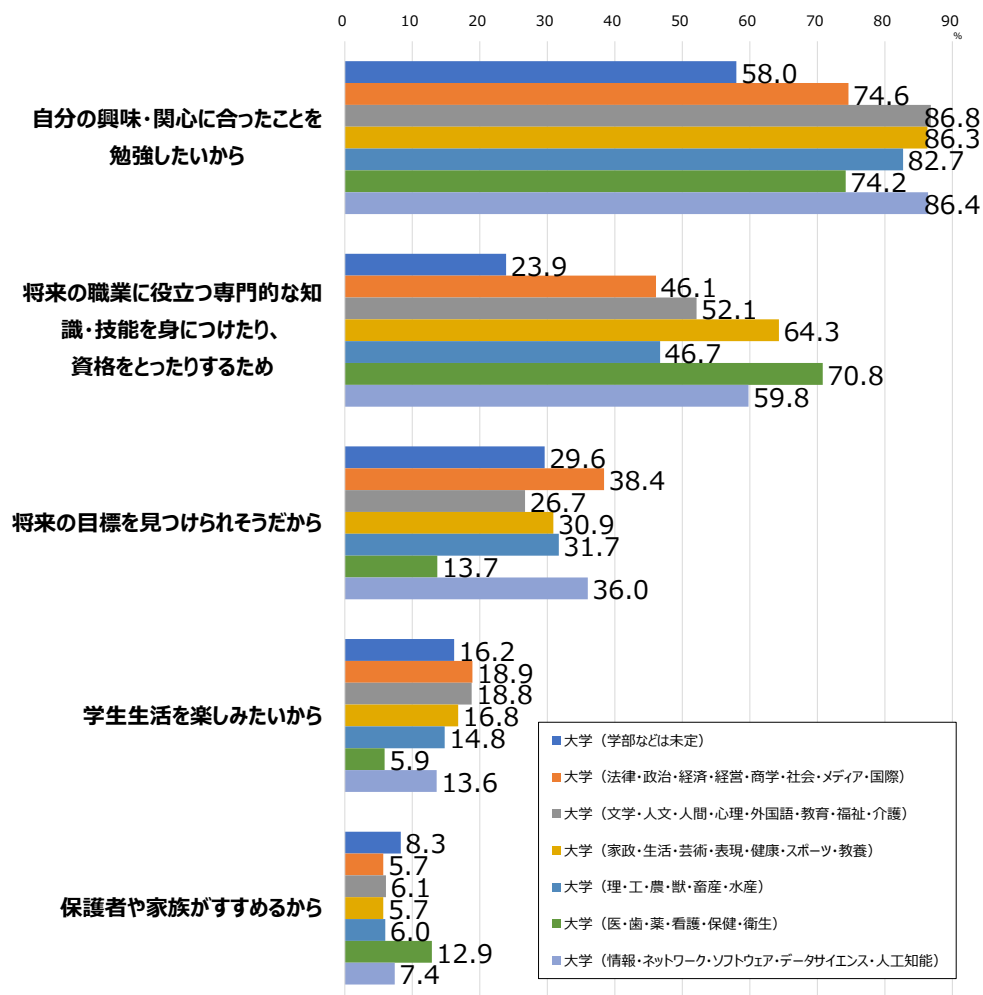


図表 34 上級学校、その学科への進学希望理由（大学の進学希望分野別③）

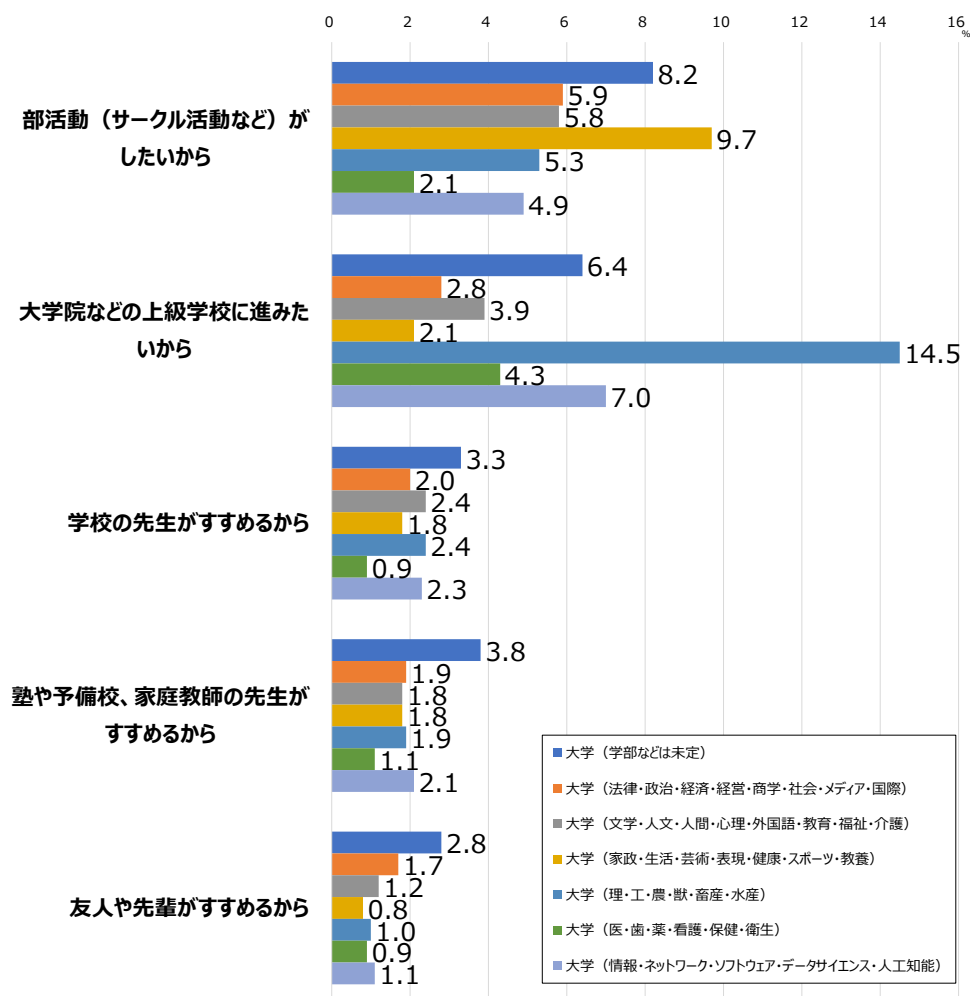


○さらに詳細に分析するため、高校3年生のみをピックアップしたが、傾向としては、全学年のものと大差ない結果だった。

図表 35 上級学校、その学科への進学希望理由（高3の大学進学希望分野別①）

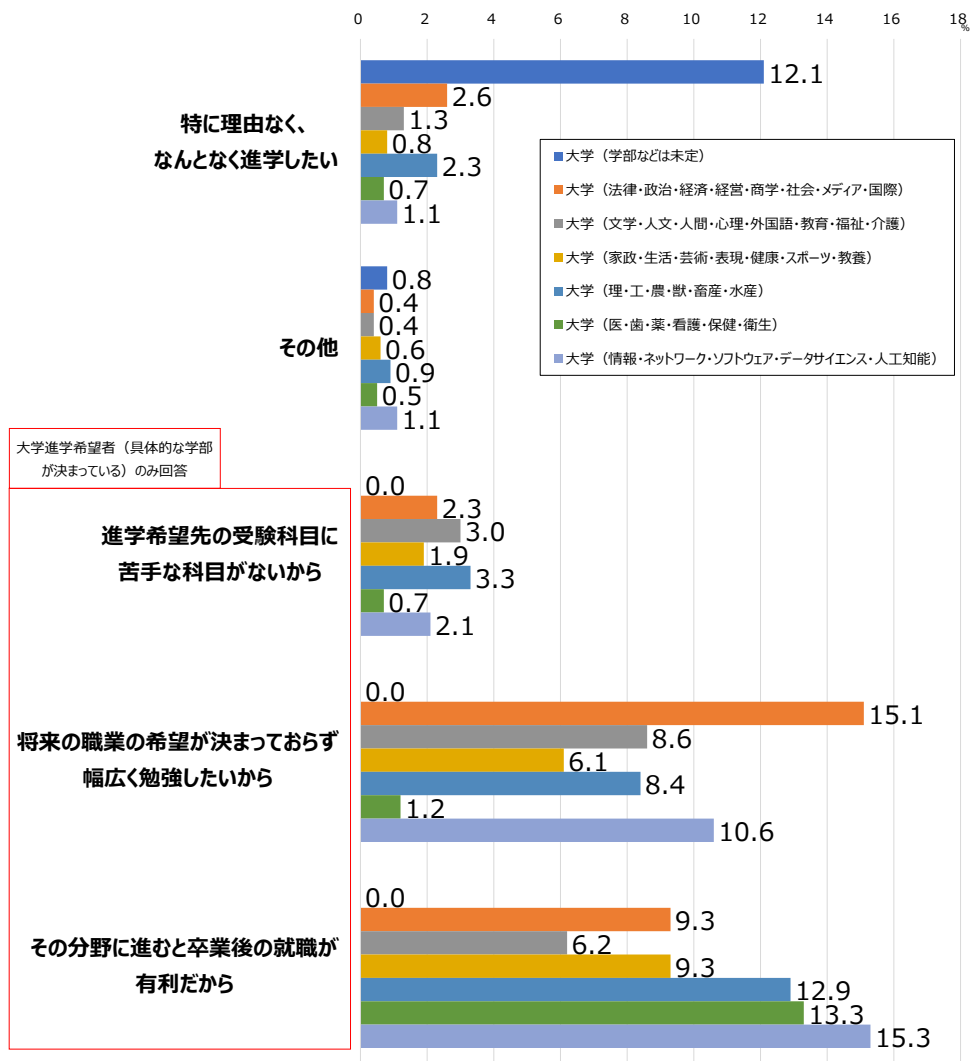


図表 36 上級学校、その学科への進学希望理由（高3の大学進学希望分野別②）





図表 37 上級学校、その学科への進学希望理由（高3の大学進学希望分野別③）

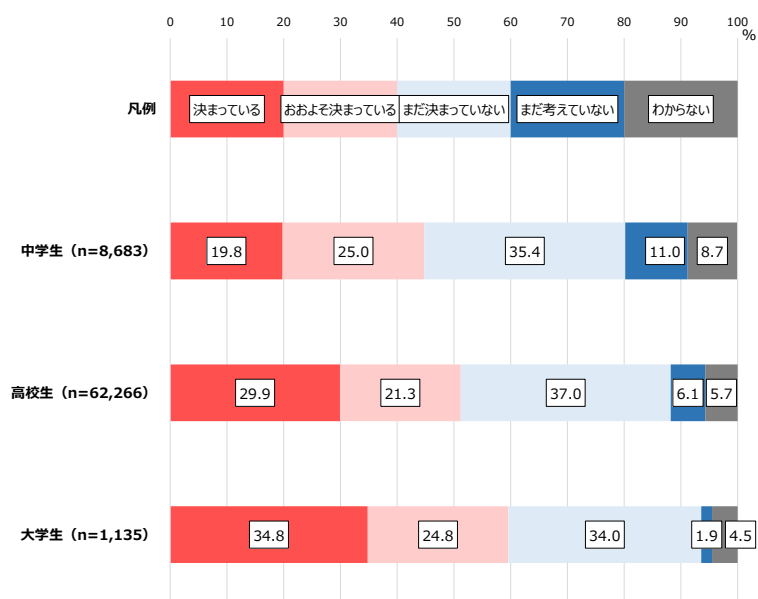


### (3) 職業観・勤労観

#### ア. 就きたい職業の有無（中・高・大）

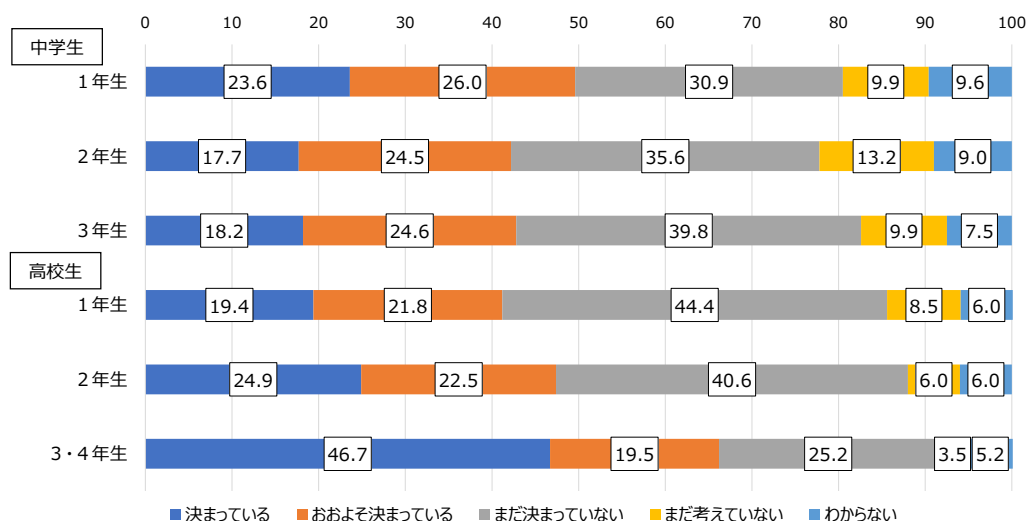
○就きたい職業の有無について、「決まっている（「決まっている」と「おおよそ決まっている」の合計）」を見ると、中学生から大学生にかけて、その割合は大きくなっている。一方、「まだ決まっていない」「まだ考えていない」「わからない」の合計が中学生で55.1%、高校生で48.8%、大学生では40.4%となっており、大学生でも具体性に乏しく、総じてモラトリアムの傾向が見られる。

図表 38 就きたい職業の有無（中・高・大）



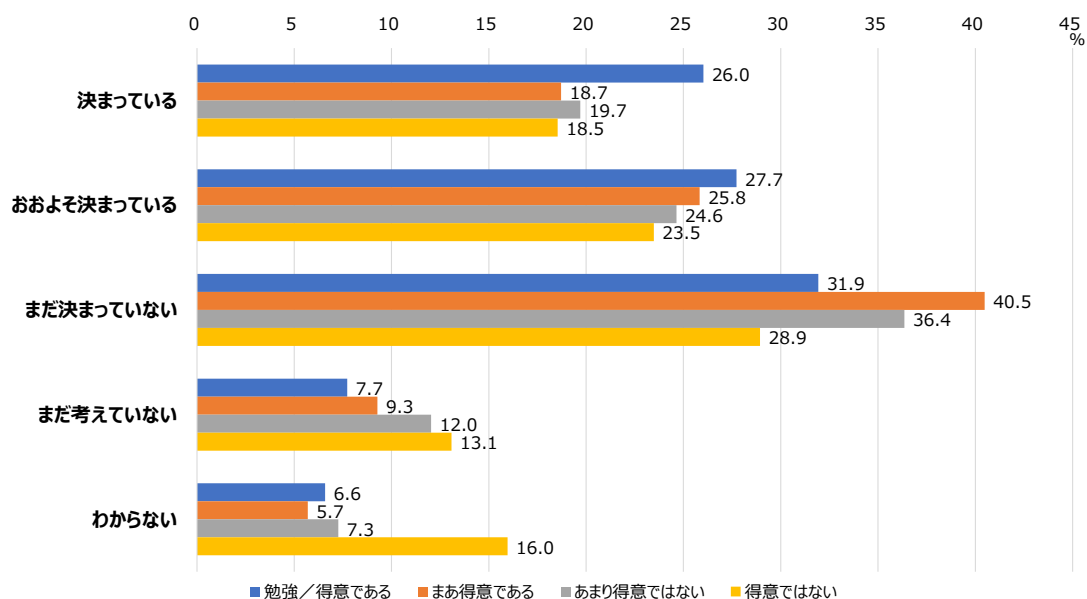
○このうち、中学生、高校生について学年別に見ると、高校3、4年生になると「決まっている」、「おおよそ決まっている」の回答が大幅に増えて半数以上となることがわかる。

図表 39 就きたい職業の有無（中・高の学年別）

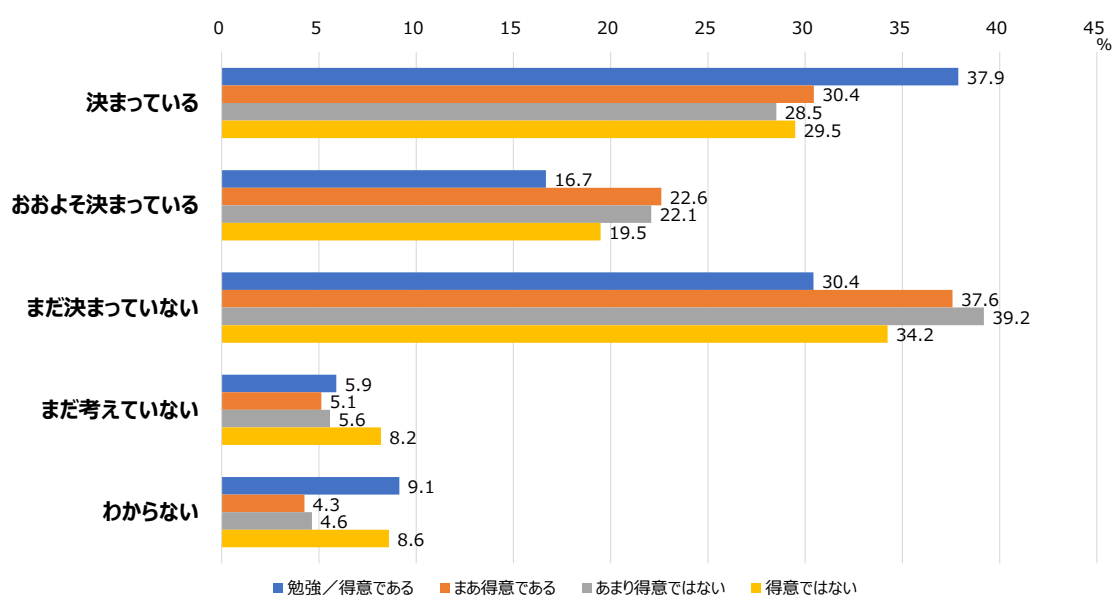


○また、中学生、高校生の「勉強は得意かどうかの自己認識」別に見ると、中・高ともに、「就きたい職業が決まっている」と回答している生徒は、「勉強は得意な方である」と回答している生徒に多く見られる。反対に、「まだ考えていない」や「わからない」と回答している生徒は、「得意ではない」と回答している生徒に概ね多く見られる。

図表 40 就きたい職業の有無（中学生の「勉強は得意な方である」の回答別集計）



図表 41 就きたい職業の有無（高校生の「勉強は得意な方である」の回答別集計）

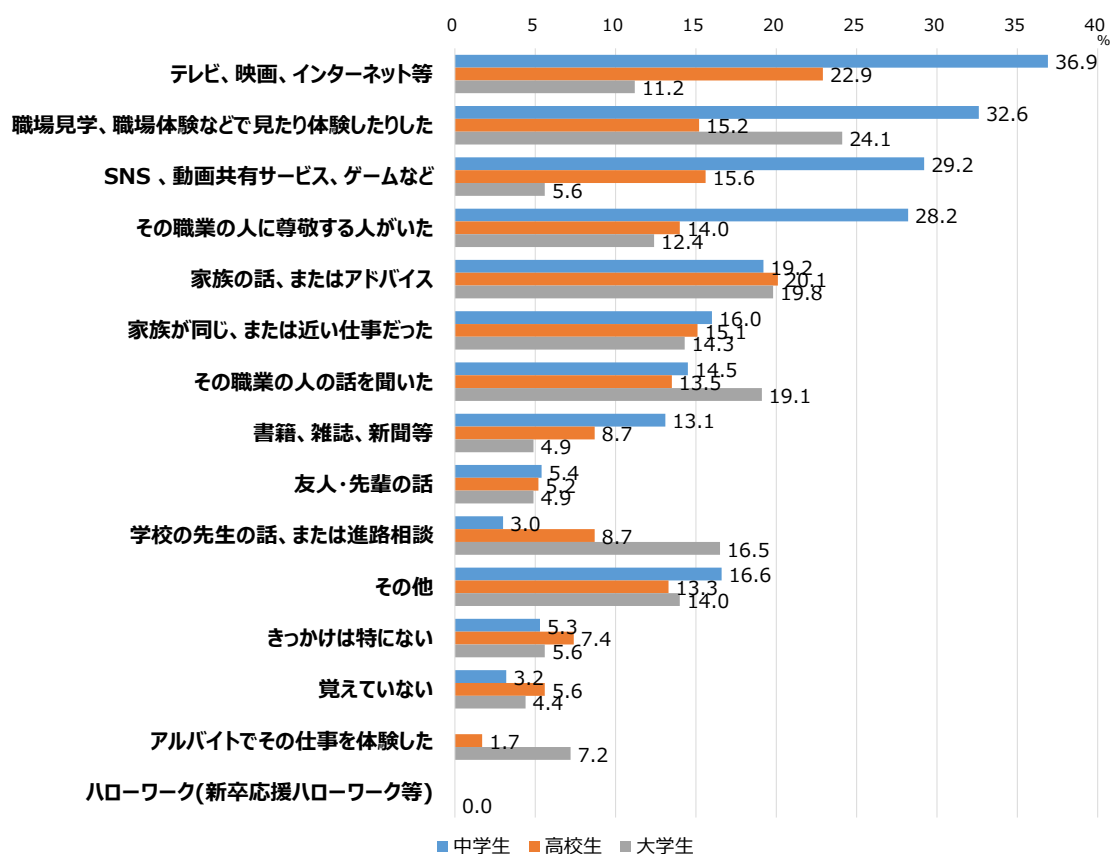


## イ. 就きたい職業を決めたきっかけ（中・高・大）

○就きたい職業を決めたきっかけについて、中学生では「テレビ、映画、インターネット」「SNS、動画サービス、ゲームなど」と普段からよく目にする情報媒体が多いが、「職場見学」「その職場に尊敬する人がいた」も次いで多い。中学生にとって、実際の職場体験の影響は大きいと考えられる。「家族の話、またはアドバイス」「家族が同じ、または近い仕事だった」も中・高・大を通じて相応に高く、家族の影響力の大きさを表している。半面、「学校の先生の話、または進路相談」は、中学生、高校生ともに一桁台で、中学生に至っては3.0%と、学校の影響力が極めて低い。

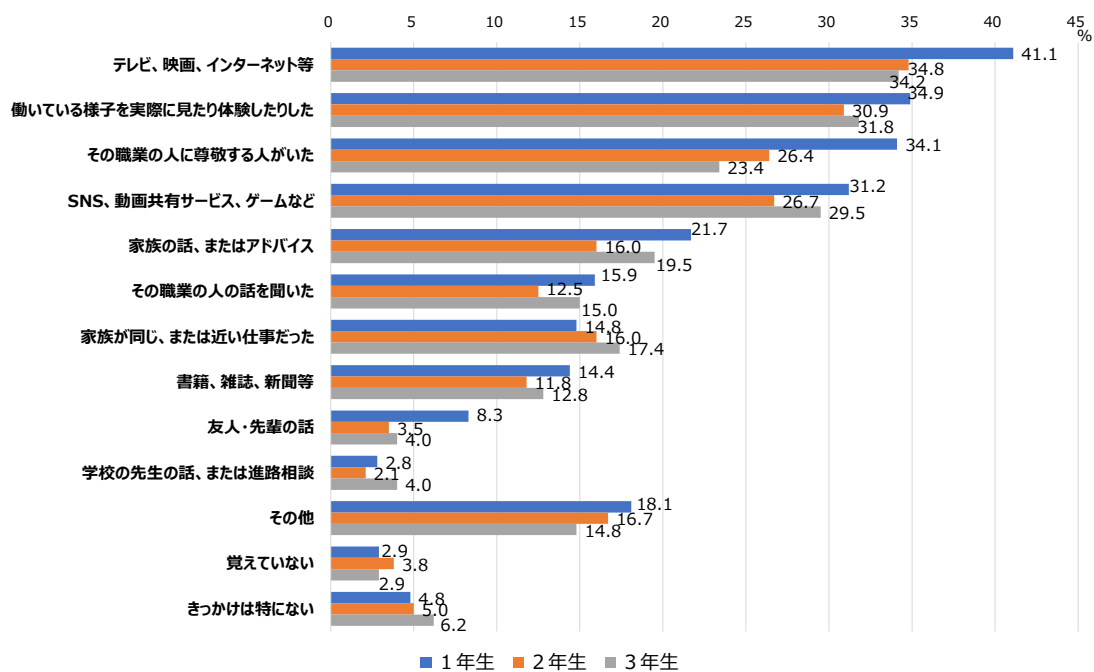
○「テレビ、映画、インターネット等」は、大学生になると顕著に少なくなり、「職場見学、職場体験などで見たり体験したりした」が増える。就職が近づくにつれ、媒体を通じた情報から、自分自身が体験等で直接的に入手した情報へと、情報の重要度が変化していく様子が見てとれる。

図表 42 就きたい職業を決めたきっかけ（中・高・大）

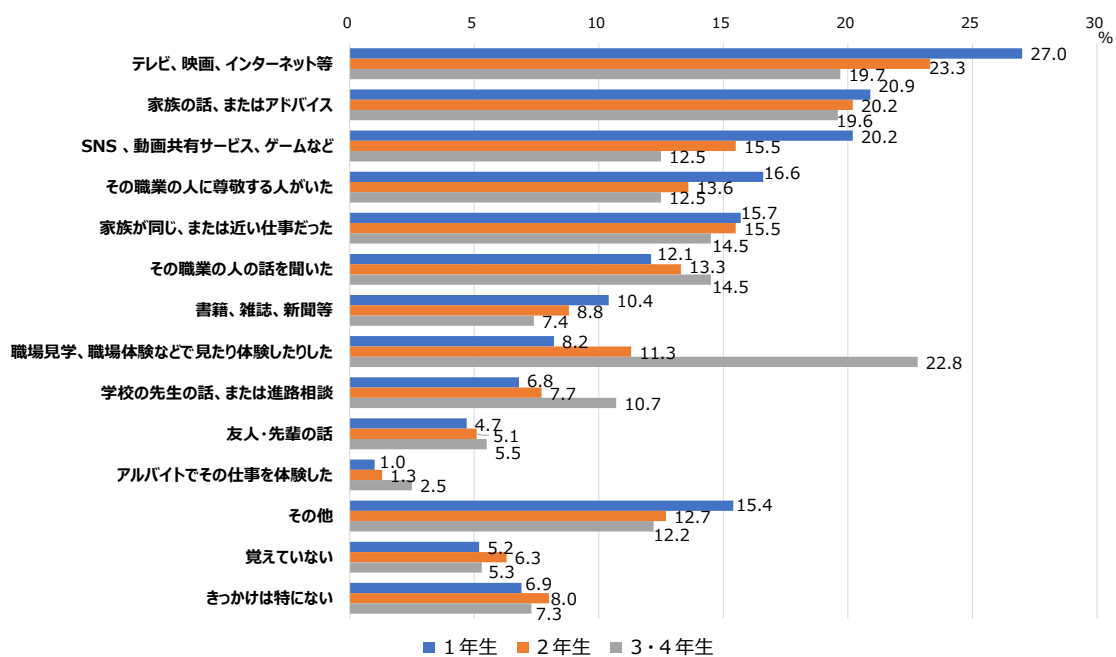


○これを学年別に見ると、高校3、4年生になって、「職場見学、職場体験などで見たり体験したりした」が一気に増えていることがわかる。

図表 43 就きたい職業を決めたきっかけ（中学生学年別）



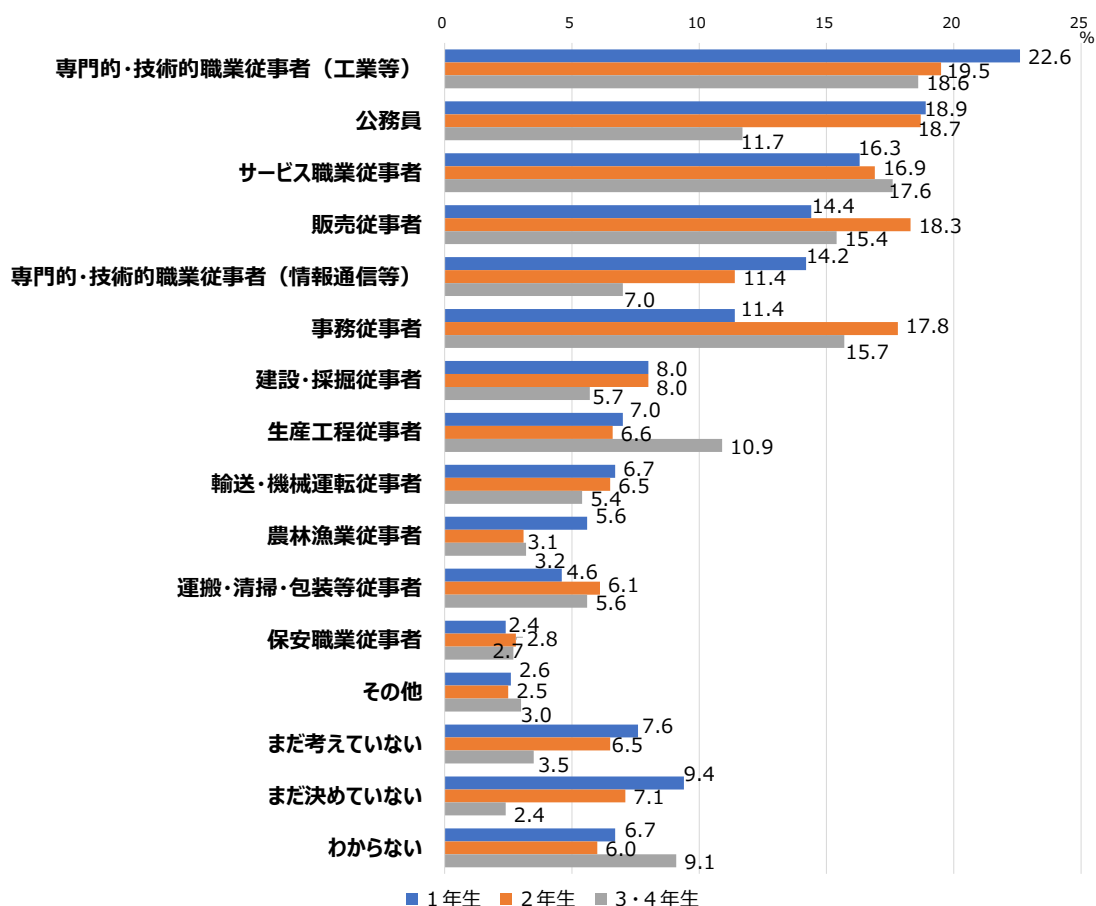
図表 44 就きたい職業を決めたきっかけ（高校生の学年別）



## ウ. 高校卒業後にすぐに就きたい仕事（高）

○「高校卒業後にすぐに就きたい仕事」（就職希望者<sup>8</sup>）を学年別に見ると、工業等の専門的・技術的職業従事者が学年を追うごとに数値は減っていくが、全体で一番多い。事務従事者は2年生で一度数値が上がり、3、4年生で少し下がる。分からないと答える3、4年生も9.1%いる状況。

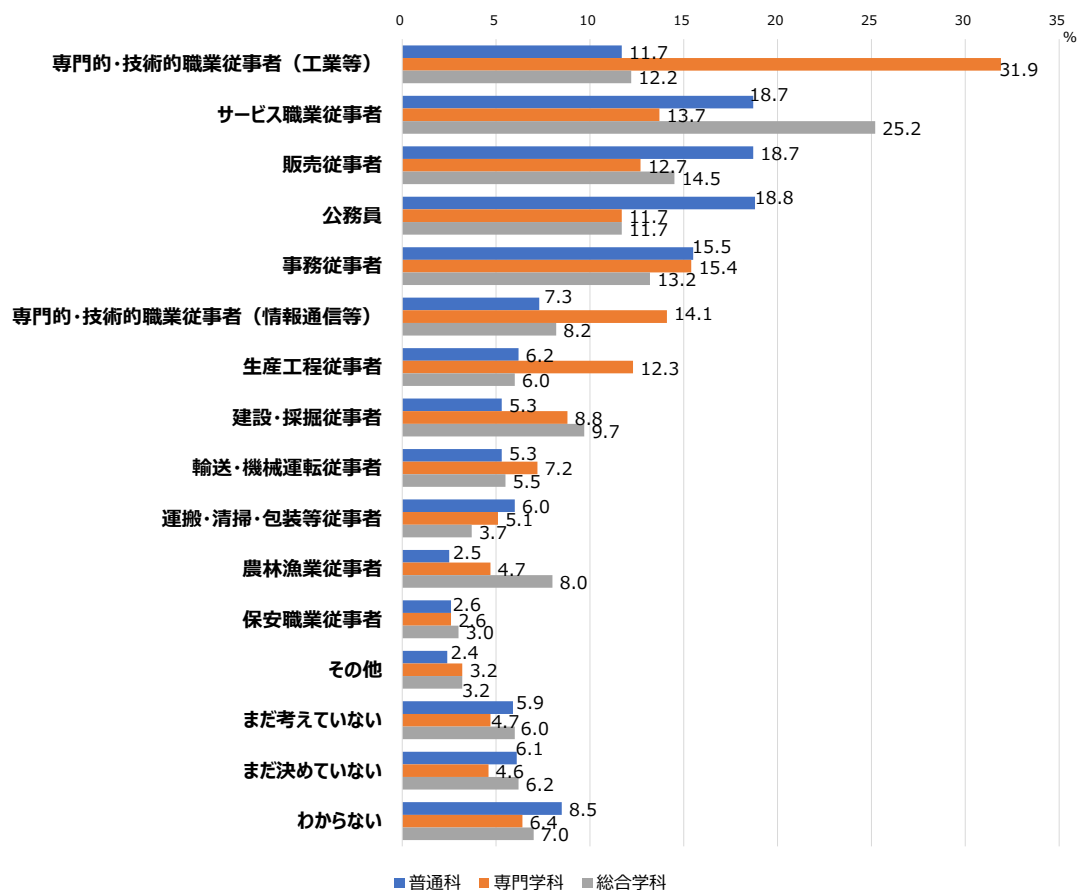
図表 45 「高校卒業後すぐに就きたい仕事」（就職希望高校生学年別）



<sup>8</sup> 対象生徒全数に対して就職希望者が占める割合は、普通科 7.0%、専門学科 27.9%、総合学科 13.6%、全体 10.4%。

○これを、在籍学科別に見ると、工業等や情報通信等の専門的・技術的職業従事者、生産工程従事者は当該専門学科の希望者が多い一方、サービス、販売、公務員は普通科の希望者が多い。

図表 46 「高校卒業後すぐに就きたい仕事」 (就職希望高校生在籍学科別)

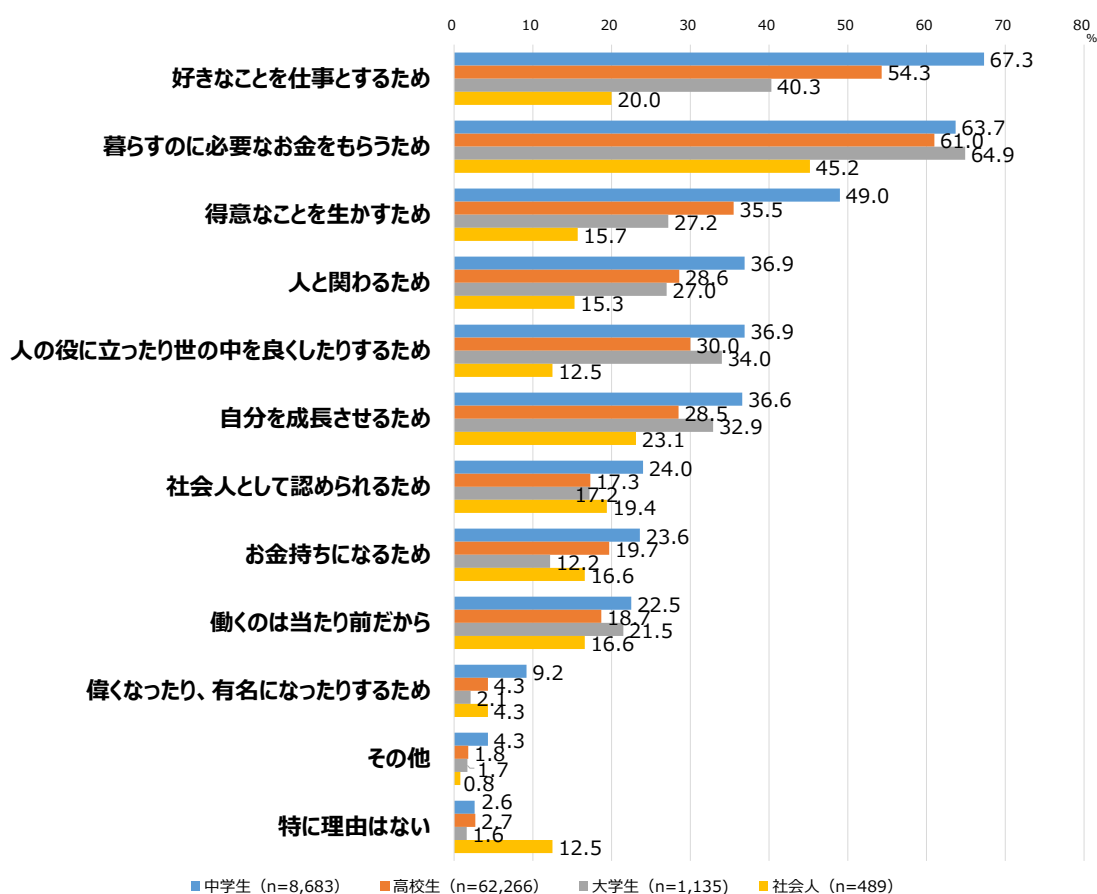


## エ. 働く目的（中・高・大・社）

○働く目的について見ると、「好きなことを仕事にするため」「得意なことを生かすため」など自己肯定感に裏づく選択については、中学生が高く、高校生から社会人にかけて低くなっていく。

○一方、「暮らすのに必要なお金」といった現実的な思考は、全ての対象で高い。中学生から社会人へと成長していく過程で、チャレンジ志向が低下し、安定感を重視する意向が強くなる傾向が見られる。

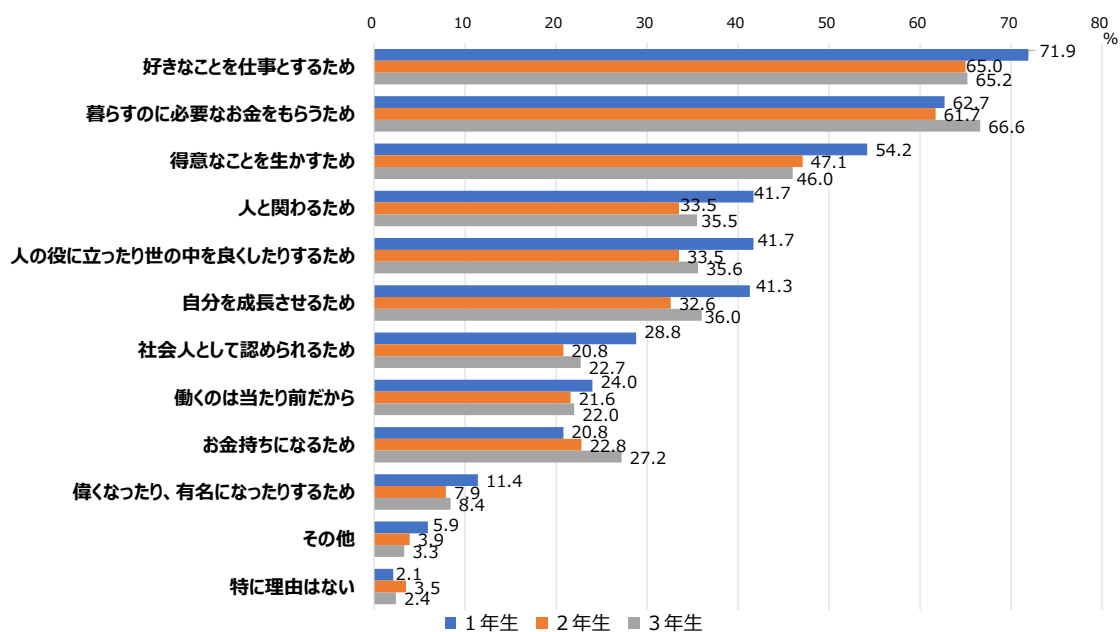
図表 47 働く目的（中・高・大・社）



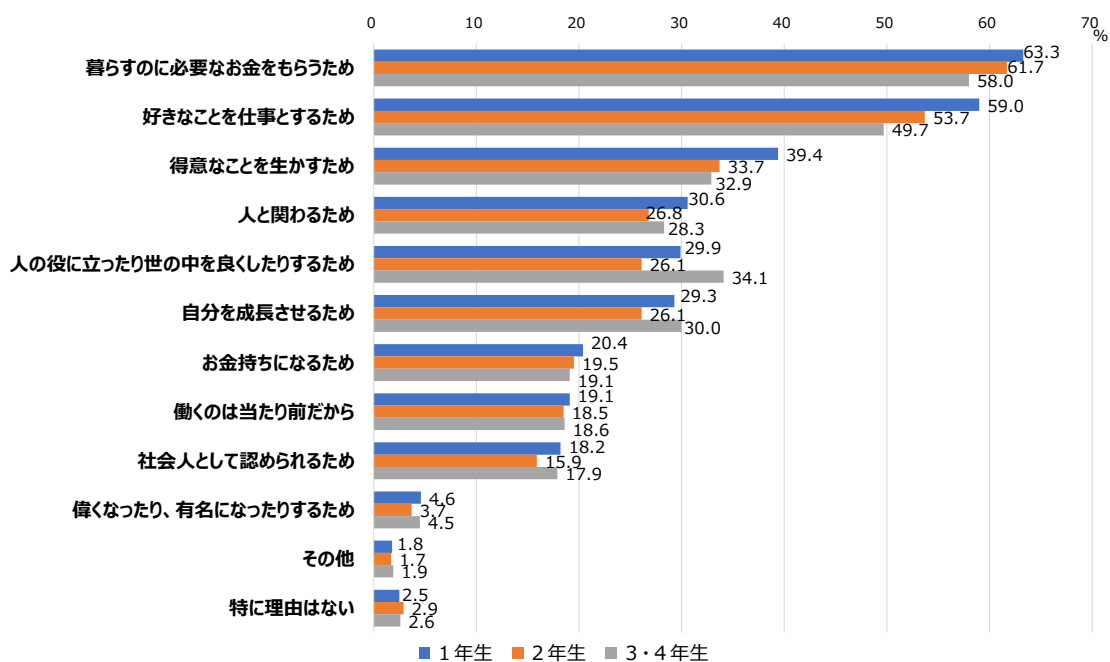


○中・高を学年別に見ると、「好きなことを仕事とするため」が中学1年生から学年を経るごとに減っていく。「人の役に立ったり世の中を良くしたりするため」や「自分を成長させるため」は、学年を経るごとに減ってきているが、高校3年生になると少々盛り返す傾向が見られる。

図表 48 働く目的（中学生学年別）

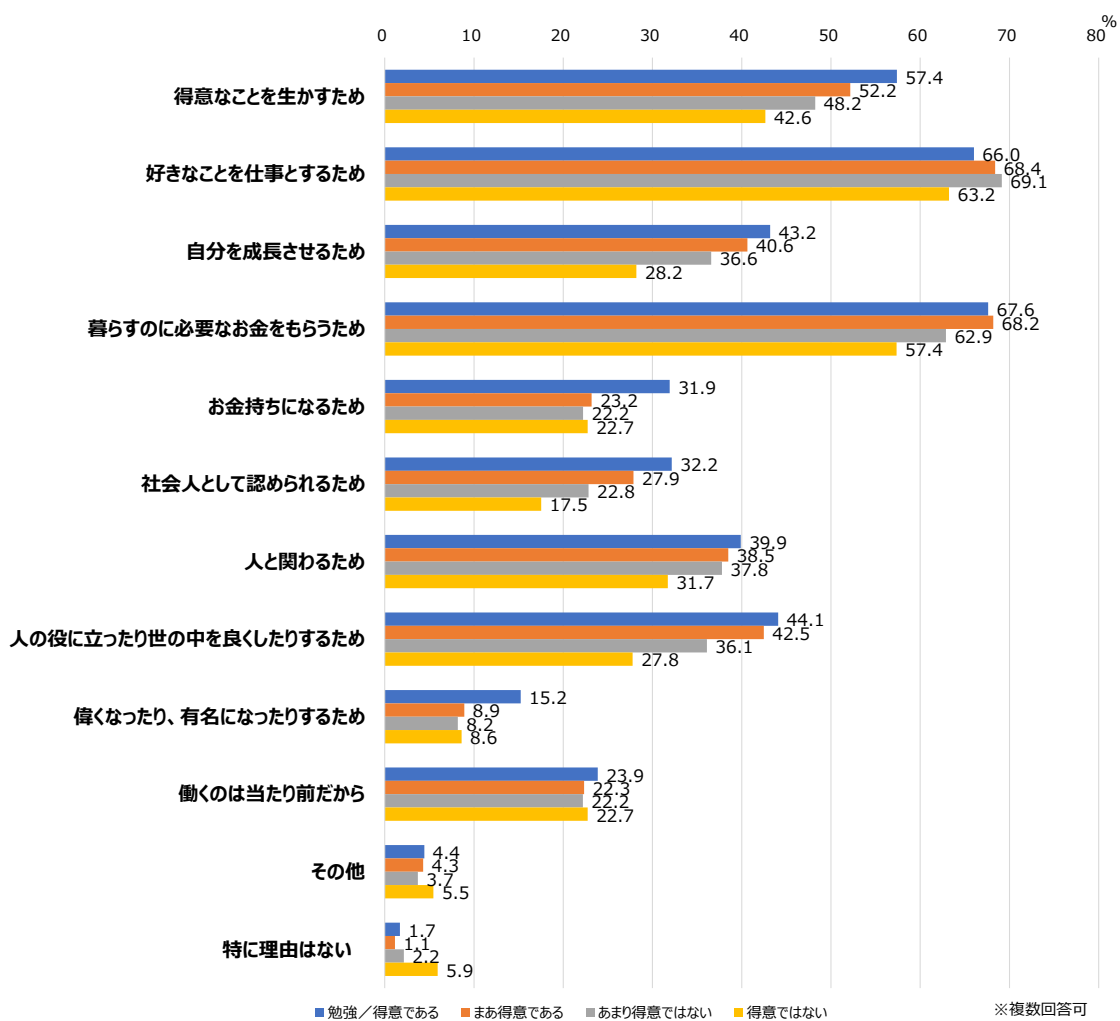


図表 49 働く目的（高校生の学年別）



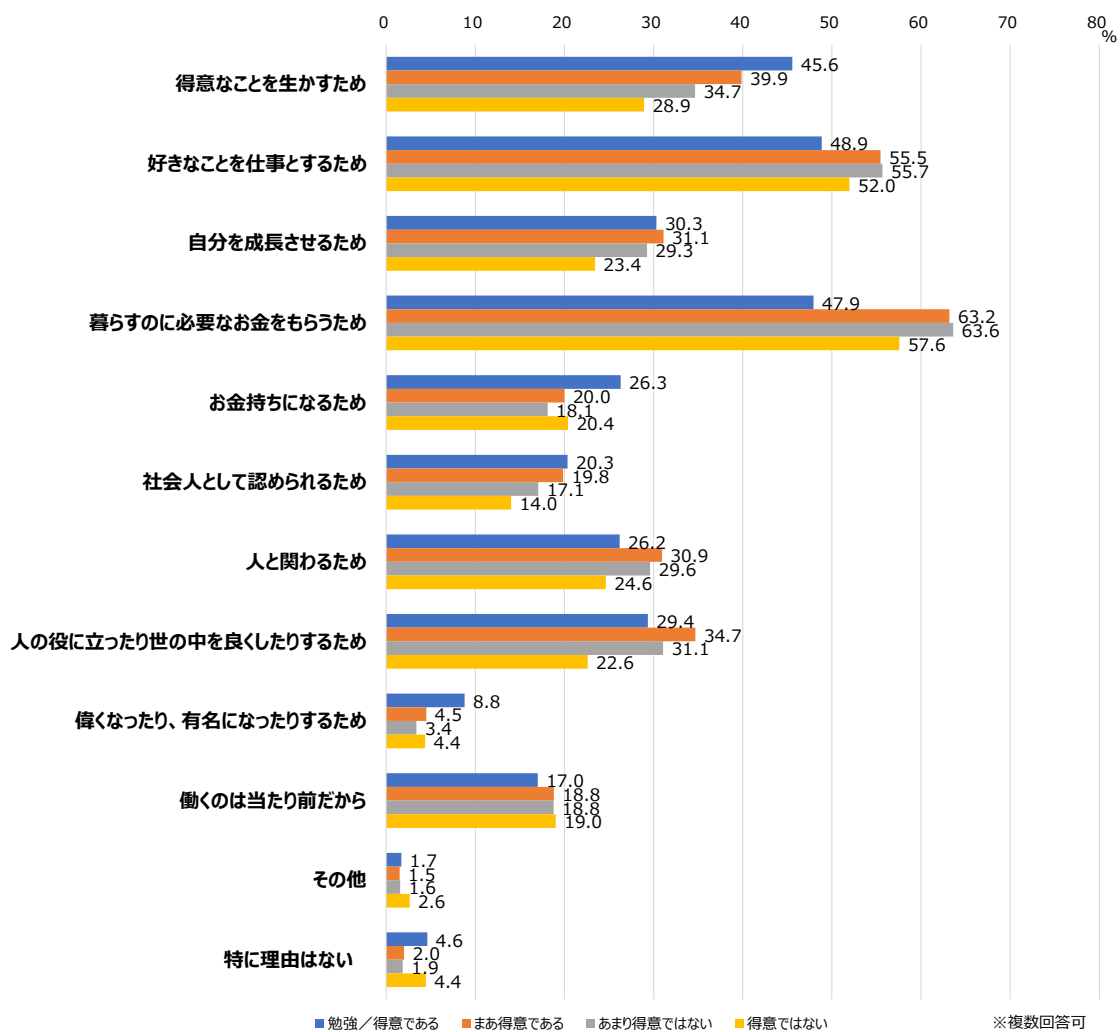
○また、中学生の「勉強は得意かどうかの自己認識」別に見ると、「勉強は得意ではない」と答えた生徒は、「得意なことを生かすため」「自分を成長させるため」「人の役に立ったり世の中を良くしたりするため」などの項目で、選択者がかなり少ない。

図表 50 働く目的（中学生「勉強は得意な方である」の回答別集計）



○同様に、高校生の「勉強は得意かどうかの自己認識」別に見ると、中学生と同じような傾向が見られるが、「得意である」と回答している生徒のうち、「暮らすのに必要なお金をもらうため」を選択している人が少ないところが特徴的。

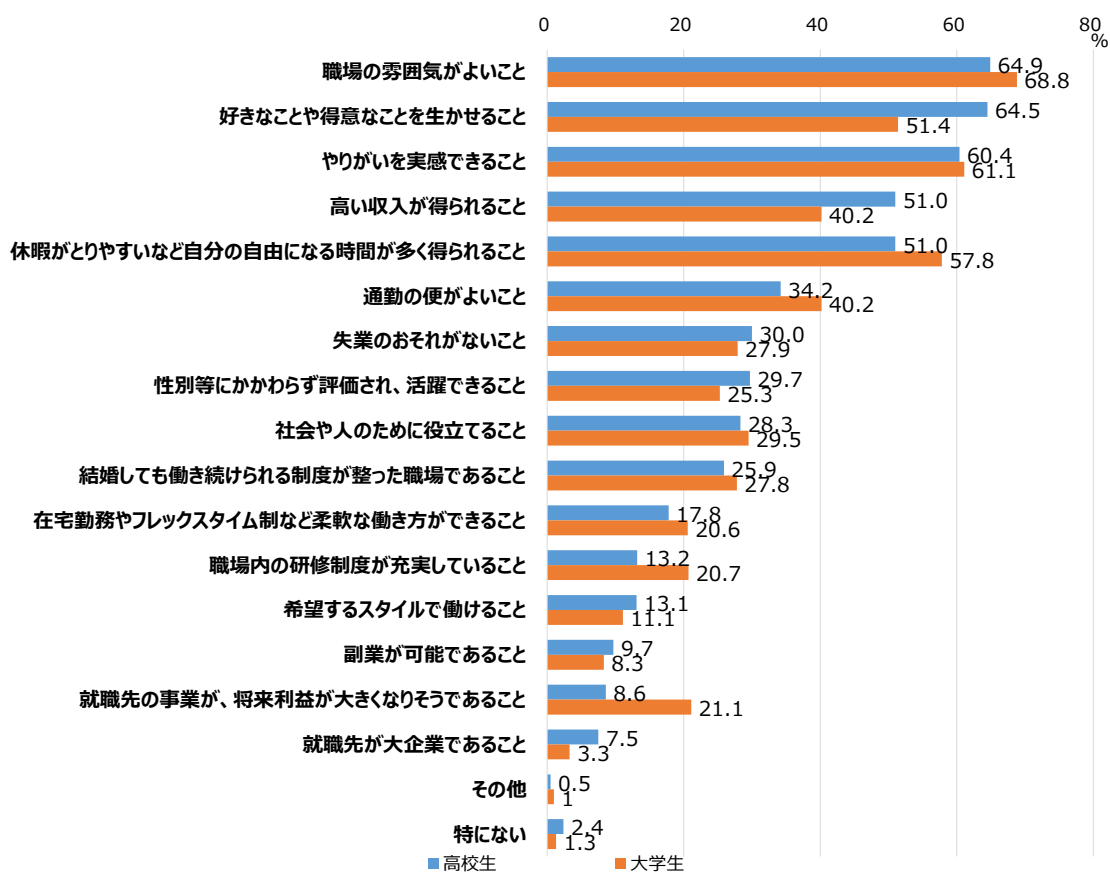
図表 51 働く目的（高校生「勉強は得意な方である」の回答別集計）



## オ. 仕事を選ぶ際に重視したいこと（高・大）

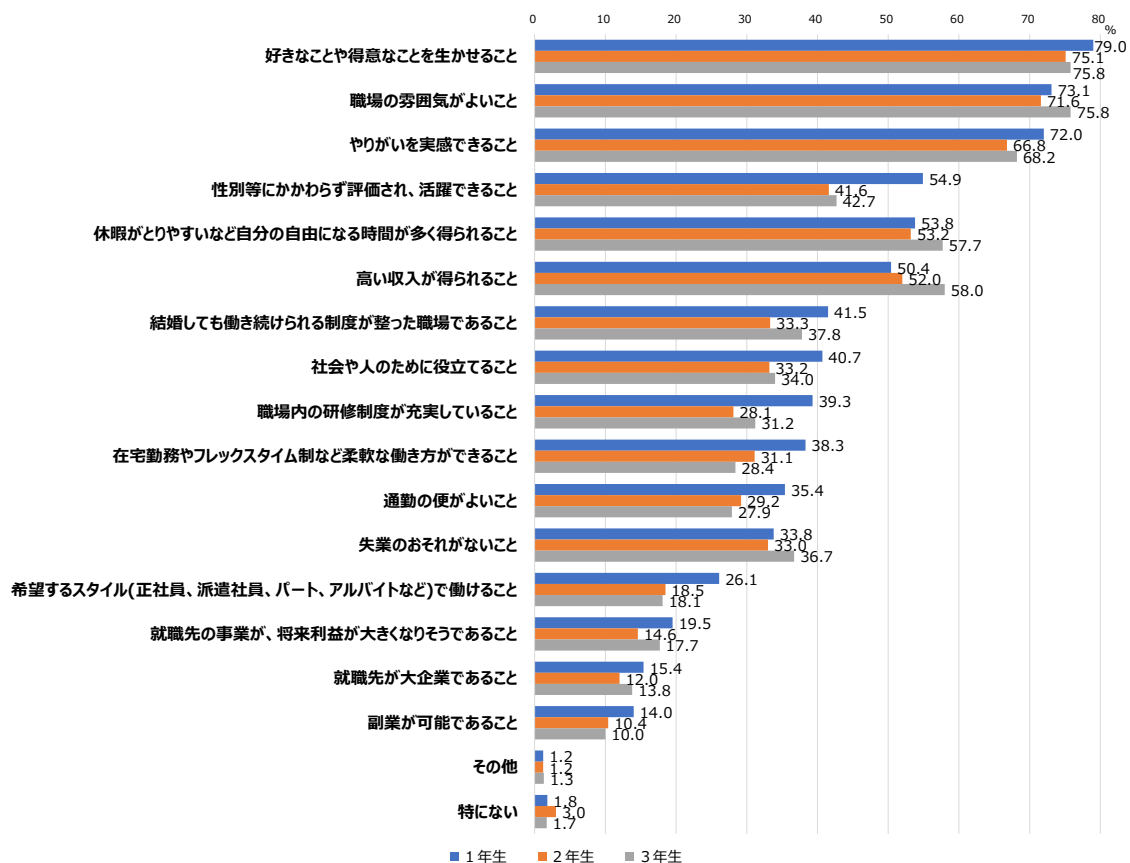
○仕事を選ぶ際に重視したいことについて見ると、高校生・大学生ともに「職場の雰囲気がよいこと」が最も多くなっている。一方、「好きなことや得意なことを生かせる」は高校生の方が大学生に比べて高い。

図表 52 仕事を選ぶ際に重視したいこと（高・大）

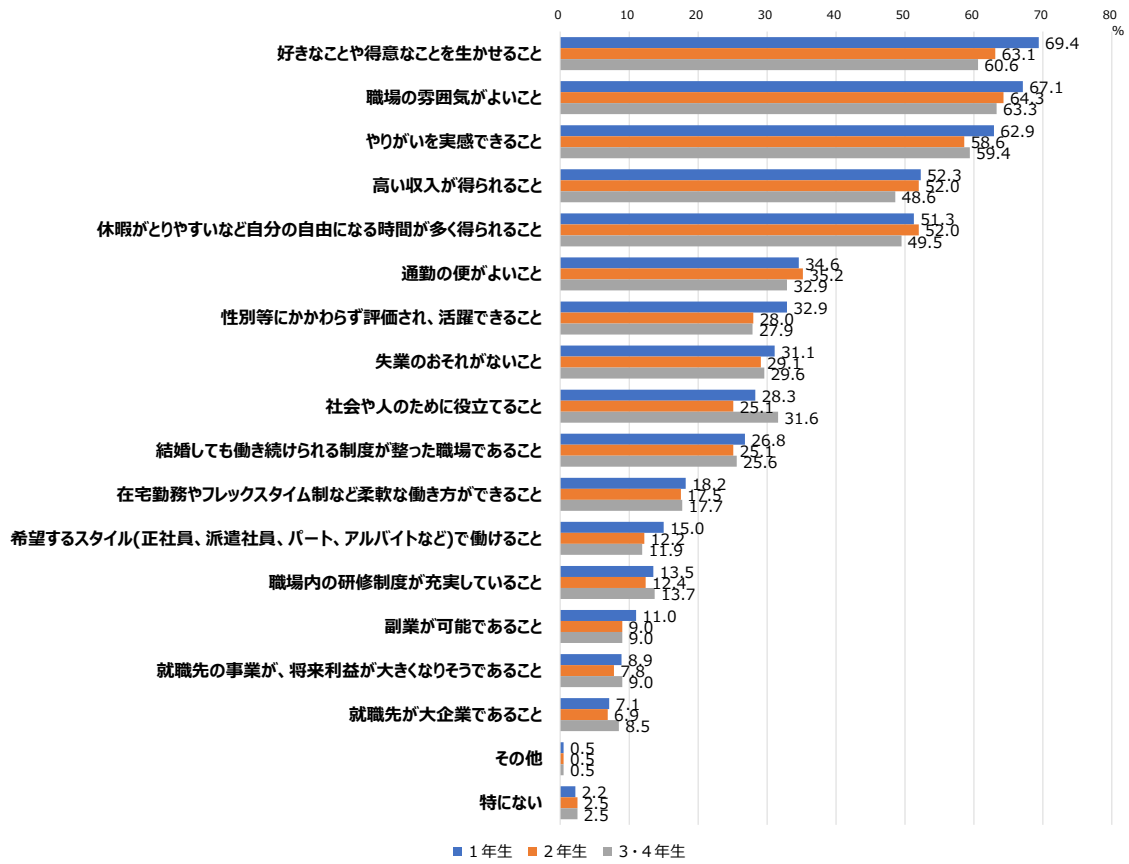


○これを中・高の学年別に見ると、「好きなことや得意なことを生かせること」は学年を経るごとに減っていく。「社会や人のために役立てること」は高校3、4年生で多少盛り返す。

図表 53 仕事を選ぶ際に重視したいこと（中学生学年別）



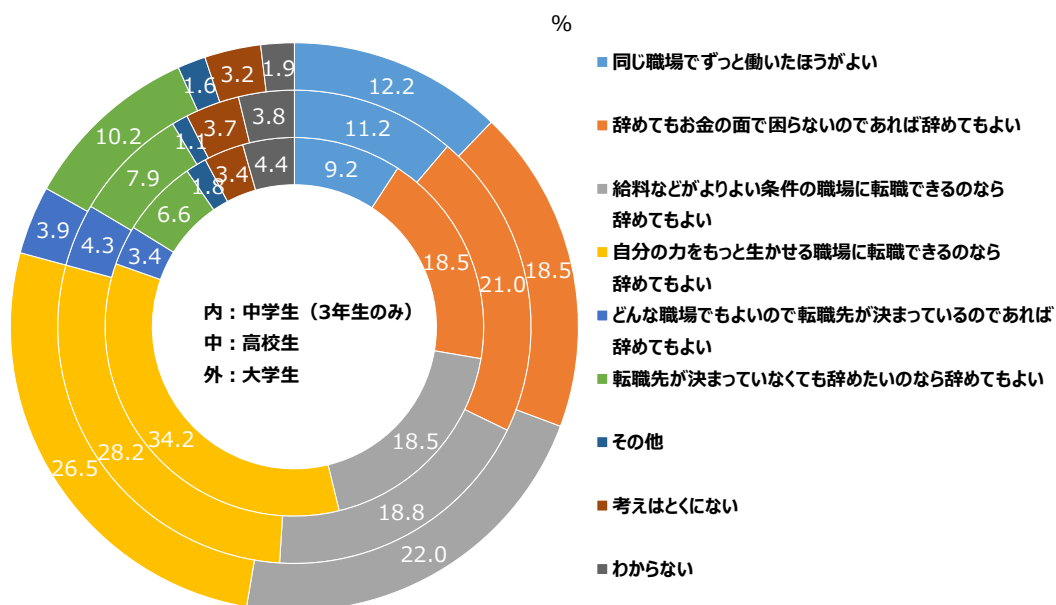
図表 54 仕事を選ぶ際に重視したいこと（高校生学年別）



## カ. 退職・転職に関する価値観（中・高・大）

○退職・転職に関する価値観について見ると、すべての対象で「自分の力をもっと生かせる職場に転職できるのなら辞めてもよい」が最も多い。旧来の「同じ職場でずっと働いたほうがよい」という考え方は約1割となっている。

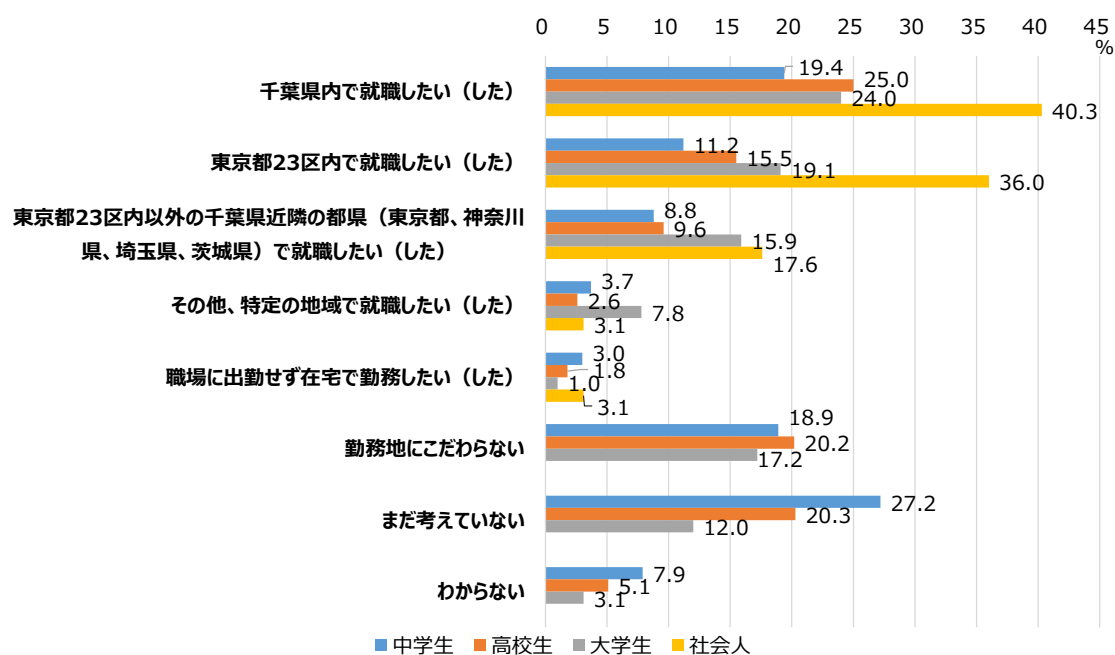
図表 55 退職・転職に関する価値観（中・高・大）



### キ. 就業場所の希望（社会人は現在の就業場所）（中・高・大・社）

○就職場所の希望（社会人は現在の就業場所）について見ると、「千葉県内での就職希望」が最も多い。「東京都内の就職希望」及び「県外での就職希望」は、中学生から大学生にかけて大きくなっている。

図表 56 就業場所の希望（中・高・大・社）

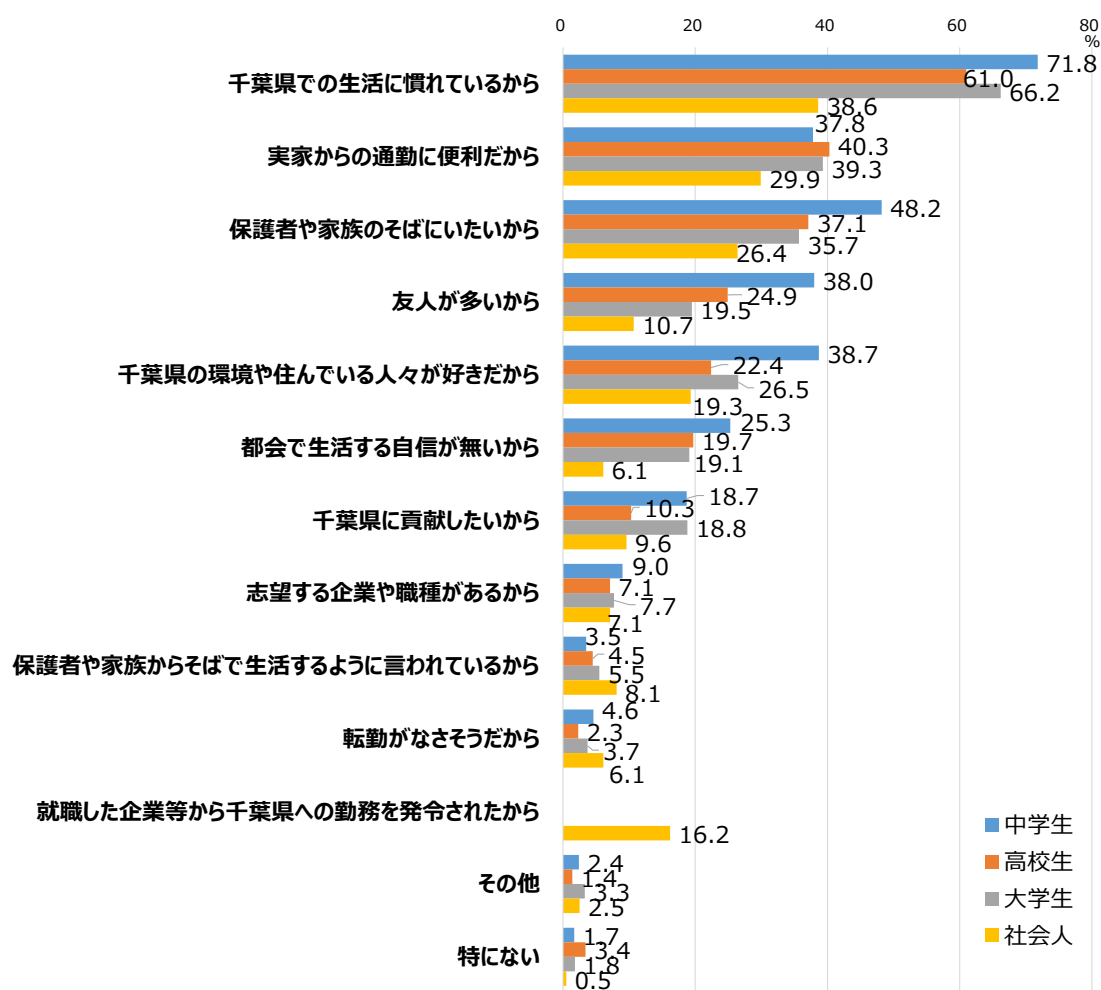




## ク. 県内で就職したい（した）理由（中・高・大・社）

○県内で就業したい（した）理由について見ると、「千葉県での生活に慣れているから」が最も多い。次いで「実家からの通勤に便利だから」が多く、長く住んだ環境を変えたくない理由から県内に就業したいという理由がうかがわれる。

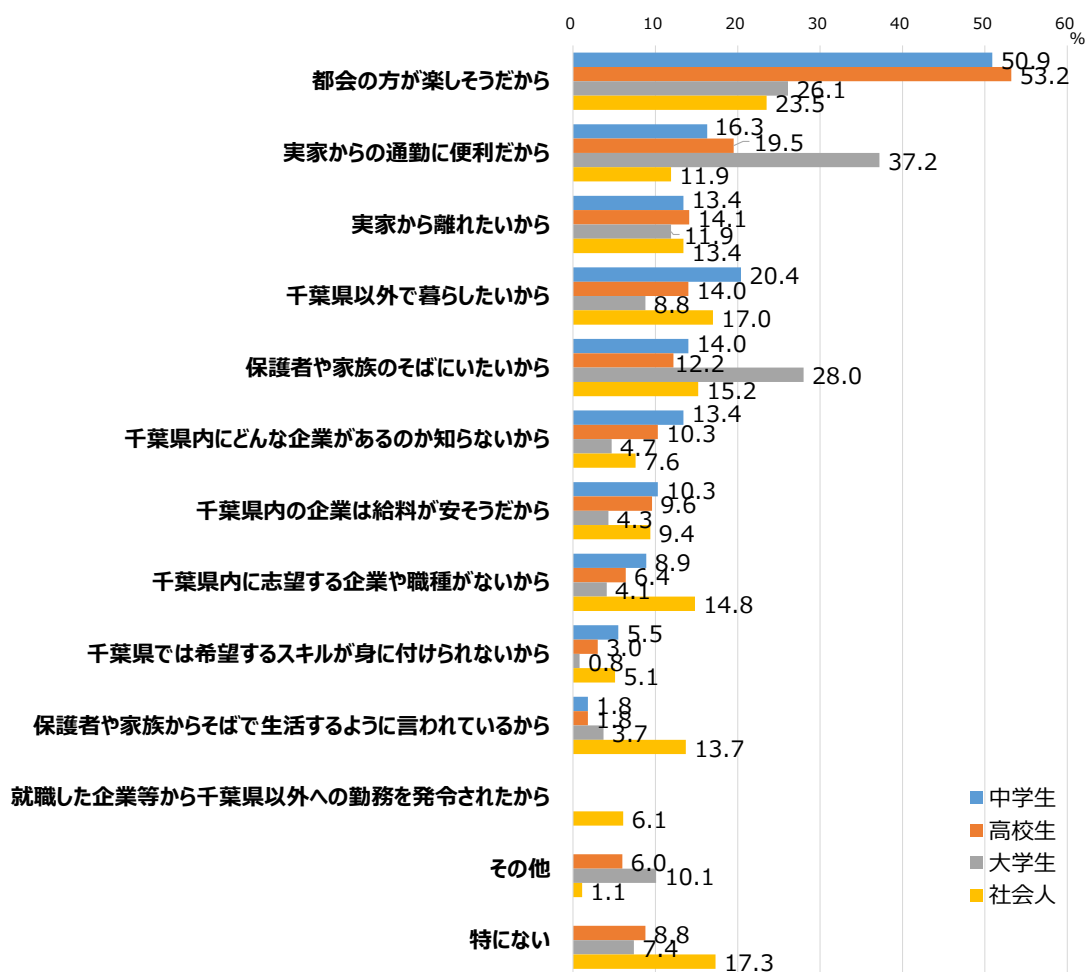
図表 57 県内で就職したい（した）理由（中・高・大・社）



## ケ. 県外で就職したい（した）理由（中・高・大・社）

○県外で就業したい（した）理由について見ると、中学生・高校生・社会人は「都会の方が楽しそうだから」が最も多い。大学生では「実家からの通勤に便利だから」となっている。

図表 58 県外で就職したい（した）理由（中・高・大・社）

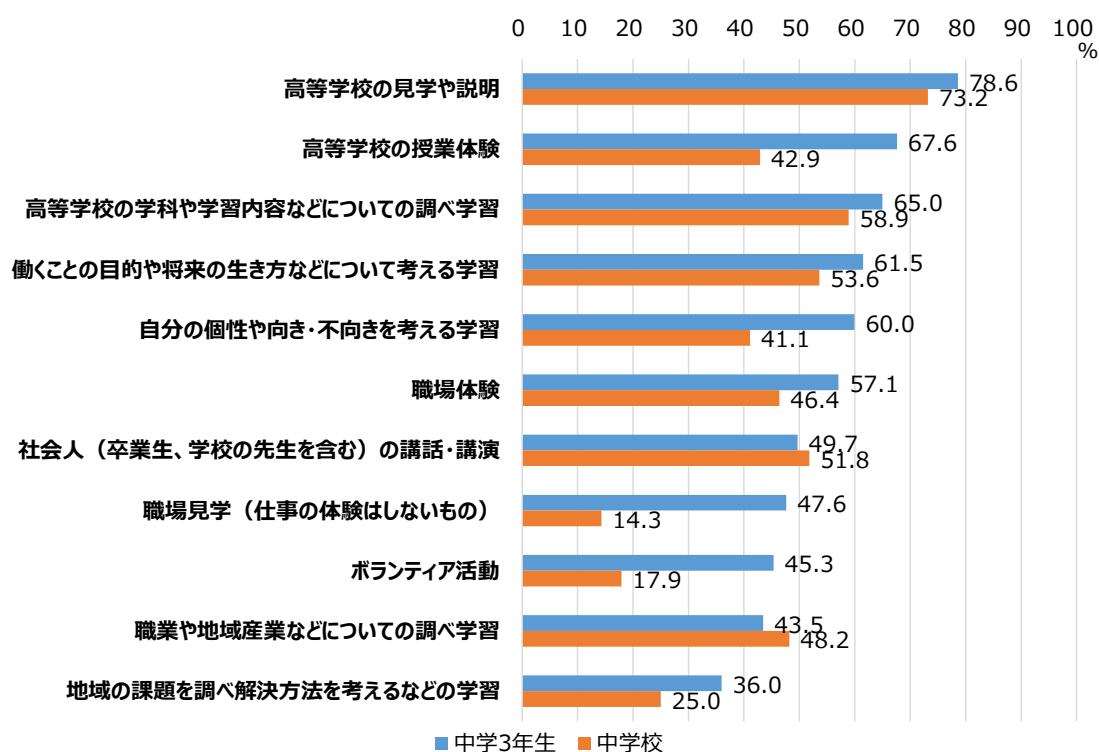


#### (4) キャリア教育等の取組とその効果

##### ア. 学校のキャリア教育等で影響を受けたこと・効果的だと思うこと（中・高・大・社・中学校・高校）

○学校のキャリア教育等の取組（生徒は影響を受けたこと<sup>9</sup>、学校は効果的だと思うこと）について、中学3年生、中学校に聞いたところ、ともに「高等学校の見学や説明」が最も多くなっている。また中学3年生では「高等学校の授業体験」「高等学校の学科や学習内容などについての調べ学習」など、進学先について実際に見聞したり調べたりすることに影響を受けていることが分かる。職場見学については、学校の回答は少ないものの、中学3年生の回答は多く、設問中、最もギャップが大きい。

図表 59 学校のキャリア教育等で影響を受けたこと・効果的だと思うこと  
（中学3年生・中学校）

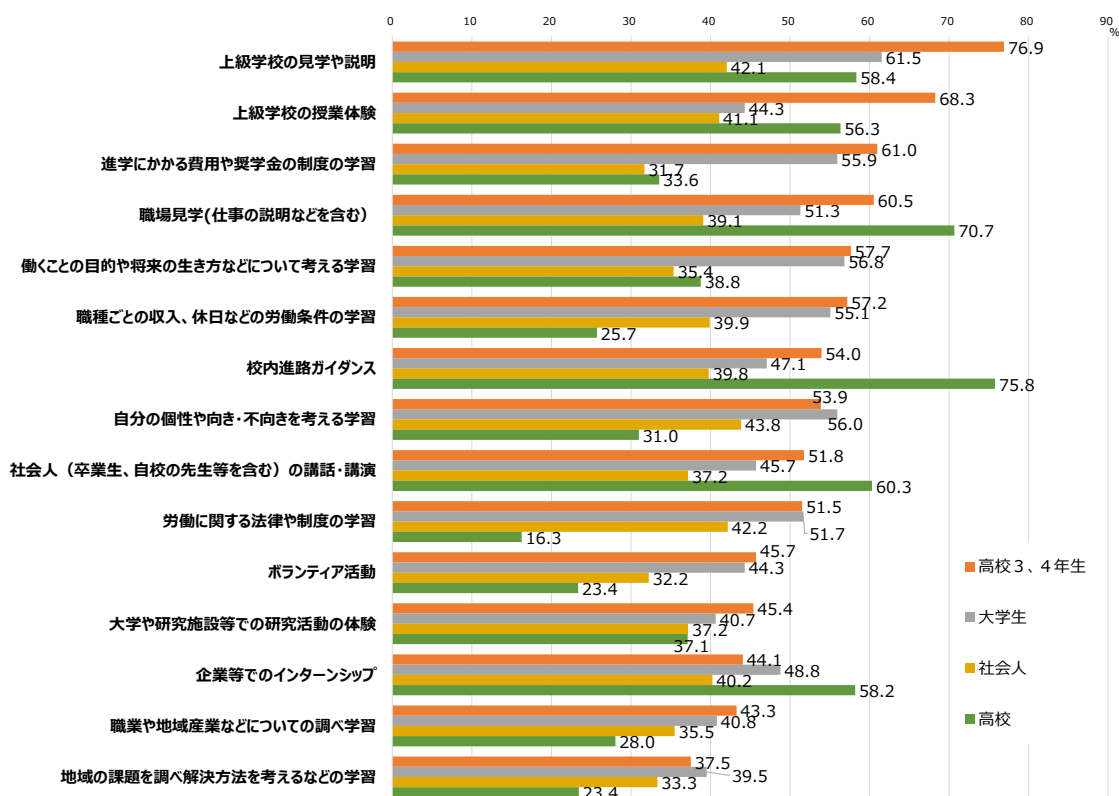


<sup>9</sup> 中学生・高校生・大学生・社会人において、「影響を受けた」、「影響を受けていない」、「そのような学習や活動はなかった」のうち、「影響を受けた」を「そのような学習や活動はなかった」を除いた全体で割った割合。また、中学校・高校において、「効果的だ」「やや効果的だ」「あまり効果的ではない」「効果的ではない」のうち、「効果的だ」と回答した割合。

○次に高校 3、4 年生・大学生・社会人・高校に対して、高校のキャリア教育等で影響を受けたこと（効果的だと思うこと）について見ると、高校 3、4 年生、大学生についても「上級学校の見学や説明」が最上位で、「上級学校の授業体験」や「進学にかかる費用や奨学金の制度の学習」がそれに次ぐ。「働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習」や「職種ごとの収入、休日などの労働条件の学習」「自分の個性や向き、不向きを考える学習」なども相応に多い。

○社会人は「自分の個性や向き・不向きを考える学習」、高校は「校内進路ガイダンス」が多くなっている。「校内進路ガイダンス」の効果については、高校 3、4 年生と高校側の認識に大きな開きが見られる。

図表 60 学校のキャリア教育等で影響を受けたこと  
(高校 3、4 年生・大学生・社会人・高校)



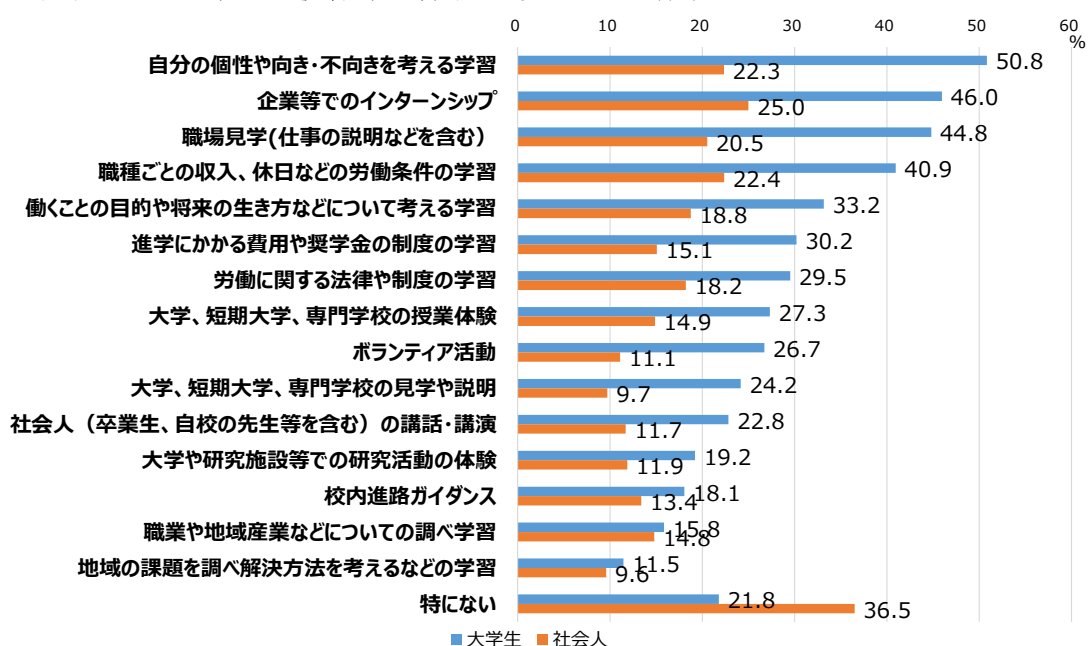
図表 61 学校のキャリア教育等で影響を受けたこと（各対象、上位5つ）

	中学3年生	中学校
1位	高等学校の見学や説明	高等学校の見学や説明
2位	高等学校の授業体験	高等学校の学科や学習内容などについての調べ学習
3位	高等学校の学科や学習内容などについての調べ学習	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習
4位	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習	社会人（卒業生、学校の先生を含む）の講話・講演
5位	自分の個性や向き・不向きを考える学習	職業や地域産業などについての調べ学習
	高校3、4年生	高校
1位	上級学校の見学や説明	校内進路ガイダンス
2位	上級学校の授業体験	職場見学(仕事の説明などを含む)
3位	進学にかかる費用や奨学金の制度の学習	社会人（卒業生、自校の先生等を含む）の講話・講演
4位	職場見学(仕事の説明などを含む)	上級学校の見学や説明
5位	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習	企業等でのインターンシップ
	大学生	社会人
1位	上級学校の見学や説明	自分の個性や向き・不向きを考える学習
2位	働くことの目的や将来の生き方などについて考える学習	労働に関する法律や制度の学習
3位	自分の個性や向き・不向きを考える学習	上級学校の見学や説明
4位	進学にかかる費用や奨学金の制度の学習	上級学校の授業体験
5位	職種ごとの収入、休日などの労働条件の学習	企業等でのインターンシップ

## イ. キャリア教育等で将来を考える上で体験できればよかったこと（大・社）

○キャリア教育等で将来を考える上で体験できればよかったこと<sup>10</sup>については、大学生・社会人ともに「自分の個性や向き・不向きを考える学習」「企業等でのインターンシップ」「職場見学」のほか、「職種ごとの収入、休日などの労働条件の学習」も多くなっている。「自己理解」と「職業理解」に関するキャリア教育が体験できればよかったとの回答が多いことがわかる。

図表 62 キャリア教育等で将来を考える上で体験できればよかったこと



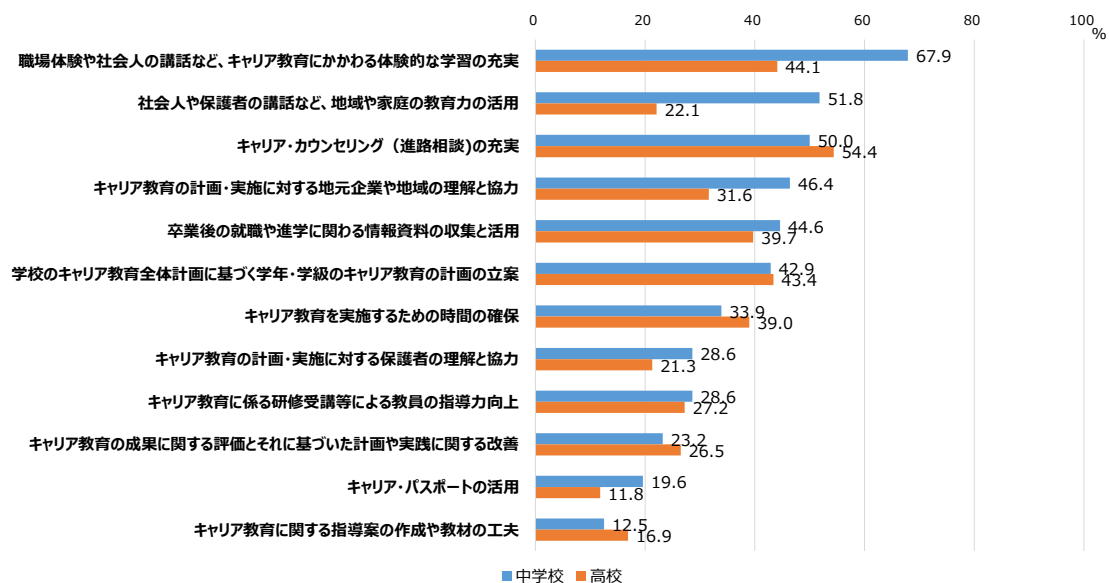
<sup>10</sup> 設問「学校のキャリア教育等で影響を受けたこと」で「そのような学習や活動はなかった」と回答した項目の中で選んだ割合。

## ウ. キャリア教育推進に向けての取組（学校）

### （ア）キャリア教育推進に向けて重視すること（中学校・高校）

○キャリア教育推進に向けて重視することについて見ると、中学校は、「職場体験や社会人の講話など、キャリア教育にかかわる体験的な学習の充実」が最も多く、高校は「キャリア・カウンセリング（進路相談）の充実」が最も多い。

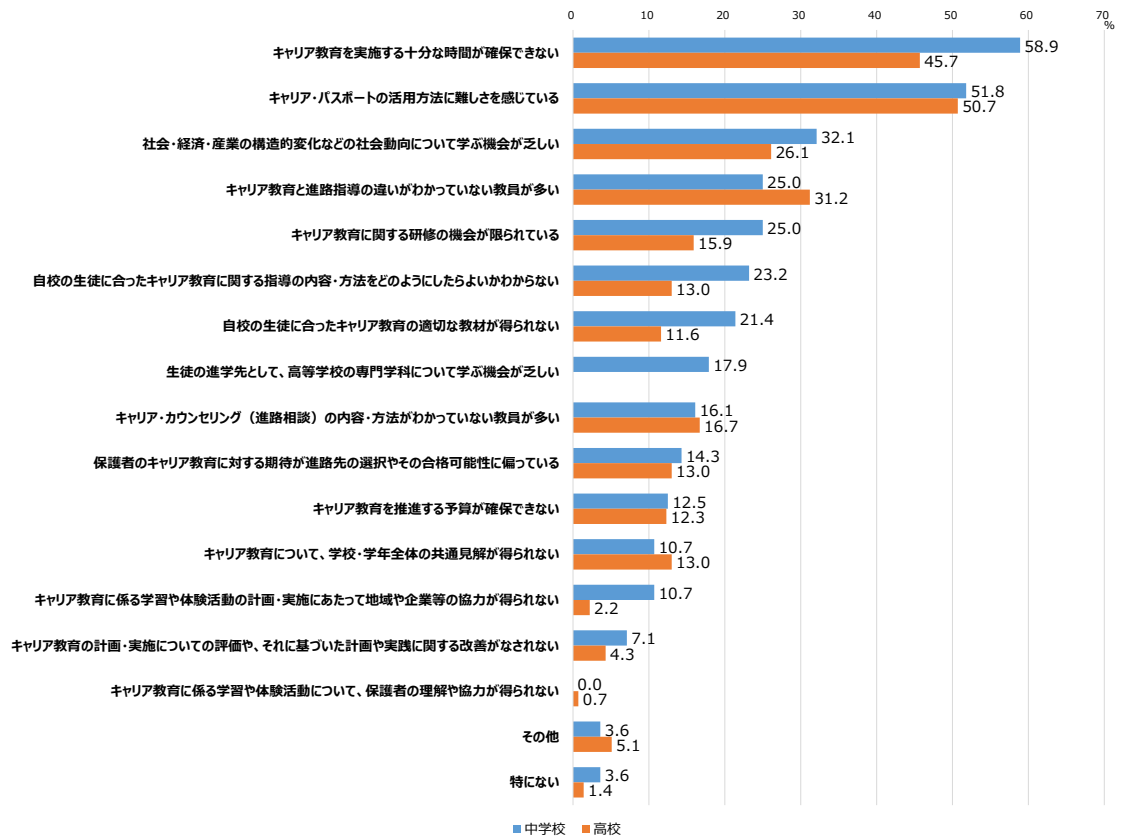
図表 63 キャリア教育推進に向けて重視すること



### （イ）キャリア教育推進に向けて困っていること（中学校・高校）

○ キャリア教育推進に向けて困っていることについて、「キャリア教育を実施する十分な時間が確保できない」が多くなっており、キャリア教育を推進する上での時間確保について課題と感じている学校が多い。アンケートの自由記載欄でも、教員の業務多忙に関する意見が聞かれた（詳細は別冊の学校向けアンケート調査結果を参照のこと）。また、「キャリア・パスポートの活用方法に難しさを感じている」の回答も多い。

図表 64 キャリア教育推進に向けて困っていること

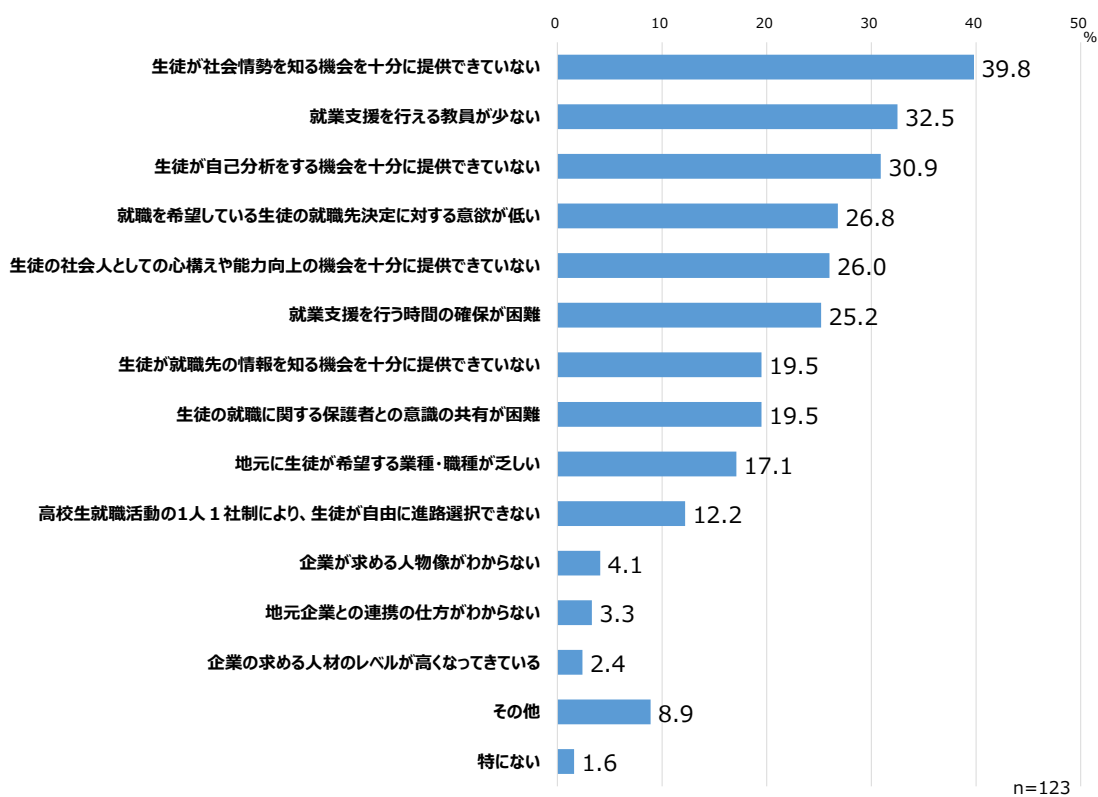




### (ウ) 就職を支援する上での課題（高校）

○就職を支援する上での課題について見ると、「生徒が社会情勢を知る機会を十分に提供できていない」が最も多く、次いで「就職支援を行える教員が少ない」、「生徒が自己分析をする機会を十分に提供できていない」となっている。速いテンポで変化する社会情勢について、教員が生徒へ伝えるための教材や伝えることができる教員が不足していること、高卒就職者に対して、就業支援に対応できる教員が少なく、生徒自身が自己分析を行える機会の提供が十分でないことを課題として認識している。

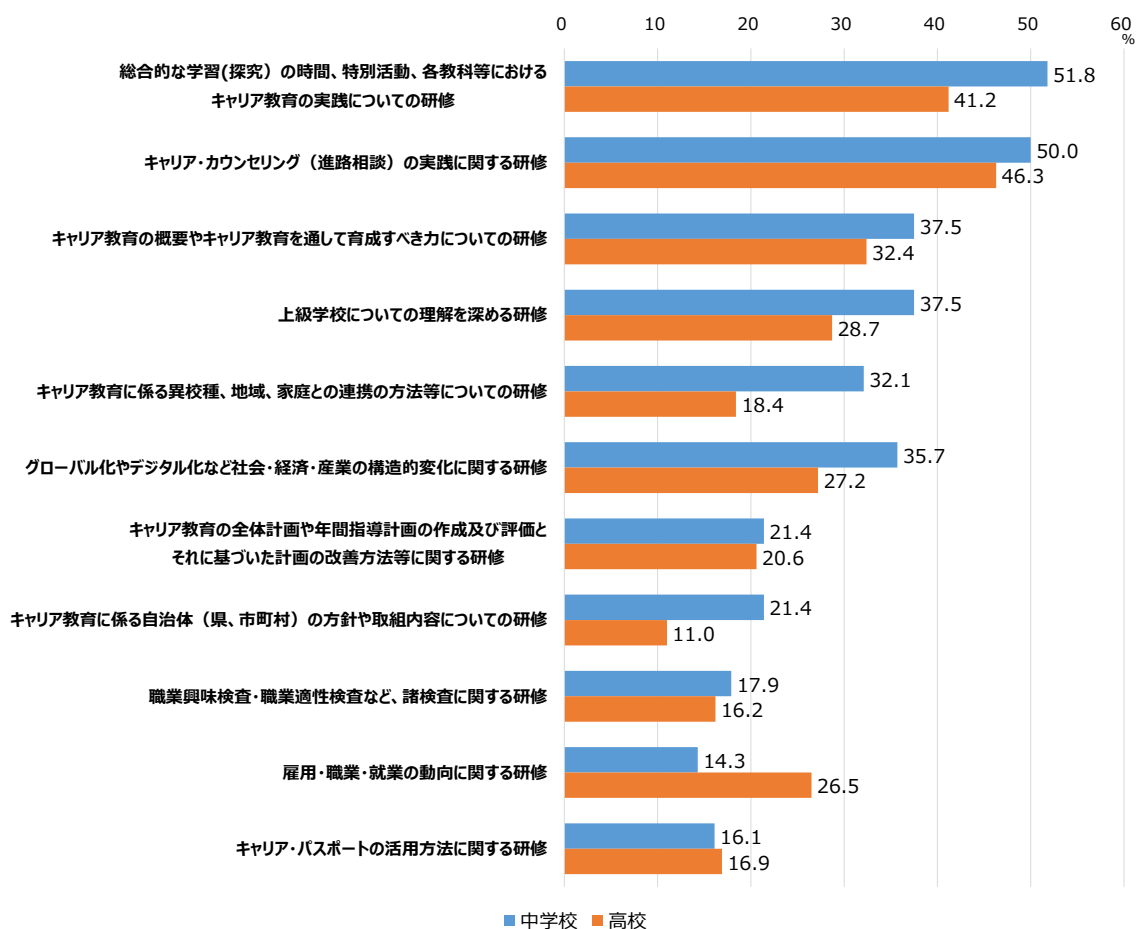
図表 65 就職を支援する上での課題



### (エ) キャリア教育を推進する上で効果的な研修（中学校・高校）

○キャリア教育を推進する上で効果的な研修<sup>11</sup>を見ると、「総合的な学習（探究）の時間、特別活動、各教科等におけるキャリア教育の実践についての研修」が最も多く、次いで「キャリア・カウンセリング（進路相談）の実践に関する研修」となっている。

図表 66 キャリア教育を推進する上で効果的な研修



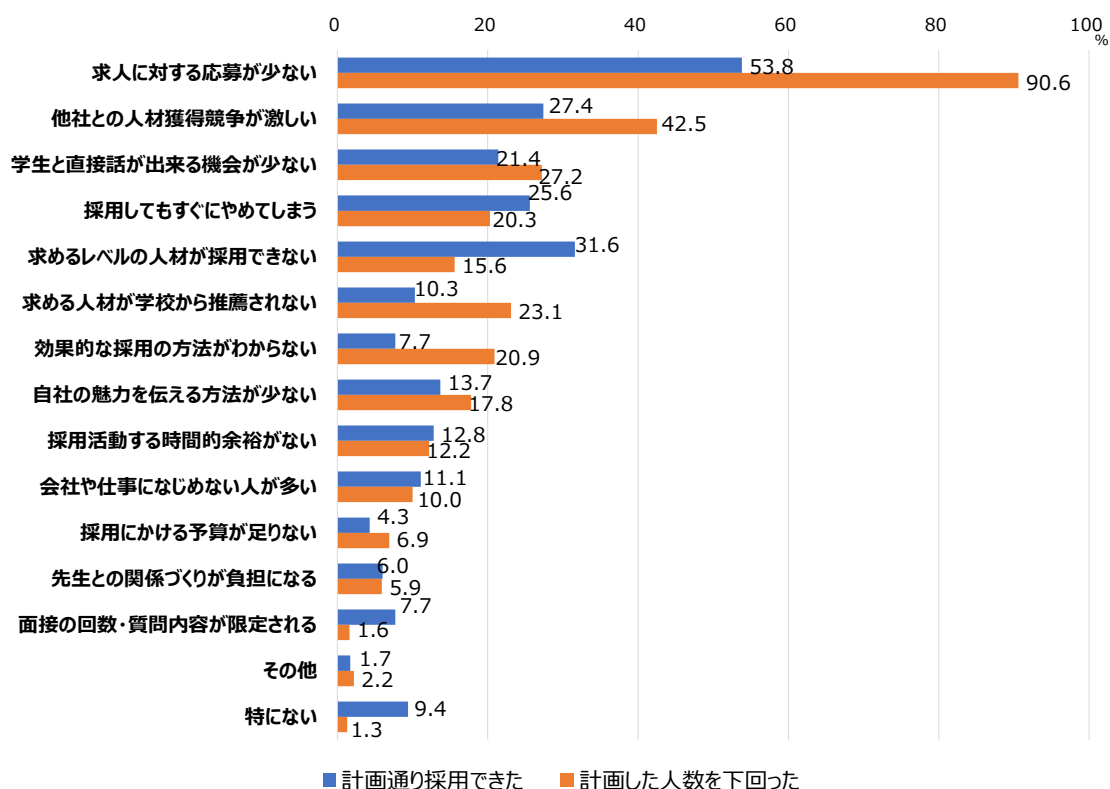
<sup>11</sup> 「効果的だ」「やや効果的だ」「あまり効果的ではない」「効果的ではない」のうち、「効果的だ」と回答した割合。

## (5) 県内企業の新卒採用に係る課題と取組

### ア. 新卒高卒者の採用に当たっての課題

○新卒高卒者を「計画どおり採用できた」、「下回った」の回答別に、採用に当たっての県内企業の課題を見ると、「計画を下回った」企業については、「応募が少ない」、「人材獲得競争が激しい」、「求める人材が推薦されない」、「効果的な採用方法がわからない」などの回答が多い。

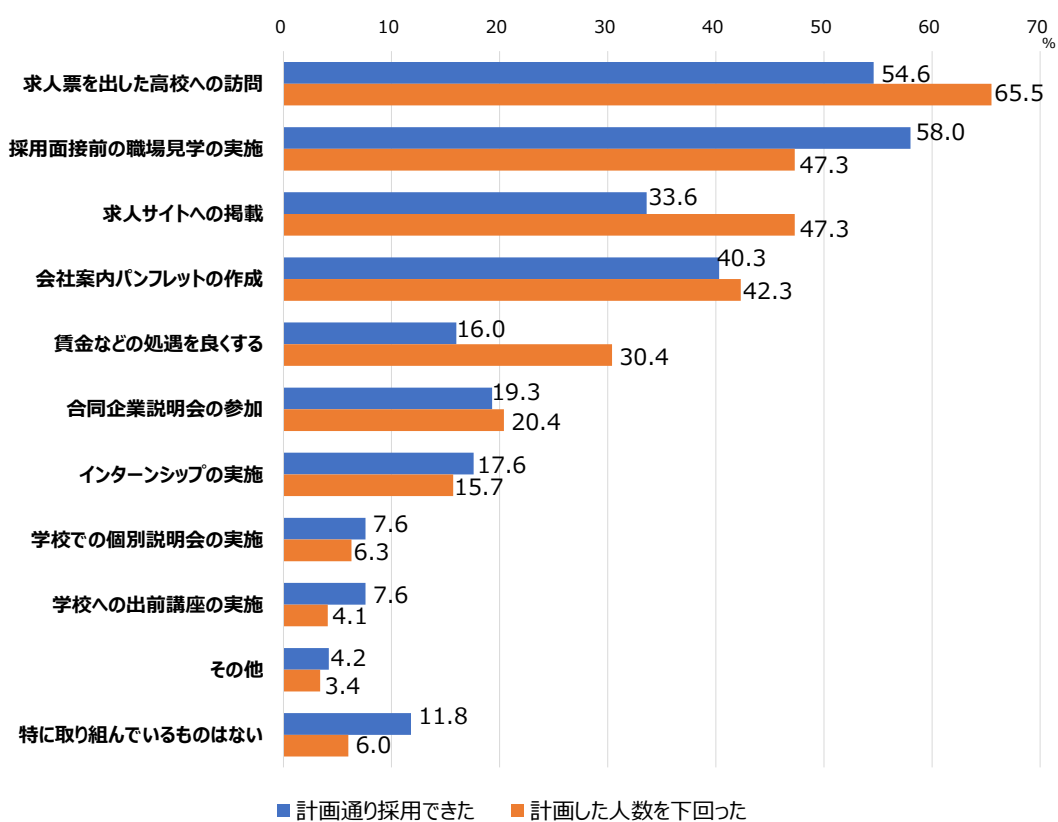
図表 67 新卒高卒者に当たっての課題（「計画通り採用できた」「下回った」別）



## イ. 課題に対する取組（新卒高卒者）

○課題に対する取組を、「計画どおり採用できた」「下回った」別に見ると、「計画を下回った」企業は、計画どおり採用できた企業と比較して、「高校への訪問」や「求人サイトへの掲載」、「処遇の改善」などに多く取り組んでいる。そうした中で、「採用面接前の職場見学」については、「計画どおり採用できた」企業の方が多く取り組んでいる。

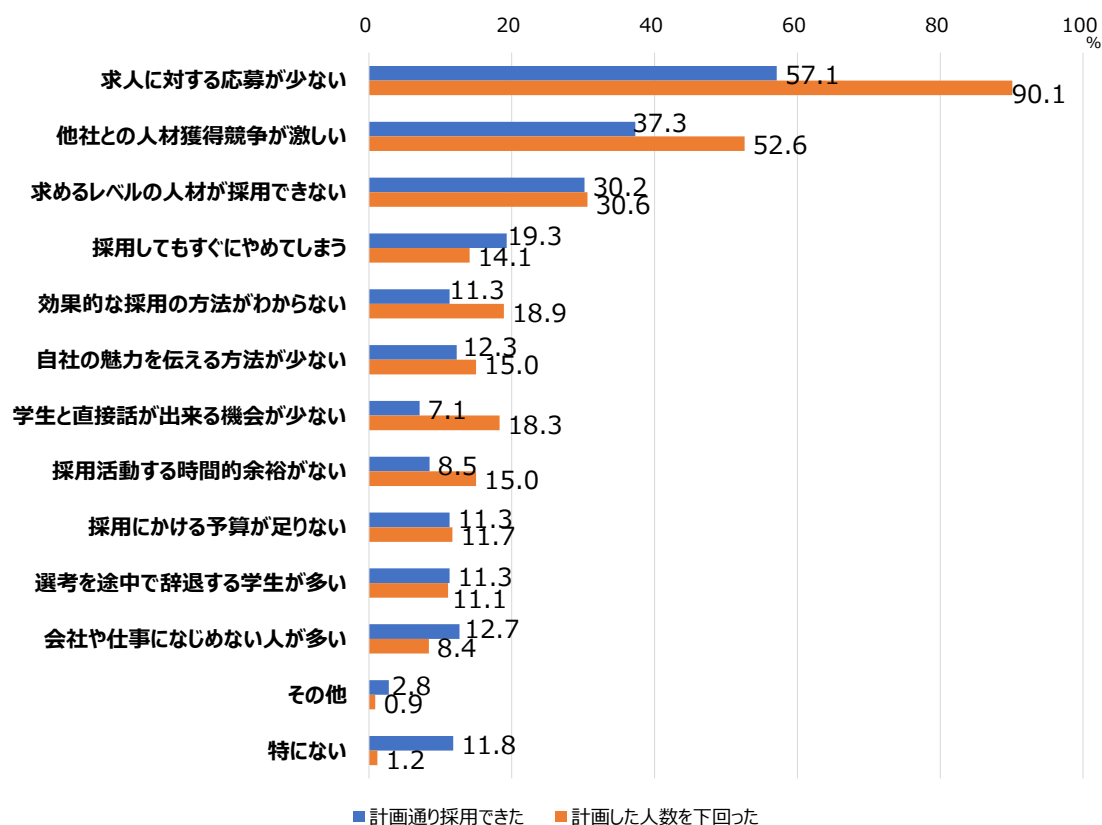
図表 68 新卒高卒者採用の課題に対する取組  
（「計画通り採用できた」「下回った」別）



## ウ. 新卒大卒者等の採用に当たっての課題

○新卒大卒者等を「計画どおり採用できた」、「下回った」の回答別に、採用に当たっての県内企業の課題を見ると、「下回った」企業は、「求人に対する応募が少ないこと」、「人材獲得競争が激しいこと」、「効果的な採用方法がわからないこと」、「学生と直接話ができる機会が少ないこと」などを比較的多く挙げている。

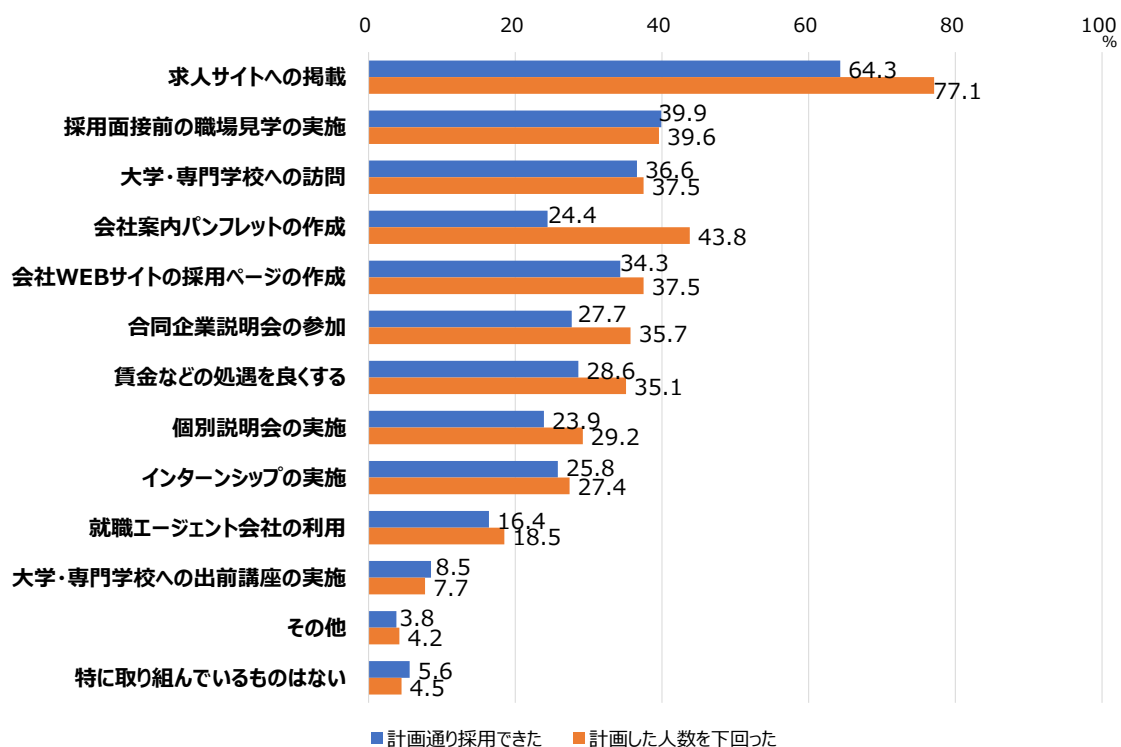
図表 69 新卒大卒者等に当たっての課題（「計画通り採用できた」「下回った」別）



## エ. 課題に対する取組（新卒大卒者等）

○課題に対する取組を、「計画どおり採用できた」「下回った」別に見ると、「計画を下回った」企業は、計画どおり採用できた企業と比較して、「求人サイトへの掲載」や、「会社案内パンフレットの作成」に取り組んでいる様子が分かる。

図表 70 新卒大卒者等採用の課題に対する取組  
（「計画通り採用できた」「下回った」別）



### 3. アンケート調査結果のまとめ

---

#### (1) 生徒・学生・社会人の自己認識・仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力

##### ア. 生徒・学生・社会人の自己認識

(ア) 基礎的・汎用的能力の自己認識

(ウ) 基礎的・汎用的能力の自己認識（「勉強は得意な方である」の回答別）

- ・全対象において、「人間関係形成・社会形成能力」に比べて、「キャリアプランニング能力」についての認識が相対的に低い。
- ・中学生段階より高校生段階が大きく低下する傾向が見られる。
- ・高校の普通科の生徒より、専門学科、総合学科の生徒がキャリアプランニング能力の認識において高い傾向にあり、特に「働くことの意味」については、専門学科の生徒の意識が比較的高い。
- ・「勉強は得意である」とする生徒の方が、基礎的・汎用的能力の自己認識が高い。

(イ) 職業適性・社会認識・将来の展望等

(エ) 職業適性・社会認識・将来の展望等（「勉強は得意な方である」の回答別）

- ・全対象において、「保護者や家族とよく会話をする」との回答が多く、保護者、家族との関係が深く、その影響力が大きいと想定される。
- ・職業適性の認識については、中学生の約4割が肯定的に回答しており、発達段階を追うごとに増加するが、社会人でも6割の水準に留まっている。
- ・中学3年生、高校3年生の層では、各項目とも若干高い傾向があり、進学や就職など次のステップを意識していることが窺われる。
- ・高校では、専門学科、総合学科の生徒の方が、普通科の生徒と比較して「自分がどのような職業に向いているかわかっている」について肯定的に回答している。
- ・「勉強は得意である」とする生徒の方が、職業適性の認識や、社会認識において肯定的な回答が多い。

##### イ. 仕事をするまでに身に付けておきたい／身に付けてほしい力

- ・全対象において、マナー等の一般常識やコミュニケーション能力などを重視する割合が高い。企業においては、基礎的体力も重視している。
- ・全対象において、「失敗を恐れず何事にも挑戦しようとする意識」は比較的重視していない。「アイデアや新しいことを生み出していく能力」は、高校生は上位5位に入っているが、他対象は比較的重視していない。

## **(2) 進路意向**

### **ア. 進路意向 (中・高)**

- ・中学生(2、3年生のみ対象)は高校の普通科への進学希望者が半数超。「わからない」が2割弱。約7割の生徒が中学3年生段階で「普通科」を選択している。
- ・高校生は、大学進学希望者が57%、正規就職希望者は1割弱。「進学はしないが、何をするかは決めていない」、「まだ考えて(決めて)いない」、「わからない」の合計が1割強に上る。
- ・学部未定の大学進学希望者は高校1年生段階では、約25%だが、3、4年生になると3%程度に減少し、具体的な大学学部の選択者が増えている。

### **イ. 就職を希望する理由 (高)**

- ・3、4年生になると「社会人として早く自立したい」の選択者が増える。

### **ウ. 就職を希望する上で困っていること (高)**

- ・3、4年生でも「やりたい仕事が見つからない」の選択者が2割程度いる。

### **エ. 上級学校、その学科への進学希望理由 (中・高)**

- ・中学生は3年生になると「自分の学力に合っているから」の選択者が大きく増える。高校進学の希望学科別にみると、専門学科の希望者は「将来の職業に役立つ知識・技能や資格が得られそうだから」が多い。
- ・高校生は「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」が最も選択されており、普通科の生徒と比較して、専門学科の生徒は、「将来の職業に役立つ専門的な知識・技能を身に付けたり、資格をとったりするため」を多く選択している。

## **(3) 職業観・勤労観**

### **ア. 就きたい職業の有無 (中・高・大)**

- ・「決まっている」の回答は、発達段階を追うごとに増えていく。
- ・「まだ決まっていない」「まだ考えていない」「わからない」の合計が、高校生が5割弱、大学生も4割程度となり、いわゆるモラトリアムの傾向が窺われる。
- ・「勉強は得意である」とする生徒の方が、「決まっている」の回答が多い。

### **イ. 就きたい職業を決めたきっかけ (中・高・大)**

- ・テレビ、インターネット、SNSなどが多いが、特に中学生では、「職場見学」や「その職場に尊敬する人がいた」も多く、実際に職場を見ることなどの影響の大きさが窺われる。
- ・家族の話や家族の職業であることが理由となっている学生生徒も一定数おり、家族の影響力が窺われる。反面、学校・教員の影響は、中学生、高校生ともに低い。



・高校3、4年生になると、「職場見学、職場体験などで見たり体験したりした」が一気に増えている。

#### **ウ. 高校卒業後にすぐに就きたい仕事（高）**

・工業等の専門的・技術的職業従事者の希望者が一番多い。就職を希望しながら、すぐに就きたい仕事が見つからないと答える3、4年生も1割弱いる。

#### **エ. 働く目的（中・高・大・社）**

・「好きなことを仕事にするため」「得意なことを生かすため」など自己肯定感に裏づく選択については、発達段階を追うごとに低くなっている。「暮らすのに必要なお金」といった現実的な思考は、全ての対象で高い。

・「勉強は得意ではない」とする生徒においては、「得意なことを生かすため」などの回答が少なくなっている。

#### **オ. 仕事を選ぶ際に重視したいこと（高・大）**

・職場の雰囲気がいことが最も重視されている。

・中高の学年別に見ると、好きなことや得意なことを生かせることは学年を経るごとに減る傾向がある。

#### **カ. 退職・転職に関する価値観（中・高・大）**

・「自分の力をもっと生かせる職場に転職できるのなら辞めてもよい」の回答が最も多い。

#### **キ～ケ. 就業場所の希望（社会人は現在の就業場所）とその理由（中・高・大・社）**

・千葉県内での就職希望が最も多い。県内で就職した（い）理由では、「千葉県での生活に慣れているから」との回答が一番多く、県外で就職した（い）理由では、「都会の方が楽しそうだから」が多い。

### **（4） キャリア教育等の取組とその効果**

#### **ア. 学校のキャリア教育等で影響を受けたこと・効果的だと思うこと**

##### **（中・高・大・社・中学校・高校）**

・中学生・中学校教員ともに、高校の見学や説明、授業体験が効果的とみている。

・高校生においても、「上級学校の見学や説明」、「上級学校の授業体験」が多い。また、「進学にかかる費用や奨学金の制度の学習」も多い。一方で、「校内進路ガイダンス」については、高校生と高校側とで効果の認識に差が見られる。

## イ. キャリア教育等で将来を考える上で体験できればよかったこと（大・社）

・「自分の個性や向き・不向きを考える学習」「インターンシップ」「職場見学」のほか、「職種ごとの収入、休日などの労働条件の学習」も多くなっている。

## ウ. キャリア教育推進に向けての取組（学校）

・中学校、高校においてキャリア教育推進に向けて重視することとしては、「職場体験や社会人の講話」、「キャリア・カウンセリングの充実」などとなっている。

・中学校、高校がキャリア教育推進に向けて困っていることとして、「十分な時間が確保できない」ことが多く挙げられている。

・高校が就職を支援する上での課題として、「生徒が社会情勢を知る機会を十分に提供できていない」ことが一番に挙げられている。

・中学校、高校の教員がキャリア教育を推進する上で効果的な研修であると考えているものは、「総合的な学習（探究）の時間、特別活動、各教科等におけるキャリア教育の実践についての研修」、「キャリア・カウンセリングの実践に関する研修」となっている。

## （５） 県内企業の新卒採用に係る課題と取組

### ア～イ. 新卒高卒者の採用に当たっての課題と課題に対する取組

・新卒高卒者の採用が計画を下回った企業は、計画どおりに採用できた企業と比較して、「応募が少ない」「人材獲得競争が激しい」「求める人材が推薦されない」などを課題と考えている。

・新卒高卒者の採用が計画を下回った企業の65%程度が「高校への訪問」に取り組んでいるが、「採用面接前の職場見学」については、計画どおり採用できた企業の方が多く取り組んでいる。

### ウ～エ. 新卒大卒者等の採用に当たっての課題と課題に対する取組

・新卒大卒者等の採用が計画を下回った企業は、計画どおりに採用できた企業と比較して、「応募が少ない」、「人材獲得競争が激しい」「効果的な採用方法がわからない」「学生と直接話ができる機会が少ない」などを課題と考えている。

・新卒大卒者等の採用が計画を下回った企業は、計画どおり採用できた企業と比較して、「求人サイトへの掲載」や、「会社案内パンフレットの作成」に取り組んでいる。